

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・秋を迎えて快晴が続いていること、予想以上の質上げがみられていること、インバウンドが増加していること、東南アジアの経済が好調なことなど、観光地としては良い材料が多いことから、今後の景気はやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・雪の降り始める12月頃から観光需要が持ち直してくると見込まれる。年明けの春節や恒例の冬のイベントに向けて、インバウンドが増加することも見込めることから、景気は緩やかに回復することになる。
		家電量販店（店員）	・気温が下がってきていることから、チラシを出す前から大型暖房機の販売量が増え始めている。例年よりも早い動きとなっていることから、今後の景気はやや良くなる。白物家電の販売量が増えていることもプラスである。
		住関連専門店（役員）	・年初以降、売上の前年比が徐々に上向していることから、購買意欲の高まりがうかがえる。季節の変わり目に合わせて、売上が増加することも期待できるため、若干ではあるが、今後の景気は上向くことになる。
		商店街（代表者）	・減税や国の大きな財政出動など、家計の収入を増やすような明るい材料がないことから、今後も景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・今後の経済状況については、政権政党の総裁選の結果次第の面がある。
		商店街（代表者）	・年末年始を控える時期となるが、長期の物価高と経済の閉塞感により、前年を上回る来街者数は見込めない。また、物価高が続いているなか、周りから定額減税の効果で家計が楽になったという話を聞くことはほとんどない。このため、今後、消費に回る金が増えることは見込めない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入り、売上が底堅い動きを維持していることから、今後しばらくは同様の状況が続くことになる。
		百貨店（売場主任）	・急激な円高、株安の動きは落ち着いたとみられるものの、新内閣の動向や米国大統領選挙の結果などにより、今後の経済がどのように動くかが不透明である。
		スーパー（店長）	・商品価格の高止まりが続いている。今後については、家計の収入が増えない限り、劇的な変化は生じないとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・消費者の動きをみると、必要な商品を決まった店で買う傾向がみられる。今後、新規の固定客づくりに取り組んでいきたいが、売上の減少をとどめるのが精一杯とみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・今年に入ってから、来客数の減少が続いている。いまだに回復するような兆しが見当たらないことから、今後も厳しいまま変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・今後も現状と変化のないまま推移するとみられる。
		衣料品専門店（エリア担当）	・物価の上昇は今後も続くと思われるため、必要なときに必要な物を買うという客の買物の仕方は変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカーを巡る様々な問題は落ち着き始めているものの、生産や受注の再開が想定以上に遅れており、厳しい状況が続いている。観光業など、一部の業種は回復傾向にあるものの、様々な物価の上昇や高止まりにより、個人消費は弱い動きが続いていることから、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・期待していた新型車の発売が遅れることから、今後も現状維持のままで推移する。
	乗用車販売店（従業員）	・ここ数か月、新車の受注台数は一定の水準で推移している。新型車の発表などの予定もしばらくないため、今後の景気は変わらない。	
	自動車備品販売店（店長）	・新内閣が発足した。今後の景気や物価にどのような影響を与えるか次第である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔造花〕 (店長)	・冬物商材の需要が減少傾向にある。年末商材について、需要に合わせた展開ができるかどうかで、今後の景気は変わるようになる。
		高級レストラン(スタッフ)	・観光客の入込が好調なことから、観光客が減少する傾向にある11月や12月も例年ほどの落ち込みにならないと見込まれる。景気が悪くなるような要因は特に見当たらないものの、円高が進みつつあることから、外国人観光客がいつまで好調に推移するのか心配に思うことがある。
		高級レストラン(スタッフ)	・観光シーズンも終わり、今後、値上げの動きが活発化するとの話がある。物価上昇が避けられないとみられることから、今後の景気については、現状維持が精一杯とみられる。
		スナック(経営者)	・12月くらいは多少景気が良くなってほしいが、9月の状況から、10月以降の景気も変わらないとみられる。
		旅行代理店(従業員)	・現状、プラス材料もマイナス材料も見当たらないため、年内は現状維持での推移が見込まれる。
		旅行代理店(従業員)	・客単価が低下しているため、今後、来客数が増えたとしても、売上は変わらないとみられる。
		旅行代理店(従業員)	・現状の円安、物価高の動きが変わるような要因がないこと、実質賃金が大きく増えるような要因がないことから、今後も景気のやや悪い状況が続く。
		旅行代理店(従業員)	・政権政党の総裁選や米国の大統領選挙などの結果により、外部環境が大きく変化することが見込まれるため、今後の予測が難しい状況にある。
		タクシー運転手	・このところ乗務員の採用が増えており、乗務員数がコロナ禍前の水準に戻りつつあることから、これから年末に向けて、タクシーの稼働台数が前年を大きく上回ることが見込まれる。コロナ禍前よりも売上が良くなりそうな雰囲気もある。
		タクシー運転手	・これから徐々に寒くなるため、タクシーの利用客は微増するとみられる。一方、イベント関係での利用はそれほど増加しないとみられる。そのため、今後の景気は変わらない。
		タクシー運転手	・乗務員不足が顕著であり、業績好転にはまだ時間が掛かるとみられる。
		タクシー運転手	・物価上昇の影響で余計な金は使わないという動きがみられるため、今後も景気は変わらない。ただし、新政権の発足が明るい材料となることも考えられる。
		美容室(経営者)	・値上げに対する客の反応が以前よりも穏やかになっており、消費の引締め感が和らいている雰囲気がある。若干ではあるが、客の来店間隔も以前と比べて短くなっている。
		住宅販売会社(経営者)	・金利が下がらないこと、資材価格の高騰や人件費の上昇が解消されていないことから、今後も住宅市場は厳しい状態が続くことになる。
		商店街(代表者)	・年末に向けて衆議院選挙が実施されそうなことから、年末商戦への影響は避けられそうにない。選挙があると、地元から離れられない住民が多く、旅行需要に多大な影響を与えることになり、大きな減少要因となる。消費も落ち込むことになるため、これからの心配である。
		スーパー(店長)	・物価高の影響で暮らしていくだけで精一杯との話を客からよく聞く。特に米や石油の価格を気に掛けている客が多い。
		スーパー(企画担当)	・災害備品の売行きが好調なこと、新米の品ぞろえがようやく充足してきたことなど、売上面でのプラス材料はあるが、一過性のものである。今後の売上動向は、エネルギーコストのかさむ冬場に向けて厳しくなると見込まれる。
		スーパー(企画担当)	・年末に向けて、競合店との競争が激しくなることが懸念される。買上点数の伸び悩みもあって、今後の売上増加は厳しい状況にある。
		スーパー(役員)	・10月も食料品の値上げが行われるため、客の低価格志向が強まっている。そのため、今後の景気はやや悪くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・最低賃金が引き上げられたものの、商材の値上げが続いていることから、消費が上向くとは考えにくい。
		家電量販店(経営者)	・冬物商材の売行きが不透明である。商材の値上がりが進むことで買い控えが強まる懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・これから北海道は冬を迎えることになる。また、新型車が発売される予定もないため、今後の景気が良くなるとは考えにくい。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・テレビ、新聞などを通じて、様々な業種が一般用医薬品の販売を行うようになっていることで、じわじわと客が取られている。このため、今後の景気はやや悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・観光のオフシーズンとなること、人手不足が続いていることから、今後の運営に支障が出るのが懸念される。
		観光型ホテル（経営者）	・航空機燃料の不足やグランドハンドリング人材の不足により、近隣の空港で海外便が増加していないことに加えて、年末まで国内外での政治日程が立て込んでいることから、今後の集客は鈍化することになる。また、10月以降の物価上昇が見込まれることも、国内客にとってはマイナスである。
		観光型ホテル（スタッフ）	・全国旅行支援が前年12月まで行われていたことから、その反動減もあって、今後の景気は若干悪くなる。
		旅行代理店（従業員）	・今後については、観光需要の端境期となるため、国内線におけるビジネス需要の減少をカバーすることが難しくなる。また、為替相場がこれまでよりも円高にシフトする傾向がみられるため、国際線の利用客に影響が生じることも懸念される。
		タクシー運転手	・今後、消費者の節約志向が強まるのが懸念される。季節的にもタクシーの利用が落ち込む時期であり、冬が終わるまでは厳しい状況が続くことになる。
		通信会社（企画担当）	・人手不足の影響もあって、優秀なスタッフが少なくなっており、集客しても以前ほど多くの客に対応できなくなっている。また、イベント会場などでのスタッフ確保は、競合他社との奪い合いが激しくなっている。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
		観光名所（従業員）	・当地を舞台にした劇場アニメとのタイアップ企画が9月で終わることになる。これまでたくさんのファンによる聖地巡礼でにぎわったが、10月以降は話題性のある企画などがなくなるため、観光客の勢いが落ち着くことになる。
		美容室（経営者）	・中小企業に対する支援策などが行われぬ限り、今後の景気はやや悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・物価上昇率は落ち着き始めているものの、所得の伸びが物価上昇に追い付いていない。停滞している住宅市場の活性化には個人所得の増加が重要であり、景気が上向くまでしばらく時間が掛かることになる。
		住宅販売会社（従業員）	・日銀の金利引上げに伴って住宅ローン金利が上昇している。借入れ可能額が減少することで、今後、客の住宅購入意欲が低下することが懸念される。
		×	一般小売店（経営者）
×		スーパー（店長）	・政権政党の総裁選や米国の大統領選挙が終わるまで、厳しい状況が続くことが見込まれる。
×		スーパー（店長）	・客は本当に必要な商品しか買っていない。必要な商品以外を買わないように、メモなどを見ながら買物している客も多い。そのため、今後の景気は悪くなる。
×		衣料品専門店（店長）	・株価が上がリ、給与が増えているなかでも、購買意欲が上向いてこないというのが、現場の感覚である。ゆっくりと売上が回復してほしいが、ずっと減少傾向で推移しているため、今後が不安である。
企業 動向 関連 (北海道)		農林水産業（経営者）	・今後、順調に気温が下がることで、景気が良くなることを期待している。
		輸送業（営業担当）	・トレーラー輸送の動きをみると、秋以降の農産物関連製品が前年よりも増える見込まれるほか、紙・パルプや本州発の雑貨にも多少動きが出始めている。鉄道コンテナからの振替がみられることもプラスである。本州向けの生乳については、もうひと伸び欲しいところである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（営業担当）	・国内外からの観光客数が目に見えて増加している。また、各業界の人手不足が顕著であり、人件費も上昇している。これから来期の設備投資を検討する時期となることを考慮すると、今後の景況感は現状よりも上向くことになる。
		金融業（従業員）	・為替相場がこれまでよりも円高に方向転換していることから、輸入物価が落ち着いてくると見込まれる。企業においては、原材料価格の上昇が緩和されることで、収益改善の機会となる。また、実質賃金もプラスとなることで、消費マインドが改善し、個人消費が持ち直すことが期待できる。そのため、今後の景気はやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・国内の建設投資は当面堅調を維持することが見込まれる。価格の適正化も着実に進むものと見込まれる。
		食料品製造業（従業員）	・今のところ、これ以上販売量が増えるような案件が見当たらない。
		食料品製造業（従業員）	・今年1月から実施した仕入先への条件提示と担当者変更などの効果で販売量が伸びているものの、9月以上に伸びるとは考えにくい。
		建設業（従業員）	・仕事の業務内容が変わり、今までにない作業が増えているため、利益を得るには仕事量を増やさなくてはならないが、技術者不足もあって、思うようにはいかない状況にある。今後については、景気が後退する局面を迎えつつあるが、年内は踏みとどまり、現状と同様の状況が続くとみられる。
		建設業（役員）	・年度内の工事量はほぼ確定している。建設コストや人件費の上昇が懸念材料であることに変わりはないが、計画どおりの完工高と利益を確保できる見通しにある。
		輸送業（支店長）	・足元の受注状況から、今後の仕事量は現状並みで推移すると見込まれる。ただし、料金改定や人員確保が順調に進むとは考えにくいことから、収益面では厳しい状況が続くことになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・人員の確保が極めて難しくなっているため、今後も景気は変わらない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・ベース商材の動きは今後もそれほど変わらないとみられるものの、案件の引き合いが増えているため、今後への期待感はある。ただし、再開発などの話題が出ている一方で、工事の遅延、延期、縮小などの話題を聞くことも多い。実際に案件が動き出していない状況にあるため、不安を感じる面もある。
		家具製造業（経営者）	・為替相場が乱高下しているため、今後の景気はやや悪くなる。
		建設業（経営者）	・完成工事については、新規の受注がほぼなくなり、来年度の受注に向けた営業活動が中心となる。また、受注している土木工事については、積雪寒冷期を迎えて、天候や日照時間の関係から作業効率や稼働率が低下することになる。構造物工事や建築工事については、照明、冬季養生、採暖費などが必要となる。全体的に工事の採算性が落ち込むことになるため、今後の景気はやや悪くなる。
		広告代理店（従業員）	・様々な商品やサービスの値上げが続いていることから、今後の景気はやや悪くなる。日米の金利差が縮小傾向にあることで、株価にも悪い影響が出てくることが懸念される。
		司法書士	・新型コロナウイルス終息後も、ウクライナ情勢や中東情勢、円安の影響による物価高、インボイス制度の導入に伴う負担増など、マイナス要因が増えるばかりであり、今後の景気が上向くとは考えにくい。
		司法書士	・建築業界において、資材の高騰や人手不足が続いている。新築が思うように進まないとの話も聞こえてくることから、不動産登記にも少なからず影響が出てくることになる。
	x	-	-
雇用 関連		-	-
		*	*

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(北海道)		人材派遣会社(社員)	・企業の採用意欲は変わらず堅調であり、企業活動も拡大基調が続くとみられる。一方、求職者の就職活動は緩慢に見える。求人数が多いことから、いつでも就職できるという誤った認識が心理的な余裕につながっているとみられる。そのため、企業と求職者数のミスマッチは今後も続くと思われる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・基幹産業である1次産業は好調を維持している。一方、基幹産業と関わりのある2次産業、3次産業は現状維持で推移している。若年労働力の不足、中心繁華街の衰退に伴う職場の分散化などの影響が考えられる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・最低賃金が大幅に引き上げられたことで、採用控えが起こることが懸念される。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・インバウンドなどが好調に推移していることから、経済活動は活発になっているものの、物価高が続いていることから、景気は横ばい又は下振れのリスクを含んで推移している。相変わらず先行きの見通しが立たない状況にある。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・最低賃金の引上げに伴って、賃金が増加することが見込まれるが、消費に回るとは考えにくい。
		職業安定所(職員)	・当地における有効求人数は17か月連続で前年を下回っており、新規求人数も前年比マイナス7.3%と2か月ぶりに減少した。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることも懸念される。
		職業安定所(職員)	・新規求職申込件数及び新規求人数が減少している。ただし、求人数の減少が景気の悪化に直結しているわけではないため、今後も景気は変わらない。
		学校[大学](就職担当)	・求人数は増加傾向にある。ただし、マッチングが難しく、売手市場が続くとみられることから、今後も景気は変わらない。
		*	*
	x	-	-

2. 東北(地域別調査機関:公益財団法人東北活性化研究センター)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (東北)		一般小売店[酒](経営者)	・年末になるため、売行きが良くなることが期待できる。
		都市型ホテル(スタッフ)	・紅葉の観光シーズンに入るため、人の動きが良くなるとみている。
		商店街(代表者)	・紅葉シーズンを迎えるため、人の動きが活発になることが見込まれる。
		百貨店(催事担当)	・改装オープンが一段落するため、新規顧客層の増加が見込まれる。
		コンビニ(エリア担当)	・紅葉の季節になることに加え、9月に悪天候が続いた反動で人が動くともみている。景気はやや良くなるとみている。
		衣料品専門店(経営者)	・単価が高くなる冬物が売れる時期になる。
		乗用車販売店(従業員)	・繁忙期に入り売上が増えるため、景気が良くなるとみている。
		乗用車販売店(店長)	・サービス部門を含め、客に依然として節約志向がみられる。しかし、新車、中古車共に1台当たりの販売価格に改善の兆しがある。
		その他専門店[食品](経営者)	・総理大臣が変わるため期待している。
		一般レストラン(経営者)	・例年のない暑さだったが、少しずつ涼しくなり客足が少し増えている。これから鍋のシーズンに入るため、忙しくなることを期待している。
		観光型旅館(スタッフ)	・例年、年末年始の期間は来客数が多くなる。暖冬になれば更に多くなるとみている。
	都市型ホテル(支配人)	・秋の行楽シーズンの先行予約は好調で、特にインバウンドが好調である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・紅葉や雪のコンテンツへの需要に期待している。特に雪は、国内需要が落ち込む時期にインバウンドに対してキラークンテンツの1つとなる。スキーを始め、温泉や雪山でのアクティビティ需要に注目している。
		旅行代理店（従業員）	・当社宿泊契約施設の販売状況は、2～3か月先の受注状況が前月比2%増加となっている。
		通信会社（経営者）	・放送サービスは、年末年始キャンペーンを展開しコンテンツも充実するため、新規加入者数の増加が期待できる。インターネットサービスは、競合各社との顧客獲得競争になるが、放送サービスとのセット加入による割引の効果が期待できるため、若干の増加が期待できる。
		美容室（経営者）	・賃上げにより冬のボーナス支給額のアップが見込まれ、消費の拡大にも多少は貢献するとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・衆議院選挙と新首相が気になるどころだが、好調のまま推移するとみている。
		商店街（代表者）	・ハロウィーンや年末商戦のイベントでは来客数が見込めるが、物価高により購買意欲は停滞しており、消費に変化はみられない。
		商店街（代表者）	・景況感が悪い。物価の上昇により買い控えが続くとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・10月にも商品の値上げがある。政治が安定し景気の問題に真剣に取り組むリーダーが現れない限り、この状況は変わらない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・季節にメリハリがあった方が景気が良くなる業種だが、最近では気温に関係なく客は様々な商品を求めて来店している。調剤も忙しくなっており、この状況がしばらく続くとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新米が出回り始め米不足は解消されたが、米の価格が前年よりも大幅に上昇し消費者からは戸惑う声を聞く。食生活の基盤となる米の価格高騰の影響で、今後更に消費者の買い控えが進むとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・店頭が忙しくなっており、来客数に改善の兆しがみられるものの、このまま好景気になるとは考えにくい。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・天候の変化や政治の動向が見極められないと、消費者は動けず、購買意欲が湧かない。
		一般小売店〔雑貨〕（経営者）	・全国的に災害が多く、暗い雰囲気にも包まれており、景気の良い話は地方には聞こえてこない。この先の気温はやや高めで見通すとみられ、秋物の販売増加の見通しが立たない。
		百貨店（経営者）	・食料品に関しては慎重な消費行動が続いているが、衣料雑貨を中心にファッションアイテムのトレンドは顕著に表れており、活性化することを期待している。高額商品の動きは少し落ち着き始めている。
		百貨店（従業員）	・冬季の燃料費の負担や物価高による生活防衛意識に変化はなく、インバウンドの影響もないため、好転する要素はほとんどない。
		スーパー（経営者）	・10月には3000品目強の商品や電気料金の値上げが予定されており、消費のマイナス要因となる。最低賃金の改定が行われるため改善することを期待したいが、政治的な要因でしばらくは変わらないとみている。
		スーパー（店長）	・環境が大きく変わらないため、大きな変化はないとみている。
		スーパー（店長）	・最低賃金も引き上げられるため、今よりやや良くなるとみている。
		スーパー（店長）	・物価高により生活防衛意識の高い状態が続いているため、販売点数は伸び悩むとみている。
		スーパー（店長）	・米の値上げ等で生活防衛意識が強くなるとみている。
		スーパー（企画担当）	・商圏の高齢者比率が高いため生活防衛のスタイルが急激に変わることはない。食料品は気候変動や水害などによる野菜の価格高騰や加工食品の更なる値上げが見込まれているため、限られた所得や生活費を考えると急激に好転することはない。
		スーパー（商品担当）	・今後も商品の値上げがあるため、買上点数の前年割れは続くともみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・売上は毎月徐々に下がっており、これ以上の減少は生活に支障を来すため、現状維持を期待したい。
		コンビニ（経営者）	・最低賃金の引上げはあるが、景気が大きく変わることはないとみている。
		コンビニ（経営者）	・来客数は変わらないとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・年末に向けて予約販売商品を含め売上は伸長するが、来客数の微増は変わらない見込みである。
		コンビニ（店長）	・最低賃金の引上げにより人件費負担が増えるのは厳しいが、客の購買意欲が高まることを期待したい。
		コンビニ（店長）	・物価高騰で客単価は上がっているが、来客数が減っているため、売上は前年と余り変わらない。この状況は続くともみている。
		衣料品専門店（経営者）	・台風の被害が県内の一部地域に限られていたため、米や野菜の生産量に影響を及ぼすほどではなく、今後の買物に期待している。
		衣料品専門店（店長）	・厳しい残暑など天候要因により衣替えの時期に影響が出ている。衣料品業界では、仕事用のスーツやジャケットなどの買換え需要が発生しないと厳しい。この秋は厳しくなるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・出張やイベント用途などの需要は安定して推移するとみているが、ふだん着需要については先が読めない。
		衣料品専門店（総務担当）	・客の様子をみても、景気が上向きになるとは考えにくい。10月からの最低賃金引上げによる若干の所得増がどう影響するかは不透明である。時給従業員の賃上げが月給社員に影響を及ぼすのは来春と予想され、期待はできない。
		家電量販店（従業員）	・インフレも落ち着いてきているが明るさはない。
		家電量販店（従業員）	・毎月、原材料価格の高騰による商品値上げの連絡が来るため、景気が良くなるとは考えられない。大きなイベントや催しがないため、気温次第で状況は変わるとみている。冬らしい寒い気温になって、冬物商材の販売数量が増えることを期待している。
		乗用車販売店（従業員）	・販売台数は法人客は変わらないが個人客は伸びていない。この状況は変わらないとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・年末は決算期でもあり、例年販売台数は伸びる傾向にある。しかし、販売車種にばらつきがあるため、在庫管理次第では売上につながらないケースもあり得る。依然として供給が制限されている車種もあり、発注台数とメーカーの生産状況次第である。
		乗用車販売店（従業員）	・メーカーからの配車量は増加しているが、極端に増加しているわけではないため、現状維持とみている。
		住関連専門店（経営者）	・2～3か月先の分まで、今月と同程度の販売量の受注が確定している。
		住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・景気が良くなる要素が見当たらない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・秋冬商材に期待したいが、ここ数年防寒着もなかなか売れないため望みは薄い。冬場の外仕事が減少していることに加え、防寒着の需要も重量防寒着から軽量防寒着に移っており、金額も上がらない。また、競合他社が新しい商材を出すとそちらに流れてしまうことも多く、非常に厳しい状況である。
		その他専門店〔靴〕（従業員）	・各種商品の値上げに加えて、冬になると灯油などの光熱費の負担が増えるため、財布のひもは固くなるとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・長期予報は平年並みとなり、特に気温の変化がなければ、販売量は変わらず景気も変わらないとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・フード業種のテナントの一部から10月に商品を値上げするという申入れがある。物価上昇が続くため、消費者の節約志向は継続するとみている。一方で特別感や限定感のある商品への反応はあるため、積極的に企画発信することを考えている。
		一般レストラン（経営者）	・パーティーや団体のイベントの予約が徐々に増えている。これまでの停滞感が解消していくとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（スタッフ）	・良くなる兆しはみられない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・次期総理大臣次第である。
		観光型ホテル（スタッフ）	・ハラスメントを気にして忘年会の開催を見送る企業が多い。
		観光型旅館（経営者）	・今後も物価高騰が続くなどのマイナス要因があり、余り期待はできない。
		旅行代理店（従業員）	・販売量は前年を超えているが、新型コロナウイルス感染症発生前までは戻っていない。個人旅行は物価高騰で手控え感もある。
		旅行代理店（従業員）	・年末に向けて旅行シーズンになるが、天候リスクがあり楽観視はできない。エネルギー価格の高騰や為替リスクが落ち着いたとしても、新たなリスクが発生する可能性があり、先が見えない。
		タクシー運転手	・この先、忘年会シーズンや気温の低下、風雪などがあり、タクシー利用客は増えるとみている。
		通信会社（営業担当）	・景気が好転するような材料に乏しいため、現状維持とみている。
		通信会社（営業担当）	・当面景気は変わらないとみている。新内閣の施策で上向くことを期待している。
		テーマパーク（職員）	・来客数、販売量共に行き詰まっている。計画どおりの集客ができて買上率が低下傾向にある。買い控えが続いている。
		観光名所（職員）	・7月末の豪雨の影響が続いている。営業努力により団体客の予約が確保できているため大幅な落ち込みは避けられるとみているが、振り客がどの程度回復するかは不透明である。景気が良くなるとはいえない。
		遊園地（経営者）	・イベント等で集客を図るが、物価上昇の家計への影響が心配される。
		美容室（経営者）	・客の財布のひもが固いため変わらない。
		その他サービス〔寮管理〕（管理人）	・政策により経済活動が活発になることを期待しているが、この先2～3か月は変わらないとみている。
		住宅販売会社（経営者）	・戸建て住宅の受注は苦戦しているが、近県も含めた賃貸マンションの受注で計画予定金額をカバーしている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器は気温の低下に伴い暖房器具の買換えの問合せが増えるとみている。リフォームは節約志向により、緊急以外の工事を先送りする傾向は続くとみている。
		商店街（代表者）	・物価高が消費者心理を冷え込ませている。
		百貨店（企画担当）	・同業他社の改装により、化粧品などの同じブランドの出店が相次ぎ、買上客数の減少が続いている。
		スーパー（店長）	・前年は各種販売促進策を強化した結果、売上は大きく伸長したが、今年は同様の販売促進策を予定していないため、伸長は見込めない。
		スーパー（企画担当）	・新米が出たが予想以上に高値となったため、ほとんど売れていない。10月以降、米に関連した商品が全て値上げになるため、販売点数が減少するとみている。
		スーパー（業務担当）	・この先の商品の値上げや景気不安を懸念して、購買頻度が下がると予想している。
		コンビニ（経営者）	・来客数が減少傾向にあるなか、相次ぐ値上げにより買上点数も減少しており、売上も徐々に落ちている。この状況は続くとみている。
		コンビニ（経営者）	・経営者同士の会話のなかで、1番の関心は来月からの人件費である。時給を50円上げたとすると1か月で70000円の負担増となるため、厳しくなるのは間違いない。
		コンビニ（エリア担当）	・行楽シーズンだが、天候不順が続くと売上不振につながるとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・暖冬により消費が抑制されると予想している。
		衣料品専門店（店長）	・今後の生活不安から消費マインドが年々低下している。また、スーツ離れも加速度的に進んでいる。
		自動車備品販売店（経営者）	・新米の出荷が始まっているが、価格が上がっている。主食の価格が上がることは、他の消費を抑えることにつながる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔酒〕 (経営者)	・米の価格高騰の影響が悪い方向に大きく作用するとみている。政府や行政の思い切った対策がなければ、一般市場や現場で対応できるレベルではない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・激変緩和補助金事業の終了とともに販売価格が乱高下する可能性がある。販売量にも影響するとみている。
		高級レストラン(支配人)	・当面、予約受注が鈍化している状況が改善する見込みは薄い。
		一般レストラン(経営者)	・9月の3連休などで出費がかさんだことや衆議院解散総選挙があるため、人出が少なくなると予想している。
		競艇場(職員)	・今月は大口客の来場で売上が上がったが、来月以降は常連客のみとなり通常の売上に戻るとみている。
		設計事務所(経営者)	・官公庁の発注案件数は前年の約7割と低調な状態が続いているなか、民間案件を抱えていない企業によるダンピングも発生しており苦戦している。
	×	商店街(代表者)	・年末にかけて倒産の増加が見込まれる。12月までの予約がほとんど入っていない状況からも、かなり悪化するとみている。
	×	スーパー(経営者)	・最低賃金が10月から引き上げられるが、物価も上昇しており、実質可処分所得は伸びないとみている。
	×	コンビニ(経営者)	・売上は減少し、社会保険の適用拡大、最低賃金の引上げ、光熱費の高騰、除雪代の支払と良くなる要素が全くない。毎年厳しい時期だが今年は更に厳しい。辞めていくオーナーも多いと聞くと、このフランチャイズシステムをいつまで維持できるか先行きに不安しかない。
	×	一般レストラン(経営者)	・各方面から値上げの連絡が届いているが、値上げ幅が予想以上に大きい。客からは急激に変動する為替の影響を会社が受けているという話を聞く。国内外の情勢変化が重なり、当面は景気の活性化は見込めない。
	企業 動向 関連 (東北)		
		食料品製造業(製造担当)	・需要はあるものの、人員確保の問題に加え、原料や資材等が値上がりしている。人員配置の改善や収益構造の見直しが必要である。
		一般機械器具製造業(経営者)	・業種によって差はあるが、全体的に仕事量は増えつつある。このまま状況が良くなることを願っている。
		一般機械器具製造業(経営者)	・生産設備の設計に関する引き合いが少しずつ増えてきている。
		建設業(従業員)	・年内は堅調な受注が続く見込みがある。
		金融業(広報担当)	・地場の老舗の閉店が続く一方、県外からの大型スーパー等の進出が目立つ。住宅需要は新築低迷の反動で引き続き中古物件やリフォームの需要が大きい。一次産品収穫のピークを迎えるが、生育状況は順調で品質も良く、高値での取引が期待される。
	広告代理店(経営者)	・従来とは違う形での広告投下ニーズにより対応領域が広がれば、ビジネス拡大につながるのではないかと予想している。	
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕(経営者)	・県内は観光シーズンに入り、交流人口や会食機会が増加することで、外食産業は好調に推移するとみている。	
	農林水産業(従業者)	・天候は安定するとみており、台風被害などがなければ堅調な販売が見込める。	
	食料品製造業(営業担当)	・新商品投入や販売促進企画などを行っているが、既存商品の販売量減少分をカバーできていない。販売不振が続くとみている。	
	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・物価の上昇により、節約志向は続くとみている。	
	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・地方の中小企業は厳しい状況にあることに加え、業種柄、ペーパーレス化や環境問題に直面している。デジタル化や少子高齢化など地方の経済環境が変わらなければ何の進展もみられない。	
	金属製品製造業(経営者)	・この先3か月ほどは横ばいとみている。しかし、その先は減速の兆しがあるため警戒が必要である。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体の需要は取引先の状況から改善する見込みを感じる が、開発難易度が高くなるに伴い利益率が下がる可能性があり、実際にどこまで新規設備に投資するのかが不透明である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・当面は投資回収時期が続くことから、新規発注や追加発注は見込めない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・客先からの情報では今後2～3か月の間に改善する見込みは少なく、状況は変わらない。
		建設業（従業員）	・受注見込みの案件があるものの、来年にずれ込む可能性がある。
		建設業（従業員）	・人手不足や資材高騰が解消していないため、今の状況から変わらない。
		建設業（従業員）	・建設業界では少なくとも今後3年は好景気が続くともみている。
		輸送業（経営者）	・前年より増収になっているが支出も増えているため、利益は増えていない。10月からも様々な品目の値上げがあり、節約志向が更に高まることが予想される。消費の伸びに期待できる状況にない。
		通信業（営業担当）	・先行きの不透明感はあるが、顧客に積極的に働きかけていく。
		通信業（営業担当）	・物価高騰に伴い設備に掛ける費用を抑える企業が増えているため、通信設備などの受注は厳しい状況が続く見込みである。
		通信業（営業担当）	・客からの引き合い件数はそれほど多くない。この状況は変わらないとみている。
		広告業協会（役員）	・物価高がまだ続いており、消費意欲が減退しているため、大胆な販売促進策を打ち出せない状況が続くとみている。経済環境の不安定さから、広告業界の景気が上向き道筋がみえない。
		経営コンサルタント 司法書士	・政権政党新総裁の景気対策に注目したい。 ・相続登記の依頼が増えている一方、売買による不動産取引は減少傾向にある。
		公認会計士	・製造業の部品不足や人手不足等が解消されない限り、厳しい状況が続く。小売業、サービス業、建設業等については好調な状況が続くため、全体の景気はやや良い状態が続くとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・主要産業である米の収穫時期を迎え、農家も多少は潤うとみているが、景気が上向きかは不透明である。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・景気が良くなる材料は見当たらない。原材料等の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できない状況である。見積案件もなかなか成立しない。
		農林水産業（従業者）	・生産コストの上昇は、今後も解消される見込みがない。
		コピーサービス業（従業員）	・景気に後退感がみられる。破産企業が増加しており、負の連鎖にならないことを願っている。
	x	窯業・土石製品製造業（職員）	・公共事業、民間事業共に受注量が減少しており、厳しい状況は続くともみている。
雇用 関連 (東北)		-	-
		民間職業紹介機関（職員）	・食品製造の分野において、今後繁忙期に入る見込みがある。
		人材派遣会社（経営者）	・為替の先行きは不透明であり、円安が続けば飼料や原材料の価格が高騰し、企業の利益を圧迫することが懸念される。しばらくは劇的に改善することも悪化することもないとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数の推移に大きな変化がないため、変わらないとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数は横ばいか下降傾向にある。半導体関連など国内製造業に復調がみられれば、今後上向ききっかけになる可能性がある。
		人材派遣会社（社員）	・9月に入り求人数は好転したものの、求職者数は8月が前年比マイナス約30%、9月は同プラスマイナスゼロ%となっている。求人数の増加に対して求職者数の増加が見込めないため、様子見が必要である。
		アウトソーシング企業（経営者）	・受注量は前年並みで推移するとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (経営者)	・顧客の声を聞いても、当社の状況を見て、明るい材料が全く見当たらない。
		新聞社〔求人広告〕 (経営者)	・物価高の影響はこの先も続く。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・期待できる明るい材料に乏しく、しばらくは現状と変わらない。
		職業安定所(職員)	・特定の業種では人手不足感が継続しており、求人活動が活発だが、原材料や燃料費の高騰により、休業などの雇用調整を行う企業も増加傾向にある。この状況は続くとみている。
		職業安定所(職員)	・最低賃金の引上げにより人件費などのコストが増加するため、企業の採用意欲が高まらず、求人数が伸びない状況が続くとみられる。
		職業安定所(職員)	・新規求人に持ち直しの動きがある一方で、ゼロゼロ融資の返済等で資金繰りに行き詰まり、廃業や人員削減を余儀なくされる事業所も散見される。
		職業安定所(職員)	・物価高騰などの影響が続くとみている。
		学校〔専門学校〕	・求人数が増加する要因が見当たらない。
		職業安定所(職員)	・新規求人数が減少傾向にある。また、今後も会社都合による離職者の発生が予想される。
	x	*	*

3. 北関東(地域別調査機関:株式会社日本経済研究所)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北関東)		その他飲食〔ファーストフード〕(経営者)	・最低賃金の引上げ及び実質賃金の増加も伴い、個人消費が少しずつ伸びてくるとみている。
		都市型ホテル(支配人)	・宿泊部門はイベント関連で予約状況も良く、料飲部門も新型コロナウイルス感染症発生前を超える予約状況になっている。
		コンビニ(エリア担当)	・10月以降も近隣で大きなイベントがあるため、更なる来場客を見込んでいる。8月から続いているため、良くなっている。
		コンビニ(エリア担当)	・観光立地であり、冬のシーズンは中長距離の移動者や県内の移動者の増加が見込まれる。ギフト商材や飲料、食料品を中心に消費は活発となる。
		コンビニ(店長)	・クリスマス等のイベントがあるため、高単価商材が売れるようになるとみている。
		その他専門店(総務担当)	・季節柄需要が見込まれる。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・国政選挙から地方選挙を経て、景気が向上することを期待する。
		一般レストラン〔居酒屋〕(経営者)	・先の予約や問合せが若干増えてきているため、年末に向けて活発に動くのではないかと予想している。
		一般レストラン(経営者)	・秋の行楽シーズンになるため来客は増える。客単価がどうなるか予想がつかない。
		都市型ホテル(経営者)	・大人数での飲食が戻ってきている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊は前年よりも団体予約を受注しており、稼働率が90%に迫る勢いで堅調である。料飲部門も秋の行楽シーズンで、ランチストップの予約を受注しており、前年比101~104%とこちらも堅調に推移している。宴会部門は1件当たりの単価は上がっているものの、件数が伸び悩んでいる。業界団体等の利用は戻りを感じているが、個人での宴会利用の戻りは鈍い。
		旅行代理店(経営者)	・今年は繁忙期が11月末までになりそうである。
		通信会社(営業担当)	・前年と比べれば、コロナ禍が完全になくなり、外食を含めた消費マインドは高くなっている。しかし、総合的にみた消費は若干の改善にとどまるとみている。基本給のベースアップができない企業等は、ボーナスで賃上げすることから、年末消費への後押しになる可能性が見込まれるためである。
		テーマパーク(職員)	・今年は11月まで毎月3連休があることに加え、秋の寒さに後倒しされ、来園者数が伸びるのではないかと期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・売上の増加傾向が続いている。
		美容室（経営者）	・商店街のイベントがあるため、売上の足しになるかと期待している。
		設計事務所（所長）	・新政権誕生で、良くなることを期待したい。
		商店街（代表者）	・個人の収入が増えているのがみえないなかで物価の上昇が続く、天候不順も伴って先行きは暗い。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・国内では新内閣が発足したり、米国で大統領が決定したりして変化があるかもしれないが、諸外国の戦争がまだまだ終結しないため、先行きが良くなる見込みはない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・例年にない暑さと豪雨が続き続けているものの、売上は前年を上回る状況が続いている。近隣の同業店主から、学生旅行が堅調であるため、売上はこのまま良い状況が続くと見込んでいるものの、人手不足がなかなか改善されないことから、これ以上の売上を見込むことは厳しいという話も聞いている。12月初旬までは紅葉シーズンのため、売上機会の損失をなくす努力が必要な局面となっている。
		一般小売店〔酒類〕	・今はお盆や催事も終わり、売上は一服している。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・10月後半にかけて、九州物や地物野菜が出回ってくれば、相場も少しは下がってくるのではないかと。そのときに、飲食店等がたくさん使ってくれればと願っている。
		百貨店（営業担当）	・物価高は継続し、消費者の慎重な消費行動も変わらないと予想される。
		百貨店（営業担当）	・9月下旬に入り、気温の低下とともに衣料品や寝具の動きも改善傾向にあるが、価格高騰や値上げの影響は大きく響くとみている。地域的にモチベーションは強いいため、年末年始の季節の習わしに沿った食料品関連の売行きに期待を持てるものの、衣料雑貨については、これまでの傾向が継続されると考えられる。
		百貨店（店長）	・売上については堅調に推移するものの、上昇も下降もない状況である。
		スーパー（総務担当）	・米の値上がり等、物価上昇が影響している。
		コンビニ（店長）	・年齢、性別、職業等、近隣住民の構成に変化がない。
		家電量販店（店員）	・季節要因が大きく左右すると見込まれるため、気温の冷え込みが期待される。
		家電量販店（営業担当）	・今後は経済動向や生活がどのようになるのかが不透明な状況である。政治の安定が急務ではないか。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーは相変わらず輸出が好調で、生産台数が通常の120%近くで推移している。この良い傾向が地域全体に反映されるとよいが、物価上昇でどうなるか分からない。
		自動車備品販売店（経営者）	・ここ数か月、世の中や身の回りのムードが下がっている状態が続いている。企業誘致、人口増加、何かしらの経済対策等、現在から将来に向かって良くなるような、前向きな話が何もない。客も萎縮している。
		住関連専門店（仕入担当）	・為替の変動で円高に振れることで物価上昇トレンドは収まってくるとはみているが、それがどのような影響として表れるのか。今後も、政権政党の総裁選挙や、予想される衆議院解散総選挙、米国大統領選挙等の不確定要素が多く、個人消費が底上げされる要因は見当たらない。
		旅行代理店（従業員）	・円安には変わらないため、大きく影響はしない。
		旅行代理店（営業担当）	・物価上昇は落ち着きが見えず、しばらくは様子を見る必要がある。
		タクシー運転手	・地方では、なかなか景気の良い話が聞けない。会社関係で1番先に経費削減するところはタクシー代のように、飲み会でのタクシーチケットをもらえなくなったそうである。
		タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くないため、この先も変わらない。
		通信会社（社員）	・現時点では変わらないとみている。
		通信会社（局長）	・やや円高傾向に推移してきたが、消費の現場ではまだ影響は出ていない。短期で反響が出るか不明である。逆に、10月からの値上げ商材もあり、回復の実感が無い。今後の動向に期待している。
		ゴルフ場（従業員）	・トップシーズンになるため、コンペ予約も回復してきている。予約状況は前年並みだが、パーティーや賞品購入の減少が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・地方は景気浮上の兆しもない。
		住宅販売会社（経営者）	・金利上昇による特需があるかとみていたが、インパクトは小さく動きは少ない。金利も急激には変化の気配がないため、変わらない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・リフォームやリノベーションは切り口を変えながら提案を行っているものの、いまだ生活防衛意識が強く、なかなか受注に結び付いていない。
		百貨店（店長）	・現在の消費の主力になりつつあるインバウンドに、先行き不安がある。
		スーパー（商品部担当）	・良くなる理由は見当たらず、現状維持すらままならない状態が続くことが予想され、回復の兆しがみえない。
		衣料品専門店（販売担当）	・季節の変わり目もあやふやな雰囲気が背景にあり、入出が悪い。出掛けていくところがなければおしゃれもしないという繰り返しで、負のスパイラルが続いている。その先には、底なし沼が続くのではないかと、じりじりと悪くなり続けているのではないかと懸念がある。
		乗用車販売店（従業員）	・受注残の減少が続いているため、今後も厳しい状況が続く。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食に欠かせない米の単価上昇は、新米が出てきても続く様相である。また、最低賃金引上げに伴う給与アップ等、コスト増加要因がめじろ押しとなっている。一方で、取引条件の見直し交渉を継続しているが、期中での見直しは難しい面もあり、収支悪化が懸念される。
		旅行代理店（所長）	・10月も暖かいどころか暑いという予報から、紅葉も遅れそうな気配だが、オフシーズンに向かうことから、来訪者数は徐々に減少していくと想定している。そうしたなか、堅調に伸びている外国人来訪者数の減少が、最小限に収まることを期待したい。
		通信会社（総務担当）	・販売をけん引するはずの商材の新モデルが今月発売されたが、動きががたがたなく悪い。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	・結局、増税の話しか出てこないが、客はその辺りは敏感である。手取りが上がらないのに、物は買う。物価が上がったために買えないと言っている客が非常に多い。まして、食料品以外の物に関しては、出し渋っている。
	×	一般レストラン（経営者）	・生活に余裕が出てこない、外食の頻度は減る一方である。
	×	通信会社（経営者）	・物価が上昇しているため、買い控えは続いている。所得が上がっているのはほとんどが大企業であり、地方の中小零細企業は、輸出関連企業以外は仕入高騰でむしろ内情は悪い。ましてや、地方の顧客は高齢者が多く、ほとんど年金受給者となれば物が売れないのは必然ではないだろうか。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
		一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件の立ち上げ予定もあるため、現状よりは回復する見込みである。
		経営コンサルタント	・大手企業の賃上げや地方の最低賃金の引上げ等により、消費促進に多少の効果も期待できる。また、地域企業の受注動向も少しずつ持ち直す傾向がうかがえ、生産や販売面の業績回復が見込まれている。
		化学工業（管理担当）	・固定客への販売量は何とか維持しているものの、新規の引き合いがない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・大きな動きはないとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・取引先の内示からの予想では変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・取引先に値上げの申請を行っているが、なかなか思うようにはいかない。かなり厳しい状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・1か月先のことも分からないが、今後2～3か月先となるとまるで分からない。電気自動車は少し落ちてきて、エンジン自動車の方が、若干戻ってきたようである。これからは大いに変動するとみている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産が安定していないこともあり、当社の生産も計画どおりに進まず、減産傾向が続いている。いまだ見通しが立たない状況にある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況等もいまだに続いている。
		輸送業（営業担当）	・季節替わりで、冬物家電、暖房器具、こたつ、ヒーター、エアコン等は前年並みの物量を確保予定である。レジャー用品、キャンプ、バーベキュー用品、ウォーキングシューズ等の物量も確保予定である。しかし、2024年問題によるドライバー不足が発生しており、発送遅れや運賃高騰等は今後も続き、しばらく厳しい状況は変わらない。
		金融業（営業担当）	・金利のある世界への移行や人材確保の問題等があり、様子見の状況である。
		司法書士	・周辺人口が6万4～5千人の市とその周りの郡部なので、余り大きな変化はないが、やや良い状態で推移していくとみられる。
		社会保険労務士	・今と変わらないと思うが、政権政党の新総裁が大型補正予算を組めば変わるかもしれない。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・この頃は商材の動きが鈍っている。継続した値上げが響いているのではないかと。この先がやや不安である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現在取り組んでいる大型案件が終了すると、受注残が僅かになってしまうため、やや悪くなる。
		建設業（総務担当）	・全体的な仕事量がまず足りていない上に、発注予定も少ないため、大変不安である。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・中国の経済悪化が、悪くなっている1番の原因である。家電も景気が悪い。
	×	建設業（開発担当）	・今期がスタートして半年だが、公共工事発注額は増加している。今後も受注を確実にして決済まで全力を尽くしたい。
	×	不動産業（管理担当）	・社会保険加入者範囲の拡大により、会社のコスト負担が大幅に増えるため、利益率が下がる。
雇用 関連 (北関東)		-	-
		人材派遣会社（経営者）	・住宅関連や、生産関連では自動車部品、IT、AI等、天候が落ち着けば、季節的にこれらの関連業種は伸びていくとみている。生鮮食料品、米はやや心配だが、季節が落ち着けば、これらの購買力も上がってくるのではないかと。
		人材派遣会社（社員）	・当社周辺の客、宿泊施設や仕入業者の話や聞くと、経済の状況等は変わらない。これから紅葉の時期になると、例年どおりの集客はあると思うし、現在も外国人観光客がたくさん来ている。また、プラスアルファとしては最低賃金上昇の影響が多少あるのではないかと。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・今後の政局の動向次第で大きく影響を受けると考えるが、新たな方向へ向かうため、やや良くなるのではないかと。
		人材派遣会社（社員）	・サービス業や事務関係の専門職の求人依頼は多いものの、要件を満たす人材が不足している状況に大きな変化がない。
		職業安定所（職員）	・主要産業の新規求人数の前年同月比について、医療福祉、卸、小売、サービス業については増減を繰り返しているものの、木造建築の建設業については、減少傾向で推移している。
		人材派遣会社（管理担当）	・正社員の希望者が多く、派遣社員の集まりが悪いので、派遣採用数は減少する。
	×	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		家電量販店（店長）	・日本の台風シーズン終了とともに訪日旅行者が更に増える と予想している（東京都）。
		その他飲食〔カフェ〕 （経営者）	・新商品を発売し、展示会等を行うことで売上増加を仕掛け ているため、120%くらいになると見込んでいる（東京 都）。
		商店街（代表者）	・9月初めはかなりの暑さが続き、来客数が少なかった。最 近は暑さが幾らか落ち着いてきて、客も消費に対して動き出 している様子が強く見受けられる。このまま気温がまた上が らずに少しずつ下がってくると、商売には非常に有り難 い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔家電〕 (経 理 担 当)	・家電製品の売上は減っているが、リフォーム等の住宅設備関係の問合せが増えている。
		一般小売店〔文房具〕 (経 営 者)	・景気は上向き傾向ではあるが、ここ数年は年末年始商材の動きがそれほど良くないため、この先2～3か月で大きく売上が伸びることはないと考えている。当店の場合、インバウンドは来客数の2割程度だが、インバウンドは買上額が大きく、売上比率では多いときで5割を占めるため、インバウンドの増加が年末までの売上を大きく左右する(東京都)。
		一般小売店〔眼鏡〕 (経 営 者)	・米国では利下げや大統領選挙もあり、株価が上昇するとみられる。その勢いで国内株も上昇してほしい。
		百貨店(売場主任)	・これから最繁忙期を迎えるため、年末商戦の消費行動が好調のまま推移していくことを期待している。年末にかけて企業のパーティー需要も増えるとみている(東京都)。
		百貨店(企画宣伝担当)	・残暑の影響がなくなることと、ボーナス水準が高くなることを期待する。
		スーパー(販売担当)	・年末年始を前に買い控えをしているのではないかと。
		コンビニ(商品開発担当)	・為替が少し落ち着いてきており、今まで不調だった商材が売れるようになることを期待したい(東京都)。
		衣料品専門店(経営者)	・年金生活者の財布のひもは固いが、コト消費を考えて、外出着はよく見ている。
		衣料品専門店(経営者)	・多くの交流会に参加している。
		乗用車販売店(経営者)	・新型車が発表され、新車受注が更に伸びると予想している。
		乗用車販売店(経営者)	・来客数や商談内容から、客の不景気感が薄れている(東京都)。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕(営業)	・年末に向かって良くなることを期待したい(東京都)。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・新首相による新しい経済対策に期待する。
		高級レストラン(仕入担当)	・ポジティブにみれば、年末に向かって経済が活発化すると予想する。反面、商材価格の高騰がまだ続いており、鈍化要因もあるが、活発になることで好循環につながる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・これから秋になり、暮れが近づくと人の動きが活発になり、2～3か月先は今よりも少し売上が伸びてくる。ケータリングも同様に少し良くなる。
		一般レストラン(経営者)	・10月は地域の祭りやイベントがかなりあり、駅の周りに人がかなり集まる時期なので、8～9月の暑い時期よりも街が潤い、当店にも客が足を向けてくれる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・今後もしばらく変わらない(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・希望的観測であるが、良くなってほしい(東京都)。
		その他飲食〔給食・レストラン〕(役員)	・価格転嫁交渉が奏功して、利益は大幅に改善している。一方で、原材料である食材の価格高騰、最低賃金の引上げ等、コストアップ要因が今年度も相次いでいることから、利益改善もやや勢いがそがれるものと予想している(東京都)。
		都市型ホテル(経営者)	・いろいろな仕入コストの高騰が続いており、収益を圧迫している状況が今も続いている。しかし、10月、11月は近隣のコンベンション施設で大型イベントが多数開催される予定があること、また、9月は非常に悪かった宴会関係もある程度順調に入ってきていることから、多少改善されるのではないかと。
		都市型ホテル(スタッフ)	・高単価で推移していければ良い結果が期待できる。
		旅行代理店(営業担当)	・海外旅行を検討する客が増えている(東京都)。
		通信会社(経営者)	・新型コロナウイルス感染症の影響がなくなっていく。人も街に出たがっている(東京都)。
		通信会社(局長)	・少しずつではあるが営業人員の不足解消の糸口がみえてきている。試験的に間接人員の直接人員への振替えを検討中である(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営企画担当）	・年末に向けて商談数が多少増加することを期待している（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・11月の米国大統領選挙等での影響があると想定している（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・商材の刷新による販売回復を見込める（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・アフターコロナも落ち着いてきて、旅行熱も一段落し、以前のような年末年始になると予想している。必然的に自宅や近所で行動することが増えるのではないかと。
		ゴルフ場（経営者）	・2024年は暖冬傾向であるとの発表もあり、冷え込みが厳しくならなければ来場者数の増加が期待できる。ただし、政権交代や総選挙も予想され、先行きの不透明感もあり、レジャーや余暇に消費がどの程度まで向けられるのか、不安な部分が残る。
		ゴルフ場（経理担当）	・3か月後に当たる12月は例年底堅い動きを見せており、集客に関するマイナス要因は限定的とみられる。一方、素材、エネルギー価格の高止まりや、業務要員不足の長期化などの構造的問題は解決の見通しが立たず、固定費の回収に苦慮する環境は変わらないと考えられる。価格転嫁も容易ではなく、利益を創出できるような状況ではない。10月より最低賃金が5%近く引き上げられることとなり、今後も人件費負担が一層重くなることに加え、物価上昇圧力も継続すると考えており、景気改善の足かせとなることは不可避である。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・来春の問合せがきている（東京都）。
		その他サービス[学習塾]（経営者）	・新規問合せ件数が前年より増加している。
		設計事務所（経営者）	・新しい案件の話が入ってきている。また、現在打合せを始めている案件もある。
		住宅販売会社（経営者）	・当社はホテルも扱っているが、国内ホテルの宿泊料金は月に2%程度ずつ上昇しており、ホテル業界は良くなる。しかし、中小企業はまだ厳しい環境のなかにあり、賃上げができない。政府には是非中小企業への景気対策をお願いしたい。
		住宅販売会社（従業員）	・単純に今月が悪過ぎたので、通常の状態に戻ればやや良くなる。住宅ローン金利は急には上がらない雰囲気ではあるものの、子育てエコホーム支援事業の予算枠や申請期限の関係で様子を見るため、建築時期を来年度に延期する人も出てくるのではないかと。当社は前月に新商品の販売を開始したが、更なる新商品投入があるため、販売量がやや増えると考えている。
		住宅販売会社（従業員）	・物価高ではあるものの、賃金も上昇傾向にあり、景気もやや上向いてくるのではないかと期待している。
		商店街（代表者）	・ずっと良い状態が続いているため、更に加速するということはないとみている。ただし、株価が一時乱高下したり、金融政策で景気動向に大きな影響があると、まともに影響を受けるリスクがある。今の好況、特に金融資産や不動産の数値は少しバブル気味でもあり、不安ではある（東京都）。
		一般小売店[家電]（経理担当）	・食品の値上げも続いており、余り良くなる要素は見受けられない。補助金関係の仕事が見込めるため、それに期待している。
		一般小売店[印章]（経営者）	・業界は非常に厳しい。低迷した状態で安定しており、上向きになることはなかなか難しいかもしれない。
		一般小売店[米穀]（経営者）	・商品単価の上昇によって、慎重になる客、品質で買い求める客といろいろである。良い面、悪い面があるため、売上は変わらない（東京都）。
		一般小売店[生花]（店員）	・これから年末に向かうに当たり、今よりは良くなるのではないかと期待をしているが、実際はどうなるか分からない。お彼岸が済んで、後はクリスマスになるが、以前のようにクリスマスを盛大にやるのがなくなってしまい、花屋同士では、最近の12月はクリスマスがなくなってしまったと話している。売行きがどうなるか分からないため、変わらない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・富める人は富み、貧しい人は貧しいではないが、貧富の差が余りにも拡大している。当店の定価販売では高い、もっと安い店に行くという客も相当数いるので、世の中の景気は余り良くないのではないかと。SNSなどITを活用し、いろいろ努力することで、来客数が増えているが、やはり全体的な景気という点では余り上向きではないような気がする。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・当社の商材は年末だから売れるというような物ではないので、余り販売量が伸びるとは考えられない(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・消費による景気の動向はある程度良い状態で安定している。しかし、経済環境などのちょっとした変化に伴い、良い方向、悪い方向、どちらにでも振れてしまうような不安定さがある(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・政局が不安定な時期でもあり、為替や株価が上下どちらに振れるかが不透明であるため、客の消費意欲への見通しを立てることが難しい(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・国内客の高付加価値消費については堅調に推移すると予測するものの、向こう数か月で上振れする材料はない。一方で、免税売上は為替等の外部与件に左右され、当面は不安定な状態が続く、前年割れはしないまでも、現状の水準から上向く材料はない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・為替相場や株式市場が不安定であり、先行きを見通すことが困難ではあるが、インバウンドや高額品がけん引する業績好調の傾向は継続するとみている(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・今後もインバウンドは伸びるとみているが、その他の需要で期待できるものが見当たらない(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・百貨店ではインバウンドの高額品購入で売上を作っているが、駅ビルやショッピングセンターの客は、それほど高額ではなくても、買物や飲食をする時間に価値を感じており、身の回りのことを楽しむ傾向は続く(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・円高傾向に振れつつあるものの、当面はインバウンドも堅調であると想定するとともに、国内客の動向も大きく変化する要素は見当たらない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・消費者の購買意欲は変わらずに推移している。高額品の購買に対する株価の影響を懸念している(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・10月以降も様々な商材の値上げが報じられており、今後も物価上昇の影響が続く。そのため、しばらくは変わらない。
		百貨店(販売促進担当)	・物価上昇に伴う食品値上げが止まらないため、年末年始は別として、平常月は財布のひもが固い状況が続く(東京都)。
		百貨店(管理担当)	・物価高による食料品価格や物流費の高騰など、引き続き購買に慎重な傾向が続く(東京都)。
		百貨店(店長)	・秋冬のニーズが高まり上向いてくると想定しているが、様々な物の値上げが続いているため、景気を大きく押し上げるまでには至らない。
		スーパー(経営者)	・物価の上昇により、外食から内食へと節約志向が続いている。
		スーパー(経営者)	・景気がどうもやや不安定なので、先行きが読めなくなっている(東京都)。
		スーパー(店長)	・円安やコスト増加によりまだ値上げが続くため、低価格志向にシフトしていく状況は変わらない。
		スーパー(店長)	・消費者には節約志向が依然として根付いている。値上げの影響も大きく、物価の上昇に所得が追い付いていない。物価と所得の上昇バランスが取れてくるまでは、同様の状態がしばらく続く(東京都)。
		スーパー(総務担当)	・良くなる材料がない。
		スーパー(営業担当)	・単価の上昇が続くものの、販売量並びに来客数減少によってトータルで相殺される状況が今後も続く(東京都)。
		スーパー(仕入担当)	・米国の金利低下、日本の金利上昇により円安傾向になり、再びデフレに戻るという不安から、消費が冷え込む可能性がある。
		スーパー(食品担当)	・株価が上げ止まり、ドル高継続から景気動向は変わらない(東京都)。
		コンビニ(経営者)	・これから年末の予約が少しずつ入ってくることで、売上が多少伸びる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・これといった好材料もないため、変わらない。
		コンビニ（経営者）	・近隣には高齢者が多く、収入が増える要素がないため、どうしても買える金額に限られ、買えない様子である。購入する物、金額や量からも、そのように見受けられる。
		コンビニ（経営者）	・政治の先行きが不透明になっているが、足元の人の動きや販売量にそれほど変化はみられない。秋から年末に向けてイベントも多くあり、それなりに人出はあると見込んでいる（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・10月頃までは気温が高いままで推移する予測のため、売上も変わらずに推移する（東京都）。
		コンビニ（エリア担当）	・給料が増加しないと売上も伸びない。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数は変わっていないため前年比では良いが、現在と比較すると伸びは鈍化している。米国大統領選挙の結果によって景気の波が決まり、客のお金の使い方が変わってくる。
		コンビニ（エリア担当）	・店舗の売上に大きな変化はないものの、客単価の落ち込みが懸念される（東京都）。
		コンビニ（従業員）	・現状の安定した状態が続けばよい。悪くなっていることはないため、新商品や季節商材、新たな取組や売り方によって良い状態を維持していくことが大事である。
		衣料品専門店（経営者）	・我々の業界は原材料が輸入であるため、円安の影響がまだ残っている。猛暑が続いているため、秋物商材が動かない。冬物商材に関してはどういう動きになるかまだ分らない。
		衣料品専門店（店長）	・マーケットのレンタル志向が増えているなか、所有する付加価値で消費者の購買意欲を高める一方、マーケットの変化に対応してレンタル事業への展開も事業拡大には必至である。しかし、レンタル事業のノウハウ等はゼロ状態のため、一定の時間が必要となる（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・諸物価の上昇で衣料品需要の先が見えない。
		家電量販店（店長）	・実質賃金が物価上昇を上回らなければ、本当の景気回復にはならない。
		家電量販店（店長）	・まだまだ物価上昇が止まらない。来客数は安定しているものの、この状況がしばらく続く。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っている。販売は余り芳しくなかったが、前月から今月にかけて少しずつ伸びてきている。
		乗用車販売店（総務担当）	・中古車市況を維持できれば現状維持できる。
		乗用車販売店（渉外担当）	・新商品の投入はないため、販売面での変化はない。
		乗用車販売店（営業担当）	・都心の販売店に勤務しているが、カーシェアリングが台頭しており、車は借りるという考えの人が増えている（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界は国策の補助金事業の効果により活況を呈しているが、経済の基礎的条件は良くないため、今後の見通しは不透明である（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・売上が伸びない。努力しても変わらない。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・販売単価が上昇しているため、販売数量が回復すれば景気は良くなる。しかし、現在の客の様子をみると、しばらくは販売数量は伸びず、景気も変わらない（東京都）。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・原油価格が下がり、為替は円高傾向のため悪くはないが、燃料油価格激変緩和対策事業の年内終了がどのように影響するかの見通しが立たない。金融関係については、今後利上げが予想され、中小企業の資金繰りが懸念されるが、今すぐ影響を受けるとは考えられない。したがって、現状とさほど変わらない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	・法人宴会を中心に繁忙期を迎えるに当たり、来客数の大きな改善は期待できないため、品質の良い物を適正価格で提供しながら、少しでも単価上昇を図れるように、飲料等も含め推奨販売を強化するよう指導している（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・オケージョン、外出機会の増加などにより、予約数、来客数が増加していても、コストの改善がみえないため、厳しい状況は継続する（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経理担当）	・国内外の選挙結果が不安要因となるが、悪化要因は見当たらない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後もやはり物価高が続くだろう。円相場が円高にも円安にも振れ、株価は下がったりしているが、総理大臣が変わることによって経済は随分変わってくる。良くなるのか悪くなるのか、何ともいえない。
		一般レストラン（経営者）	・働いている人たちに返ってくるような、権利等だけでなく外で使おうという気持ちになるような経済対策をしてもらいたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・前年に続いてこの時期は新型コロナウイルス感染症も落ち着いて繁忙期ということもあり、宿泊、宴会、レストランいずれも販売量が好調に推移している。政権政党の総裁選挙後に総選挙があれば、宴会を中心に延期の動きが予想され、販売量に影響する懸念はあるものの、うまく上積みができているため、最小限にとどめたい。
		旅行代理店（経営者）	・政治も様変わりしているようだが、この先良い方向に向かっているとはとても考えられないので、足踏み状態ではないか。
		旅行代理店（経営者）	・旅費の急騰にもかかわらず動く客層は多いが、貧困層増加などの報道もあり、平均すると見通しは全く読めない。
		旅行代理店（従業員）	・値上げや物価高に歯止めがかからず、賃上げは一部の大手企業に限定されているため、外出控えが予想される（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・旅行需要は堅調であるため、見積りの機会はコロナ禍を経て平常に戻りつつある。物価高、特に宿泊費の上昇が顕著であることが懸念材料である。
		旅行代理店（営業担当）	・政治リーダーの交代に伴った動きによって変わってくる（東京都）。
		タクシー運転手	・暑さが続き、例年どおりに秋らしい気候になっていないため、多少は利用が続くとみているが、この先は、政権政党の総裁が変わり、どのような動きになっていくか見当も付かない（東京都）。
		タクシー運転手	・2～3か月後の景気は余り変化はないとみている。流しの利用客は減っているが、携帯電話からタクシーを呼ぶアプリからの利用客がやや増えている。天候が悪くなったり鉄道のトラブルがあると、アプリからの配車依頼が非常に増える（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・為替や株価の動向が不安定で、先行きにも不透明感があり、大きな景気の回復は見込めない。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思う材料がない。
		通信会社（経理担当）	・サービスが売れ続けることがなかなかなく、数か月で大きく変わる材料がない。
		通信会社（管理担当）	・契約者数の減少を抑えられておらず、更新工事の2期工区の完成には時間を要するため、その間は少なくとも芳しくない状況が続く予測である（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・郵便料金改定、賃料の上昇などコスト面の増加が懸念されるが、DXの堅調な需要と増減などで均衡する動きになる見込みである（東京都）。
		観光名所（職員）	・回復傾向が鈍化している（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・消耗品やエネルギー価格の高騰、人件費の上昇圧力が強く、利幅がどんどん小さくなっている。
		パチンコ店（経営者）	・賃上げの期待が膨らむものの、諸物価の上昇でプラスマイナスゼロの状況が続く。
		競輪場（職員）	・日本経済に良い兆しが全くみえない。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（従業員）	・年末に向けて前年と同様の動きはあるとみられるが、大きな変化はない（東京都）。
		その他レジャー施設 [映画]（営業担当）	・政局次第で景気は変化するとみられるが、現状では変わらないと考えている（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（経営企画担当）	・値上げラッシュが一段落すれば大きく消費が落ち込む要素は少ない。一方で、更なる値上げが続く場合は、国内客の消費が追い付かず、余暇、娯楽産業を中心に景気後退もあり得る（東京都）。
		美容室（経営者）	・来月に祭りがあるため、幾らか良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス 〔フィットネスクラブ〕（エリア統括）	・物価の上昇、不安定な円相場、慎重な金利上げから、上向く要素は見当たらない（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・やはり人手不足による影響が当事務所では最も大きいとみている。仕事は取れるものの、それをこなせる人員が足りない。いろいろと求人はかけているが、思うようにはいかない。政治の不透明感もある。総理大臣が変わり、少し良くなるのではないかという気もするが、やはり社員の動向が気掛かりである。
		設計事務所（経営者）	・現在手掛けている業務はいずれも長期継続案件のため、今後しばらくは景況感に変化はない。
		設計事務所（職員）	・少なくとも上向くと考えられるような傾向や情報はない（東京都）。
		住宅販売会社（従業員）	・客の動きに変化はない。
		住宅販売会社（総務担当）	・金利上昇局面が住宅ローンの変動金利に連動するのか不明である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・仕事の話が少なくなっている。悪い状態がずっと続いているため、何とか打開しようと考えているが、客からも良い話を聞けず、全体的に仕事量を抑えなくてはいけなくなっているという話も聞いている（東京都）。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・米国大統領選挙、政権政党の総裁選挙の結果次第である。現状では悪くなると予想している。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・祭事が落ち着き、年末に向けてイベント等が減るため、若干落ちる。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・仕入価格の上昇がまだまだ続くなか、良いイメージができていない。
		一般小売店〔傘〕（店長）	・商材の値上がり率が一段落し、客の価格に対する抵抗感は少なくなっているが、一方で、修理依頼が増えており、新規購入を控えている様子がうかがえる。
		一般小売店〔書店〕（総務担当）	・売上の伸び悩みはこれから先に影響を及ぼす。売れなかった本は全てが版元に返品できるとは限らず、売れないまま在庫を抱えるリスクがある。返品できたとしても、送料は当社負担などの悪い条件で行うことになる。どちらの場合でも、人件費が発生する。プラスの要素が思い当たらない（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・異常気象に伴う猛暑の影響や集中豪雨などにより、食品の不良による値上げは当面の間続く。一時期と比べ円安傾向も一段落している。株価については、政情不安に伴い一時乱高下するなど、将来に向けて不安要素が残る。新しい内閣となり、総選挙を始め、海外に目を向けると戦争の更なる拡大の心配など、不安要素が多くなってきており、徐々に景気に陰りがみえてくる（東京都）。
		百貨店（営業担当）	・現状の来客数、人流動向、買上率などからしばらくは踊り場状態とみている。また、インバウンド実績の伸び率は、引き続き前年比2けた増加で推移するものの、9月以降大きく鈍化しており、今後は期待できない（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向から、やや悪くなると予測する（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・円高が更に加速するとインバウンドの減速が長期化し、景気を押し下げる（東京都）。
		スーパー（経営者）	・一般的には単価が上がっている分、客の買い控えがある。この先もまだそういう状況が続く、余り良くならないのではないかと。10月に強力な競合店ができるため、いろいろな手を打って何とか売上を確保しているが、先行きの厳しい状況は続く。
		スーパー（経営者）	・米の大幅値上げなどがあり、可処分所得が増えないことには、ますます食品の買い控えが進む。食品スーパーの景気には期待できない。
		スーパー（ネット宅配担当）	・商圏内にディスカウントストアの出店があり、価格競争が厳しくなる。
		コンビニ（経営者）	・来客数が若干減少している（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・10月より従業員の最低賃金が更に上昇するため、利益圧縮につながり、危機的状況が加速しそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・国内全体としては分からないが、当店は大手ではないので、やはり大手に客を取られるなど、厳しい業況に陥っている。また、最低賃金の上昇により、来月から時給が上がるが、コンビニ業界としてはそろそろフランチャイズの限界かというところまでできており、経営はかなり厳しくなる。来年辺りは倒れていくコンビニも増えていくのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・前年を下回っている要因は分からないが、客からも余り良い話を聞かないし、買上額も減少しているため、やや悪くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・来客数が前年を下回る日が出てきており、販売数が厳しいところを単価で補っている状況にある。数か月という長い目でみると、この状態が続いていけば下向いていくのではないかと。
		衣料品専門店（店長）	・仕入価格の上昇は若干落ち着いたものの、物流コストや人件費の上昇は当面続く。
		衣料品専門店（従業員）	・まだまだ先行きの見通しは悪く、台風や地震などの自然災害も多いため、余り良くならない。
		乗用車販売店（営業担当）	・例年どおり反動減が予想される。
		乗用車販売店（販売担当）	・首相が変わることによって、株価が下がったり円高に振れたりしており、今後についてはやや悪い方の予想が出てきている。新首相が政治改革、経済対策などにきちんと対応し、良くなることを期待したいが、今の市場をみる限りはやや悪くなる（東京都）。
		乗用車販売店（営業）	・車がなかなか売れずに、その分仕事も増え、結果的に効率の良い活動ができていない。
		その他専門店〔雑貨〕（営業担当）	・円安が少しずつ落ち着いてきているためか、外国人観光客による購買単価が緩やかに低下している。この先も同様の傾向が続く（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・止まらない物価高が、貯金の目減りなど家計に徐々に影響しており、支援策がないと景気が冷え込むのではないかと（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・インバウンドが落ち着いてきていることから、減少に転じる懸念がある（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・社会保険料の加入条件が10月から拡大されたため、出費を控える傾向になると予想している（東京都）。
		タクシー運転手	・あと3か月余りで今年も終わるが、やはり食料品を始めとした物価上昇の影響が大きく、生活に支障を来しているという話をよく聞いている。大変な年末になりそうである。
		タクシー運転手	・暑さはやや落ち着き、少しずつ涼しくなり、駅待ちをしてもタクシーに乗らず歩く人が多い。無線、アプリは午後、深夜共に鳴ることが減っている。全体的にタクシーの利用が少なくなっている。
		タクシー（団体役員）	・ライドシェア等の車両や、乗務員の補充が進んでいるため、稼働台数が増えれば乗客の取り合いになる。
		通信会社（経営者）	・商談中の機器案件の受注が増加しなければ良くならない（東京都）。
		通信会社（社員）	・引き合いはあるものの、成約までいかないことが続いている。全体的に様子見の状況ではないかと（東京都）。
		通信会社（社員）	・下期に向けて営業人材が足りず、顧客の純減が見込まれる。サブスクリプションビジネスのため、インパクトが数か月間に及ぶ（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・客単価が下がっている一方で人件費が高騰しているため、業績は今後やや悪くなる（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・仕入単価や経費は確実に上昇しているものの、客への単価には反映できず、利益は先細り気味である（東京都）。
		ゴルフ場（従業員）	・地震や大雨による被害からの復興には、かなりの時間とお金が掛かる。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・物価は上がり、需要が下がり、周りに商業施設が増えない状況は続いている。現時点では景気上昇は見込めない。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・売上の減少に対応できていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	一般小売店〔家具〕 （経営者）	・今後も景気は悪くなる。一般消費者の消費行動が変わってきており、家具業界は非常に影響を受けている。物価も上がっているし、景気が良くなるとは考えられない（東京都）。
	×	その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・今後も各種値上げが続くため、財布のひもがより固くなる。
	×	一般レストラン（経営者）	・11月の米国大統領選挙後、もし前大統領が復活した場合には、経済運営の方針が大きく転換するため、悪くなる。もしそうなった場合は、3か月の移行期間に何か大きなイベントが起きる可能性が考えられるため、新体制に完全に移行する1月20日までは安心できない。順調に移行できれば好景気になるが、米国市場は既に今そういう様子ではないか。
	×	通信会社（管理担当）	・物価上昇の影響により、販売量は横ばいである。
	×	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・授業料が高いと辞めていく生徒が多い。景気が良くなるとは考えられない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材需要の先行き情報を集めていても、決まりそうな案件が少ない（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・12月までは受注量が多くなる見込みである（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・新規客からの問合せが増えてきている。
		その他非製造業〔商社〕（従業員）	・会社の実績からみて、良くなる（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・これからイベント等が増えてくるが、台風などの天候が心配である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の内示により、受注量増加が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・大型再開発物件が見込まれているため、やや良くなる（東京都）。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・AI関連製品の受注拡大が見込まれ、今後徐々に我々の景気に直接的な影響を与えることになると予想している。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車メーカーの売行きは順調であり、今のところ予想どおり順調な生産が続く見込みのため、良くなる。
		建設業（従業員）	・良くなることを願っている。政権政党の総裁選挙も行われるため、次期総裁に期待している。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・これからイベント警備の需要が多くなるため、上向く。
		食料品製造業（経営者）	・長期的には上がるとみているが、やや停滞している（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・例年、11月から12月は年賀状印刷の受注があるが、今年はそれが見込めない。10月1日から日本郵便が郵送料金を値上げするため、年賀状のはがきでの発送がますます少なくなると見込まれる。したがって、上向くとは考えられない。変わらないか、場合によってはやや悪くなる（東京都）。
		化学工業（従業員）	・製品の受注は多少増加するとみるが、年末に価格改定を検討しているため、大きくは増えない。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・3か月先の景気は基本的には大きく変わらないとみているが、総選挙があったり、年末に向けて値上げの動きが出てきた場合は、若干悪くなる可能性を含んでいる。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・中国の不動産不況に底入れ感がみえず、化粧品容器の受注は回復する気配がない。
		金属製品製造業（経営者）	・忙しい顧客、取引先とそうでない取引先との割合が悪い意味で変わらない。トータルで考えると変わらない。
		精密機械器具製造業（経営者）	・大手企業の設備投資を聞くと、まだ還元はない。受注量増加の話も聞いているが、どこも人手不足のため無理な操業はできず、様子を見ながらの対応となっている。
		建設業（経営者）	・物価が上がっているにもかかわらず、賃金が上がっていないため、流通はますます停滞していく。当分の間はこのような状況が続いていく。物価高うんぬんというよりも、賃金が上がらない問題についていろいろ考えなければならない。
		建設業（経営者）	・特に変わりはない。
	輸送業（経営者）	・輸送量が少量で安定してしまっているため、短期間での状況改善は望めない（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・直近の景気は読みにくい。単価を気にする消費者が依然として多い（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・繁忙期のため荷主の国内出荷量は少しずつ増えている。しかし、輸出はなく、今後も厳しい状態が続く予想である。
		通信業（従業員）	・株価は上がりつつも、誤差の範囲内と考えている（東京都）。
		通信業（広報担当）	・当面は余力強くない状況が続く見込みである（東京都）。
		金融業（従業員）	・一部の小売業では、店頭の上は減少しているものの、その分インターネット販売の売上が増えているとか、個人向けの販売は大手通信販売サイトなどのネットショップに注力しているといった声を聞く。売上増加のため非対面販売に期待したり、注力する企業も増えてきている（東京都）。
		金融業（従業員）	・物価の上昇が今後も続くものの、賃上げが実感できないため、しばらく景気の上昇は見込めず、変わらない。
		金融業（営業担当）	・不透明な景気動向から現状程度の推移が見込まれるものの、政策金利の引上げによる金利負担増加により、企業の資金繰りが更に悪化しかねない。新型コロナ関連融資の元金、金利負担に耐え切れなくなった企業が出始めており、今後、原材料価格の高騰等による採算悪化により体力を失った企業が厳しい状況に追い込まれてしまうことを懸念している。
		不動産業（経営者）	・入居者などの健康状態は本当に分からない。気を付けてまい進あるのみである（東京都）。
		不動産業（経営者）	・地価、建築コストの上昇が止まらない。物件も少なく、新築戸建て住宅の販売は苦戦が続くそうである。当社のテナント入居に変化はない。
		不動産業（従業員）	・工事費、労務費の上昇が続いているが、不動産販売価格も高値を維持している（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・この先、テナントの入退きの動きはないため、景況感是不変変わらないが、資材等の価格高騰や人手不足により、メンテナンス費用が上昇傾向になっていることは気になる（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・受注量と工数を適正にしなければ、受注量を増やすことも業績を上向かせることもできない。この問題は2～3か月では解決できない（東京都）。
		税理士	・国内景気は米国や中国の景気に大きく左右されると考えているが、首相が変わり、外交関係もどう動くか分からない。中小企業の現状は悪いが、人手不足、材料高などはこの先も変わらないとみているため、景気は変わらない（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・良くなる材料がない。
		税理士	・円安が収まり、株価もそれなりに安定しているため、これ以上の活況は望めないのではないか。総選挙が近く、経済政策への期待が大きくなり、政権を担う政党の力の見せどころがくる。
		経営コンサルタント	・好転するような材料がない。大手企業の下請への発注価格見直しについて、行政の指導もあってか一部では動いているようだが、ほんの一部の話であり、多くの下請製造業は低価格のまま推移している（東京都）。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・再三の値上げでクライアントも疲弊しており、値上がり分の転嫁を認めてもらえないケースが多々ある。
		化学工業（総務担当）	・業界の例年の傾向として、これから低需要期に向かう。
		金属製品製造業（経営者）	・客からもらった内示資料によると、減産傾向が顕著となっている。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・物価高などがサロンへの客足を遠のかせている（東京都）。
		建設業（経営者）	・職人不足と物価高により、中小企業はまだまだ厳しい。
		建設業（営業担当）	・人手不足により受注可能性のある物件に手が出せない。人員が確保ができた時点で案件がある保証がないため、現状よりやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（総務担当）	・ 今後は金利上昇により融資返済が困難な取引先が更に増えるとみている。また、最低賃金も上がっており、その分の利益は確保できていない。今後も材料、資材、人件費の上昇が見込まれることや自然災害の増加、景気対策よりも増税感の方が強いことなど、景気回復の兆しが無い。全体的に悪化傾向になる（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・ 依然として下半期に向けての大型宣伝費の発注が少ない（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・ 来月以降も追い掛けるように原材料等の値上げが続く。また、取引先工場の移転、閉鎖などもあり、低迷した状態がしばらく続くものと見込まれる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・ 最近また円安に振れてきているためか値上げの話が多いが、サラリーマンは今回の定額減税がないと実質賃金が減っているため、今後の景気への影響が心配である（東京都）。
	x	*	*
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社（営業担当）	・ 年度末に向けて直接雇用化の動きは加速する見立てである（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 例年の季節要因でもあるが、年度末に向けて人材市場が動き、求人数、求職者数共に増加する傾向があるため、今年も例年同様に増加が見込まれる（東京都）。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・ 年末に向けて案件が増え、売上が増加する企業が多いように見受けられる。周辺企業等の景気が上向いている様子がうかがえる（東京都）。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 全く新しい事業を展開する会社や他業種展開をする会社からの依頼は結構ある。現在の主要事業を辞めて、新事業を始めようという会社や、他業種で募集を出そうという会社は幾つかあり、その計画がこの2～3か月、年内から来年にかけてはかなりある。
		職業安定所（職員）	・ 製造業については受注は順調で、求人募集をしている。若年者を雇用、育成したいが、若年者の応募者が少ないという話をよく聞く。
		人材派遣会社（社員）	・ リスキリングが進まず、求職者の流動化が起らない（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 総選挙を控えており、関連業務の求人は多少増加するとみられるが、全体としては大きな変化はない。
		人材派遣会社（社員）	・ 求人数は今後もおおむね横ばいと推測される（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・ 派遣ニーズは堅調、人材紹介ニーズは伸び悩みという構図が当面続く。特に、人材紹介は良い人がいればといったポジションが増え、成約に至る期間が長期化する傾向も出ている（東京都）。
		人材派遣会社（営業担当）	・ 良くなっていく根拠がみえてこない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・ 良くなる兆しが全くない（東京都）。
		求人情報誌製作会社（営業）	・ 政権政党の総裁選の最中だが、総理大臣が誰になるかで景気が一時的に少し動くのではないかと。ただし、求人数自体は比較的安定しているように見受けられるため、良くも悪くもない状態から変わるとは考えられない。
		求人情報誌製作会社（所長）	・ 変化するきっかけが見えにくい。
		職業安定所（職員）	・ 有効求人数は令和5年6月から14か月連続で前年同月を下回っており、回復の動きがみられない。
		職業安定所（職員）	・ 足元の新規求人数や充足数については、前年同月と同程度で推移している。引き続き企業からも人手不足という声が聞かれるが、最低賃金の上昇や社会保険加入の適用拡大などで中小企業を中心に負担感が増しており、どちらに向かうともいえない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ 企業業績は製造業、建設業など全般的に大きな変動は見受けられない。今後もしばらくは同様の状況が続く（東京都）。
		人材派遣会社（経営者）	・ ITやシステムへの設備投資を行わない中小零細企業の業績悪化が懸念される。
	人材派遣会社（社員）	・ 物価が上昇しているにもかかわらず、給与は据置きのため、徐々に悪くなっていく（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・人手不足に関する需要と供給のバランスが取れていない（東京都）。
		職業安定所（職員）	・飲食料品や資材等の物価上昇が止まらない。
		職業安定所（職員）	・物価高騰及び社会保険料の負担増加に伴い、労働者の手取り収入の減少及び企業の利益圧迫が予想され、個人消費及び設備投資が控えられるのではないかとみている。特に、在職求職者では、転職希望理由として、物価高騰の影響により今よりも高い給与を希望することを挙げる人が増えている。
	x	-	-

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)		タクシー（経営者）	・人の流れが増えている。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・遺族などには待たなしで対応しなければならないことがいろいろとある。生前、本人が大切にしていた物やお宝だと考えていた物も、残された人にはゴミでしかない物も多い。こうした整理依頼が増えてきている。
		スーパー（副店長）	・新しい総理大臣誕生に期待し、少しでも景気が良くなってほしいという願いを込めている。
		乗用車販売店（経営者）	・これまで新車の長納期化を嫌って買い控えていた客が動き出している。給料の上昇傾向も新車購入の後押しになっている。
		自動車備品販売店（従業員）	・繁忙期になり、来客数の増加が見込まれる。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・12月は当然、日本酒は動く月になるため、今月よりはやや良くなる。ただし、米の価格が1.5倍に上がっており、日本酒も米の加工品であるため、その頃には必ず価格が上がる。これまで体験したことのない上がり方をするために、そのときの客の反応が一升瓶から720ミリリットルに鮮明に変わるのか、飲食店の動きがどのように変化していくのか、不透明である。
		高級レストラン（経営者）	・10月の予約状況から、一旦弱まった景気も回復基調になっていくとみている。
		一般レストラン（経営者）	・猛暑続きの異常気象も落ち着き、多少なりとも動きが活発になることを期待する。
		観光型旅館（経営者）	・比較的都市部からの個人客は安定して利用している。今後はインバウンドに対しても営業をして、増えていくことを期待している。
		観光名所（職員）	・国内客が増えている。旅番組等のメディアでの取上げが効果を上げているようである。
		商店街（代表者）	・年末にかけて、値上げ通知が連発している。秋は食のイベントが続くので期待したいが、買い控えが心配である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・現状に慣れたのか慣らされたのか、必要な物は必要なときに購入するケースが多い。消費意欲を刺激する施策や政策でもないと、購入意欲を上げることはできず、景気の良くなる要因は見当たらない。
		百貨店（経理担当）	・ターミナル駅の再開発による競合商業施設の開業の影響で、食品は引き続き苦戦が想定される。また、50歳以下の客の来店や購買が引き続き厳しいと、全体の売上に影響が出ると推測する。
		百貨店（営業担当）	・10月から食品、電気料金等が値上げされるため、なかなか消費が増えるとは考えづらい。ただし、富裕層については、順調に販売金額が増えている。
	百貨店（店長）	・当社のような地方小都市の百貨店では、顧客の高齢化や若年世代の百貨店に対する厳しい考え方もあり、なかなか売上は上向くことがない。今後2～3か月で大きな変化は見込めず、策もない。	
	スーパー（経営者）	・最低賃金上昇がエネルギーコスト上昇分と相殺して、消費が崩れないと有り難い。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・物価上昇で、油、野菜、米、資材等、何でも高くなっている。一部の客では、今まで700円でお茶付き弁当の注文だったところ、1000円でお茶付き弁当の注文に変更したところがある。有り難いことだと、感謝している。
		コンビニ（経営者）	・日が段々と短くなり徐々に寒くなるが、売上の的には昼間の時間帯が良いため、今後の売上はそれほど伸びないとみている。
		コンビニ（店長）	・客は比較的、安価な物を買っているようだが、本当に低価格な物に手が伸びる客も中にはいるが、多くの客はお金がないとか景気が悪いという割には、最安値の商材には手を出していないようなので、余り変わらないのではないかと。
		家電量販店（店長）	・客が節約傾向にある状況は変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・正直全く分からない。政権政党の総裁選挙や米国の大統領選挙の結果が、景気に良い影響を及ぼしてくれるのか。薄い期待感が湧いてこない。
		スナック（経営者）	・7月中旬辺りから余り良くないが、理由が分からない。変わりそうな雰囲気もないので、しばらくはこのままではないか。新型コロナウイルス感染症は落ち着いているようで影響はないとみている。
		スナック（経営者）	・日によって、ばたばたと忙しくなる日も若干増えてきているが、相変わらず客が帰る時間が早い。翌朝のアルコールチェックが原因だとみている。この問題は簡単に解決できないため、先行きはなかなか期待できない。
		旅行代理店（副支店長）	・客の動き、来客数や受注状況を踏まえると、需要の高い状態は維持される。
		タクシー運転手	・昼間は病院や買物客の利用があるものの、それ以外の客は、タクシーの利用を控えている。涼しくなってきたが、これからどうなるか不安である。
		通信会社（社員）	・新規サービス提供エリアの拡張で、多少の加入増加は見込めるが、例年、転居で解約も増える時期であるため、トータルではほぼ変わらない見込みである。
		通信会社（社員）	・現状維持が精一杯なのではないか。
		遊園地（職員）	・パブリシティの獲得や、イベントの開催等の積極的な集客施策の実施や情報発信を行い、より多くの客が来園することを期待している。
		ゴルフ場（副支配人）	・季節的に予約数は伸びているが、相変わらず平日の集客は難しい。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・連日の猛暑で外出を控えていた人も、行楽に良い季節となり、屋外レジャーが盛んになると外出するため、我々には厳しい状況になってくるのではないかと。
		その他サービス[クリーニング]（経営者）	・27日の政権政党の総裁選挙やその後にあるといわれている解散総選挙、米国の大統領選挙等、政治によって変動する不安がある。
		住宅販売会社（経営者）	・中古別荘の販売状況は、シーズン当初に比べてやや鈍化傾向にある。
		商店街（代表者）	・今後の見通しを変える要件が何もない。
		スーパー（店長）	・値上げは続いており、買上点数は今までと同様か下がるとみている。
		コンビニ（経営者）	・夏場と違い、秋は売上が下がっていくのは、例年のとおりだが、9月は休日のたびに台風や雨が続き、前年よりも来客数が1日平均40人程度減少し、当然、売上も低下した。天候だけの原因ではなく、周りをみていると物価が上がって大変だと言っている人が多いので、これからは期待は余りできない。
		コンビニ（経営者）	・物価高で、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・競合店のリニューアルが完了し、新たな競合店の建設計画があるため、やや悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・人件費が上がる分、経費も増えるため、その分の売上が増えないと困る。いまだ物価高は続き、賃金が上がっていても景気が良くなることにつながらない。
		コンビニ（エリア担当）	・金利の上昇により、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（スタッフ）	・新たな世界遺産登録により、旅行客の増加が期待できるが、現在のところ大きな変化はない。どちらかという、10月以降の値上げ報道等により、徐々にぜいたくや外食等にお金を使うことを自粛する人が増えている。そうしたことから、この先は悪くなるのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・10月1日から多くの品目において値上げがあり、個人消費はかなり落ちるとみている。旅行に関しても多少控えめになるのではないかとみている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・現状の来客数の推移や例年12月後半から1月後半にかけてはビジネス客の動きが悪くなるため、売上も比例して悪くなる。
	x	*	*
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-
		食料品製造業（営業統括）	・新酒の時期になり、工場来場者数の増加、スーパーや業務店からの例年以上の注文を期待している。
		金属製品製造業（総務担当）	・半導体需要が回復し、やや良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年末に向けたボーナス商戦が始まり、消費に期待を持っている。ただし、消費財への支出が抑えられる可能性もある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今月は受注の動きが良く、この状況はもうしばらく続きそうである。しかし、物価高や資材関係の値上がりが顕著で、懸念材料はある。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・9月もお彼岸過ぎによやく暑さが収まってきた。これくらいよいよ装飾品を身に着けるシーズンに入ってくるため、催事も多く、売上は多少回復できるのではないかとみている。
		金融業（経営企画担当）	・物価高騰が一段落し、資金繰りの改善に期待する。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・季節商材の受注見込みはあるものの、店頭販売品の受注増加は一時的で、例年冬季は受注減少も予想されるため、見込みは薄い。
		電気機械器具製造業（従業員）	・10月、11月と値上げが続くため、今後も対応が厳しい。
		建設業（経営者）	・人手不足だが、受注は順調で景気は良いようである。
		金融業（調査担当）	・日本銀行の金融政策の変更に伴う為替等、实体经济への影響が読みにくく、観光関連業への影響や原材料価格の状況等を注視していく必要がある。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・新聞販売や折込出稿については、前年比微減が予想される。旅行収入は前年比30%プラスが予想されるものの、為替の円安傾向により、海外旅行の受注は皆無に等しい。
		食料品製造業（総務担当）	・店頭での販売状況が余り良いとはいえない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・紙代や資材関係が10月1日から値上げされるため、当社の顧客に、書面で値上げを依頼する。やや厳しい状況が続くとみている。
	x	食料品製造業（製造担当）	・再値上げを予定しているが、大手が全く価格を上げてこないため、価格差が開き、販売量は間違いなく落ちる。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
		職業安定所（職員）	・県内主要産業の1つである半導体製造装置関連業の回復が期待できる。
		人材派遣会社（営業担当）	・購買意欲に変化はないため、変わらないのではないかとみている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人を探る製造業において、現場作業者は採用に旺盛な企業が多いものの、設計や品質等の求人は、年齢、経験等の条件が厳しく、慎重な姿勢を崩していない。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が前年同月比で5か月連続減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		商店街（代表者）	・ボーナスが増えそうと言う人が多い。
		乗用車販売店（従業員）	・全体の雰囲気や客の様子からみて期待できる。
		美容室（経営者）	・近頃は朝晩涼しくなり、これまでパーマやヘアカラーに来られなかった客がぼちぼち戻ってくる見込みである。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・日米での大きな選挙も終わり見通しが立つ。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・個人旅行者の動きは完全に回復している。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新政権が発足して、経済対策を重視してくれることを期待する。
		スーパー（販売担当）	・年末商戦に入ってくるため来客数が増える見込みである。
		コンビニ（店長）	・クリスマス商戦に向けた動きは、前年より多少手応えがある。クリスマスの売上が良ければ、景気が上向きといえる。
		衣料品専門店（売場担当）	・例年、これから衣替えの時期は新しいスーツを着て仕事をしたい人が増えてくるため、景気は上向き見込みである。
		衣料品専門店（売場担当）	・ここしばらくは必要最低限の商品購入に限られていたが、最近では高額商品を購入する客が少しずつ増加している。
		家電量販店（店員）	・多少値段が上がっても長く使える良い商品を選ぶ傾向がある。
		乗用車販売店（経営者）	・年末に向けて生産再開する車両も多くなってくるため、期待したい。
		乗用車販売店（従業員）	・震災等の大きな災害が起これなければ、例年同様年末に向けて景気は上向いていく。政権与党の総裁交代による新たな政権に期待したい。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・物価高の影響次第だが、前年比でみて足元はおおむね堅調であるため、年内はある程度回復が見込まれる。
		高級レストラン（経営企画）	・年末に向けて消費動向の変化を期待している。忘年会等は少人数であるが、問合せは増えている。
		観光型ホテル（支配人）	・11月以降の予約が好調である。
		旅行代理店（経営者）	・客の様子が新型コロナウイルス感染症発生前に戻ったような印象を受ける。
		タクシー運転手	・秋が深まりコンサートやイベントが増えてくる。社用や遊びで夜の歓楽街も人出が多くなるため、やや良くなる。
		タクシー運転手	・段々と涼しい季節になり秋のイベント等で客足は確実に増えてくる。結婚式やいろいろなパーティーなどがたくさん開催されれば、年末に向けて出足にはかなり期待できる。
		テーマパーク（職員）	・秋の行楽シーズンになり会社の旅行も増えている。
	テーマパーク（職員）	・10月に最低賃金の引上げがあるため、やや良くなる。	
	パチンコ店（経営者）	・最低賃金の引上げもあり、年末に向かって購買意欲が増し、景気は良くなっていく。	
	その他レジャー施設〔鉄道会社〕（職員）	・乗降客数は新型コロナウイルス感染症発生前の水準に回復しており、雑貨等の販売も上向いている。今後の利用客増加が期待できる。	
	商店街（代表者）	・上向きにも下向きにも変化する要因がない。	
	商店街（代表者）	・家電の価格上昇がインフレ率より高い。高齢者世帯の年金は増えておらず、実質の可処分所得は減ることになり、景気が良くなるとは考えにくい。	
	商店街（代表者）	・米を始めとした食品や日用品等の価格は日々上昇している。所得が思ったほど上昇せず日々の生活で精一杯で、余暇に金が回っていない様子である。まだまだ景気の上昇とは程遠い。	
	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・良くなる要因は見当たらないが、現状以上に悪くなる材料もないため変わらない見込みである。	
	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・10月には酒類・飲料の値上げが実施されるため、飲食店への飲料の販売はますます厳しくなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・現状を見ていると到底良くなるとは考えられない。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔生活用品〕 (販売担当)	・暑さが落ち着き行楽シーズンになると行楽イベントには人が集まるかもしれないが、特に週末は、街中の店舗では厳しい状況が続くと予測する。
		百貨店(売場主任)	・来客数は余り変わらないなかで、若年層の来店が増えている。ただし、なかなか買上には至らず試着のみで帰る人が多い。閉店間際に来店して商品を履いてスマートフォンで検索している。電話で秋冬商材の問合せもあるが、未入荷で回答できず、後になって商品が入ってきてても売上につながらないパターンもある。年配客の来店もあるが、シニア層に向けた商品が減っている。
		百貨店(総務担当)	・政権政党総裁選も終わったが、今後どのような経済対策を採るのか方向感のみえず、消費に勢いをもたらす材料も見当たらない。米を始めとした食料品の価格高騰や10月からも多くの品目で値上げが予定されており、ガス・電気料金の補助も終了する見込みのため、消費へ回る金も減少傾向となる。直近の大きな株安も懸念され、富裕層の高額消費にも期待感が乏しい。
		百貨店(企画担当)	・足元の消費動向はインバウンドを含めて高額品と食料品への特化が顕著であり、中間所得層向けの商材やブランドは厳しい傾向が続いている。今後の社会情勢の変化にかかわらず、この傾向は続く見込みである。
		百貨店(経理担当)	・景気を引き上げるような好材料も引き下げるような悪材料も共に見当たらない。富裕層やインバウンドの消費は高水準のまま推移し、中間所得層では生活防衛的な消費性向が続く。
		百貨店(営業担当)	・取り立てて需要が上がる要因は考えにくいだが、来客数は維持できている。ただし、季節商材の売上動向は例年以上に危惧すべき状況にある。
		百貨店(販売促進担当)	・やや円高方向に振れているため、若干インバウンド需要が下降する可能性はあるものの、すぐに大きな変化が起こるとは想定しにくい。
		百貨店(販売担当)	・とにかく夏が長くて秋物商材が動かない。動かない期間が例年より長引いて厳しい。
		百貨店(販売担当)	・インバウンド需要は引き続き大きいとみているが、景気回復までは見込めず、現状維持である。
		スーパー(経営者)	・異常高温が続き、野菜や果物は生育不良や傷み等、良品の仕入れが困難な状況が続いている。安定した仕入れが可能にならない限り、収益増加は見込めない。
		スーパー(店員)	・米騒動で、入荷する米の量と種類が増えている。当分は継続して購入されると予測する。
		スーパー(支店長)	・個人消費は芳しくない状況が続いている。雇用や所得上昇への期待感がないまま、生活費に直結する光熱費は上昇し、さらには食料品の価格高騰や為替、金利の動きも家計に影響する状況になっている。したがって、この先の見通しも厳しい。
		スーパー(販売担当)	・値段が多少高くても良い物は売れる。年末年始はその傾向が高まるとみられる。
		スーパー(販売担当)	・衣料品を中心に季節商材は初動が遅れている。暖冬の予報が出ているため、防寒用品の動向もどうなるか不透明である。値上げに対する消費者の慣れもあり、それほど買い控えはない見込みである。ただし、米は心配である。
		コンビニ(企画担当)	・現状より良くなる要因は見当たらない。今後、急激な円高になればインバウンドが減少する可能性はあるが、しばらくは現状維持の見込みである。
		コンビニ(エリア担当)	・高温などで季節感と異なる天候は今後も続く見込みで、通常の季節トレンドで売れる商品とは少し違う動きをするため、期待を上回るような売上増加はないと考える。
		コンビニ(店長)	・大きな選挙の結果次第で変わる可能性はある。
		コンビニ(店長)	・やや良くなることを期待したいが、手ごたえが乏しい。暑さによる米の価格高騰など不安材料がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（本部管理担当）	・政権政党の新総裁決定等のトピックスはあるが、この数か月で小売業界のトレンドが大きく上下することはないと予想する。我が国の経済に不透明感はあるが、今後の見通しとしても売上は前年比100%前後という足元の状況が続く見込みである。
		衣料品専門店（経営者）	・実質的に秋がなくても冬が寒くなればよいが、暖冬になると単価の高い商品が売れなくなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・株価が大きく上下して先行きに不安はあるが、賃上げや減税により給与の手取額は増えているため、現状維持の見込みである。
		乗用車販売店（経営者）	・取り立てて良くなる要素は見受けられない。
		乗用車販売店（経営者）	・今のところ大きく影響するような要因はない。新内閣の政策方針による今後の影響に注視していく。
		乗用車販売店（経営者）	・給与所得は上がったものの、インフレや金利動向などの見通しが不透明であるため、消費が盛り上がる様子はない。
		乗用車販売店（従業員）	・これから更に生活に係る物価の上昇や電気料金等のインフラに関わる支出が増える。年末に向けても消費者の視線は日常生活に必要な物に向かい、なかなか高額品に目を向ける機会は少ないと予想する。しかし、冬のボーナス支給もあり、購入検討のきっかけにもなる。この頃には景気が落ち着いているよう望みたい。
		乗用車販売店（従業員）	・展示会を開いたところ大変な活況で、まだ車への関心の多さはみられる。ただし、現場では一様に、車の金額がこれほど高いことに驚いたと言われた。車種によっては住宅より高額になっている物もある。軽自動車は堅調だが、予想したほどの売行きではないのも気掛かりである。
		乗用車販売店（販売担当）	・新型車の発表があり、徐々に受注が増える可能性がある。円安傾向が止まる可能性もあるため、もしかすると少し期待できるかもしれない。
		住関連専門店（営業担当）	・建築単価の上昇で住宅リフォームや新規物件が減っている。ただし、小規模の改修工事や新築店舗の工事などは増えているため、現状維持が見込まれる。
		その他専門店〔書籍〕（社員）	・為替の動向が不安定であるため、輸入商材の販売に影響が出る見込みである。
		一般レストラン（経営者）	・天候は回復し野菜等の収穫は見込まれるが、社会全体の景気はまだ上向きとはいえない。
		一般レストラン（経営者）	・例年どおりに推移していくとよいが、先は見通せない。
		一般レストラン（従業員）	・業種によって給料の差が広がっている。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・足元の状況に慣れて、コロナ禍を乗り越えたように考えていくしかない。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・前年末から夏頃にかけて続いた円安に伴う値上げは、消費者に受け入れられてきた。しかし、9月に実施した値上げは仮需要が120%程度と予想以上に多く発生し、反動減以上に販売数量、金額が減ると予測する。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
		都市型ホテル（経営者）	・予約状況に特に大きな変化は見受けられず、引き続き需要は堅調な見込みである。
		都市型ホテル（営業担当）	・良い状態が続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・更に良くなると期待したいが、仕入価格の再値上げが広範囲に控え、人材確保も困難で収益を圧迫している。
		旅行代理店（経営者）	・ネット販売が進み、中小旅行代理店ではインバウンドの取り込みができる代理店とできない代理店との差がますます広がっていく。また、日本人客の高齢化によって旅行回数が減っていくため、穴埋めができるかできないかで差が付いてくる。
		旅行代理店（経営者）	・8月から9月にかけて暑さと台風など天候の悪さから旅行気分が盛り上がらない状況が続いたため、10月から11月頃も余り期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（経営者）	・秋の行楽シーズンに入ってもしばらく暑い日が続き、あっという間に年末になりそうな勢いで、年末年始の国内旅行は既に満室のホテルも多い。インバウンドがこの冬に1番行きたい国で日本が上位というデータもある。一般人にとっては、国内旅行も高嶺の花になりそうな様子である。富裕層はシーズンごとに旅行に出掛け、余裕もあるようにみえる。
		旅行代理店（営業担当）	・物価高騰が止まらないため、旅行代金の値上げが続く見込みである。旅行申込みもやや鈍化しており、今後の動向次第である。
		通信会社（企画担当）	・新内閣の経済政策に期待したいが、どこまで実効性ある政策を打ち出すことができるか、実効性がないまでも皆が期待を持てるような動きをしてもらえればと望むが、今の雰囲気ではまだ分からない。
		通信会社（サービス担当）	・家庭用回線はメタル線の老朽化により、光回線への移行が始まっている。光回線が主流となれば、光回線の導入により利用者が増え、景気も良くなると予測する。
		通信会社（営業担当）	・輸入機材は数年先の値上げ通告も多く、見通しが立たない。
		テーマパーク職員（総務担当）	・集客がずっと伸び悩んでいる。開催中の秋季イベントによりばん回を回っていきたいが、屋外でのイベント計画が多いため、今後も気候の影響を心配している。
		ゴルフ場（支配人）	・2か月先の予約数は、前年同日比でやや減少している。11月はゴルフシーズンであるため入場者数が大きく減少することはないが、景気は余り良くないまま継続すると判断する。物価の上昇が続くなか、今後は入場者確保と売上を伸ばす取組が重要になる。
		美顔美容室（経営者）	・キャンペーンセール商品の販売が年末まで続くため、既存購入客の再購入が期待できる。10月には新たな美容商品のキャンペーンが始まるため、販売量は維持できる見込みである。
		美容室（経営者）	・物価上昇で食費や光熱費など何もかもが値上がりするなかで給料は余り変わらない状況であり、先行きが明るくなるようなニュースもなく、景気は当分変わらない。
		美容室（経営者）	・食品も光熱費もガソリンも値上がりしている。生活費が下がらない限り、客足は遠のいたままである。
		住宅販売会社（従業員）	・材料価格の高騰に伴い販売価格が上昇している。
		住宅販売会社（従業員）	・新首相の施策に期待したい。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・リフォーム工事の引き合いは多少あるが、元請事業者の新築受注状況を見ると、余り芳しくない。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・衆議院選挙の動向にも左右されるが、おおむね変化が小さいと想定する。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・このまま物価高のまま閑散期に入ると心配である。
		商店街（代表者）	・米の値段が3割から4割ほど上がっており、主食がこれほど値上がりすると、なお一層財布のひもは固くなる。この状況では購買意欲が上がるはずもなく、社会のムードも余り良くない。
		スーパー（店長）	・防災対策商品を購入後は買い控えの様子がみえる。
		スーパー（店長）	・商品の値上げ要請が継続的に来ている。
		スーパー（店長）	・電気代補助の減額で、買い控えによる買上点数の減少が考えられる。
		スーパー（店員）	・10月以降も担当カテゴリーでの値上げが続く。し好品であるため、値上げが特に影響を及ぼす。
		スーパー（店員）	・10月もいろいろな品物の値上げが予定され、また、先日の台風の影響で九州からの農作物は出荷量が少なくなると予想している。大雨が続いたことによる葉物野菜の価格高騰も懸念している。
		スーパー（店員）	・いろいろな物が値上がりするなかで更に値上げが続く、ますます購買の様子が悪くなっていく。
		スーパー（総務）	・10月以降の食品値上げや物流費の値上げが報道で取り上げられている。更なる物価上昇の要因がめじろ押しで、景気が良くなる見込みがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・米や飲料を始めとする食品の値上げが、景気に影響を及ぼす可能性がある。物価上昇は避けられず、新内閣がどのような経済対策を打ち出すかが試される。
		コンビニ（エリア担当）	・利上げと円安で景況感の悪化が進むことに加え、最低賃金の上昇や電気代高騰によるコスト増加が事業者の負担となる。
		コンビニ（店長）	・10月から郵便料金やスポーツ紙などの値上げもある。最低賃金の引上げというポジティブな要因もあるが、更に支出が増えることがネガティブな要因と判断する。
		コンビニ（商品企画担当）	・食品の値上げに起因する消費マインド低下により、景気の伸長は厳しいと判断する。
		衣料品専門店（店長）	・暖冬の影響が予想され防寒衣料の売上減少が見込まれる。本来、冬場は客単価が大きくなるため影響が大きい。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・生活必需品以外は、なかなか動かない。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・今年も暖冬予想のため、冬物の売行きが悪いと予測する。
		家電量販店（営業担当）	・政権政党の総裁選後の動きから、景気には不安感がある。
		乗用車販売店（従業員）	・人気車種の多くが販売停止になっており、購入できない状況がまだ続いている。
		乗用車販売店（営業担当）	・予約ばかりの注文でいつ売上を計上できるかの保証もない。その間に値上げもあるようで、値上げ分は自社が被ることになり、今後の見通しは不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・常連客が亡くなる人がいたり、自身も体調不良になっていたりして悲観的にならざるを得ない。
		観光型ホテル（経営者）	・秋の行楽シーズンだが予約状況は前年を下回っている。先行きの不安感で企業関係の動きが鈍くなっている。社員の価値観も多様化しており、福利厚生としての社員旅行や宴会、決起大会等の需要が伸び悩んでいる。
		旅行代理店（営業担当）	・団体旅行の実施時期が10月から11月に集中しており、その反動で12月頃からは取扱が減少する。
		観光名所（案内係）	・客足は天候不順の影響という一言に尽きる。また、10月からは様々な値上げがある状況で、景気が良くなるとは考えられない。
		理美容室（経営者）	・客の話では、賃金は上がらないが物価は上がって苦しいという声が多い。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・調達先より10月からの価格改定連絡があり、4月に続き更なるコストアップとなる。介護保険の福祉用具貸与は商品ごとにレンタル価格の上限が決められているため、調達コストだけでなく人件費、資材費、保管費など商品管理コストの上昇分は、そのまま利益を削ることになる。
		設計事務所（経営者）	・現時点で種まき案件がないと、2～3か月先にはつながらない。
		設計事務所（職員）	・円安の傾向が変わらず、進展がみられない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・リフォーム案件は増えてきたが、物価高騰でコストがかさみ施工主は決断できない。物価高が落ち着くまで、まだ厳しさは続く。
	×	住宅販売会社（経営者）	・景気が良くなるような話がなく、消費者は住宅を買い控えている。この先も様々な物の値上がりが続く、不安な状況である。
	×	住宅販売会社（従業員）	・どこかが倒産すると連鎖的に倒産する会社が増えるため、不安である。
企業動向関連 (東海)		-	-
		化学工業（営業担当）	・半導体向け電材需要は緩やかな回復傾向にある。特に研磨剤の需要は大きく回復している。
		建設業（役員）	・9月終盤から客の動きが出てきて、来場者数も増え、契約の見込みも出てきたので期待したい。懸念事項としては、短期金利の上昇で10月から住宅ローン変動金利が上がる影響がどう出るか気になる。
		金融業（従業員）	・為替変動の問題もあるが、足元では比較的将来に向けて景気回復の動きが自動車産業を中心に目に見える。
		金融業（従業員）	・年末に向け需要が高まることから、景気が良くなると期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		公認会計士	・原油価格の下落もあり、輸入価格の押し上げに伴う国内物価上昇リスクは落ち着きつつある。国内景気についても、実質GDPが前期比プラスになるなど年末にかけて個人消費も回復傾向が予想される。米国や中国の政策が景気重視に転換していることもプラスの要因である。ただし、新総裁の政策によっては、景気が悪化する可能性もある。
		その他非製造業〔ソフト開発〕(経営者)	・新内閣に代わり世の中の停滞感が変化することを期待する。いろいろな制約や規約を取り除いて、動きやすい社会にしてほしい。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(顧問)	・異常気象のため農産物や果樹の不作が予想される。他の産業も物価高の影響を受けている。新総裁に代わっても目新しい政策は見いだせず、この先の景気も低調なまま変わらずに推移する。
		化学工業(総務秘書)	・景気に影響する特段のトピックはないため、景気は変動しない。米国大統領選挙や衆議院選挙等が株価に影響を与えても、長期にわたる可能性は低いと考える。
		一般機械器具製造業(営業担当)	・北米の大手電子機器受託製造企業で余り投資の動きがなく、商談の進みが遅い。
		一般機械器具製造業(経営管理担当)	・受注量、販売量の見込みから判断した。
		電気機械器具製造業(経営者)	・海外の動向も景気に影響するが、現時点では特に今後に影響しそうな事象が見当たらない。
		輸送用機械器具製造業(管理担当)	・良くなる材料がない。
		建設業(経営者)	・政治の動きが落ち着かないと、国民は不安でリフォーム工事等をする気にならない。
		輸送業(経営者)	・コストアップを理由とした運賃の値上げは、これ以上認められない印象である。
		輸送業(従業員)	・荷量が以前の状態に戻るかどうかによる。戻ることを見据えて2024年問題対策を進めてきたので、戻るよう期待している。
		輸送業(従業員)	・自動車関連や土木建築など経済の下支えをしている企業の動きが活発にならないと景気は良くならない。一部の企業だけでは、日本全体の景気回復にはつながらない。
		輸送業(エリア担当)	・受注状況の予想から判断した。
		輸送業(エリア担当)	・営業部署には10月以降の下半期に新規案件や既存顧客からの増量出荷の話は入っていない。これからに期待するが、下半期を迎える時点での状況から、特に景気が変わる見込みはない。
		輸送業(エリア担当)	・取扱荷物の輸送需要は増えているが、輸送コストを抑える動きも同時にある。2件分の輸送の時間を調整して効率的に納品することでコストダウンを図っている。
		通信業(法人営業担当)	・労働力不足のなかでも賃上げが進まないなかで、暮らしに身近な物品やサービスが値上がりし、庶民は厳しい生活をしている。
		金融業(企画担当)	・発注企業が下請企業の労務費増加に配慮するようにならないと、大企業は潤っても当面中小企業の業績は改善されない。中小企業の業績が改善されないと景気は良くならない。
		不動産業(経営者)	・今後は雨の日が少なくなる予報であり、外出や遠出をする人は増加する見込みである。今後も売上は増加し、前年を上回る状況が続くと予測する。
		広告代理店(制作担当)	・秋に向けてのイベント等では広告予算の増加は期待できず、現状維持が続く。
		会計事務所(職員)	・決算ボーナスを出す顧問先は増えているが、固定資産の買換えなど設備投資を行う顧問先は少なく、景気に影響を与えるほどではない。
		会計事務所(職員)	・円安は少し落ち着き、仕入価格も一通り値上がりし終えた感があり、後は販売価格へ上乗せできるかどうかである。コロナ禍の収束以降も消費者の財布のひもは依然固いままであり、この先景気が良くなっていくとはなかなか考えづらい状況である。
		食料品製造業(社員)	・秋に予定されている食品価格の上昇により消費者の財布のひもは更に固くなる。嗜好品である酒の消費は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営企画担当）	・値上げが続く状況のなかで、買い控えが徐々に広がっている。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・最近コストダウンの要求が多くなっている。値下げという形ではなく、安価に提供できる素材や、同価格でも寿命を長くできる素材の提案要求が多い。対応できなければ後々は販売価格の値下げ要求になりそうである。
		金属製品製造業（従業員）	・受注引き合いがやや減少か小規模になっているのが気掛かりである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・人材が会社で長く働けるような法整備を期待したい。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・11月頃から受注量が下がるという情報が入っている。
		行政書士	・足元の減少を維持する。
	×	食料品製造業（営業担当）	・受注量が減少傾向である。販売も伸びていない。
	×	鉄鋼業（経営者）	・客からの見積りなどもなく、一般的に先行きの話がない。
	×	金属製品製造業（経営者）	・引き合いが引き続き減少している。樹脂価格や加工費の値上げの要請があるが、従来の価格を提示する引き合いが出ている。
	×	通信業（総務担当）	・テレビからは災害のニュースが流れ、スーパーでは必要最低限の物しか購入できない世の中である。消費はどんどん低調になり、不安感から金を蓄える意識が強くなる。
	×	通信業（法人営業担当）	・もはや景気低迷に慣れてしまった感さえある。街にはますますアジア圏の人が増え、日本経済を日本人が建て直すことは難しくなっている気もする。物価高に対応できない家計からは教育費や遊興費が削られ、日本経済の将来に与える影響を考えると、明るい気持ちにはなれない。
×	新聞販売店〔広告〕（店主）	・最低賃金の上昇でますます中小零細企業の体力が落ち、雇用促進や人材育成には手が出せないのではないか。	
雇用 関連 (東海)		民間職業紹介機関（営業担当）	・一定程度の人が年度末転職を目指して転職活動を始める時期であり、採用決定数の増加につながると予測する。
		人材派遣会社（社員）	・忘年会のシーズンまでは良くはならない。
		人材派遣会社（営業担当）	・政権政党の総裁選の結果は、すぐに景気には影響しないと予測する。
		人材派遣会社（営業担当）	・現状が良いので、これ以上の好況は想定しにくい。製造業の技術開発に対する熱量低下を引き起こす要素は、今のところ想定しにくい。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・下期に向けて受注状況も改善している。マイナス要因は物価高であり、最低賃金の上がり幅も大きく、利益が少なくなっている。受注量が改善しても利益改善に限界がある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今後数か月では、景気状況も求人状況も大きな変化は予想されない。長期的にみれば、東京一極集中により人口減少と採用難は加速しており、地方の見通しは暗い。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・市内中心部の商業施設が撤退した。前向きな話題ではなく景気が良くなるとは考えにくい。
		職業安定所（所長）	・企業の人手不足感は変わらず、年内に求人募集する予定の企業が多い。
		職業安定所（職員）	・中小企業を中心として人手不足への対応のほか原材料価格の高騰、10月からの最低賃金引上げによる影響等、厳しい状況が続いている。まだ景気回復の兆しはみえない状況である。
		職業安定所（職員）	・求人側からは人手不足という声が届いていることから、景気は持ち直している状況が続いているとみるが、一部の産業では、取引先からの受注が減少となっている。
		職業安定所（職員）	・原材料費の上昇、為替の変動や今後の消費者マインド推移など見通しを立てるのが難しい。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・求人数は増加傾向にあるものの、求職者数とはギャップがあり、求職者のスキルとのミスマッチで採用につながらない状況が相変わらず続いている。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・採用日程が残る一部を除き、前年とほぼ同時期の前月で就職希望者全員が内定を得ており、前年と同様の動向である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新卒学生に対する求人動向について、今後2～3か月で大きく変化する要因はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣業（営業担当）	・米騒動の今後にもよるが、食料品のほか様々な値上げが収まらない限り、景気は回復しない。飲食店では値上げも限界で売れても赤字のため、閉店を検討する経営者も多い。
		人材派遣会社（営業担当）	・求職者が減少し、特に若年層が減っているためシニア、女性や外部人材の活用とDXツールや業務委託の拡大等で人材不足をしのぐ中小企業が増加傾向にある。
		職業安定所（職員）	・10月からの社会保険適用拡大等を回避するため事業廃止する企業等が増えており、企業を取り巻く環境が更に悪化している。
	x	人材派遣会社（社員）	・好転する兆しがない。来年4月の転職に向けた動きが始まる年明けまでは回復しない。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北陸)		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・投資が活発になりつつあり、諸経費の高騰はあるものの、国内市場の成長には期待を寄せる。
		高級レストラン（スタッフ）	・年間でも大きな売上を占める秋の行楽シーズンや忘年会の時期に向け、特に県外からの団体予約が好調である。
		一般レストラン（統括）	・10月から12月にかけて、北陸は食を中心とした観光、インバウンド需要や出張が大きく増えるとみている。
		競輪場（職員）	・日米での選挙が終わると、結果にかかわらずひとまず状況は落ち着くとみており、混乱がない限りは景気は緩やかに上昇していくと考える。
		商店街（代表者）	・国内外で指導者の交代が行われ、今後の期待感もあるものの、冷めた目でみている人の方が多いようで、現時点では景気が良くなる要素は見当たらない。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・これまでは暑さも鍋物を食べる雰囲気ではなかったが、最近少し涼しくなってきたため、鍋料理に使う牛肉などの販売が増えることを期待している。
		百貨店（売場主任）	・政権与党の新総裁決定を受けて9月30日の株価が大幅に下がったことや直近の円高傾向と10月の値上げラッシュが不安材料ではあるものの、インバウンドや富裕層の購買動向には大きな変化はないと見込んでいる。
		百貨店（販売担当）	・今後も高単価で収益の高い衣料品は、苦戦が続くとみている。インバウンドも少なく、都心のような動きにはならない。また、低気温予報があるが、防寒品の動きも慎重になると考える。一方、食などは継続して好調を維持しているため、食を強化した販売の動きにならざるを得ない。低利益の食の販売が伸長することにより、店舗収益は伸びにくい状況が続く。
		スーパー（仕入担当）	・10月から食品の値上げが続くなかでより価格競争が進むが、来客数に大きな変化は起こらないとみている。
		コンビニ（店舗管理）	・景気が好転する要素が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高や客の節約志向は当分続くと考えられるため、なかなか売上は好転しそうにない。
		衣料品専門店（経営者）	・現状のやや良い状態が維持されるとみている。気温が高く、秋冬商材の販売が現状より大幅に上向きになるとは考えられない。
		家電量販店（店長）	・新商材への入替えや決算セールがあり、故障前の買換えが多い期間のはずだが、例年より商品を購入する客が少ない。
		家電量販店（本部）	・この先、補助金がなくなり、売上をけん引する商品はなくなるが、来客数は回復基調であり、現状維持できるとみている。ただし、消費者マインドは決して良いわけではないため、景気が良くなるとまでは考えていない。
		乗用車販売店（経営者）	・物価高と同様に新車価格も上がっており、しばらくは高額商品の購入には慎重な様子が見える。
		乗用車販売店（従業員）	・物価上昇が続いているためか、販売数が減少している。
		乗用車販売店（役員）	・状況の変化が見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（役員）	・本格的な繁忙シーズンに向けて、商材確保、販売促進投下を早期展開しているが、客の反応は鈍いように見える。各種製品の値上げにより、客は生活必需品でも吟味してから購入する慎重な姿勢がみられる。直近では明るい兆しは何もない。
		住関連専門店（役員）	・本来であれば年間でも繁忙期となる頃であるが、ここ数か月の動きから来客数や売上が増加するとは考えにくく、厳しい状況が続くとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・10月から追い打ちを掛けるように値上げがあるため、消費者の財布のひもが一層固くなり、悪循環に陥るのではないかとこの恐れがある。
		一般レストラン（店長）	・能登豪雨の被害は受けなかったが、風評面で影響が出ないか心配している。
		スナック（経営者）	・洋装店の経営者からは、景気が徐々に悪くなっているという話を、電気設備会社の経営者からは、先々の見通しが立たなくなってきてこのようなことは初めてだという話を聞いている。
		観光型旅館（経営者）	・10月以降も団体客、個人客共に順調に予約が入っている。
		観光型旅館（経理）	・能登半島地震により、営業再開までかなりの期間を要する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・プラス要因としてはインバウンドが挙げられるが、国内旅行については北陸新幹線延伸効果は今のところみられない。
		旅行代理店（従業員）	・予約キャンセル分が復活する様子はみられず、3か月以内に更に売上を積み上げられるめどは立っていない。
		タクシー運転手	・秋の行楽シーズンで観光客が増加するとみている。また、大雨被害のため、保険会社の調査員や報道関係者などの能登方面へのタクシー利用が見込まれる。
		タクシー運転手	・この後は足元が悪くなることも踏まえ、県外からの来訪者数が減るとみている。県民のタクシー利用に期待している。
		通信会社（職員）	・特に景気が変わる要素が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・新機種発売で来客数は増加しているが、金額が高いため、多くの人は購入までには至っていない。
		通信会社（役員）	・年末商戦に入るが、前年と同様の契約数で推移すると考える。
		通信会社（役員）	・大きな変動要因がみられない。
		パチンコ店（経理）	・政権政党総裁選や衆議院選挙により、先行きが不透明である。
		美容室（経営者）	・これから人口が減少していくことを考えると、利用客の減少と人手不足は続くため、良い材料が見当たらない。
		住宅販売会社（従業員）	・今後は金利が上がりそうなので、住宅需要はまだ底堅い状況が続くとみている。建物単価は安くないものの、性能重視で検討し、親からの援助をしっかりと受けて購入を決める客が増えている。
		住宅販売会社（営業）	・景気が良くなる要因がみえない。むしろ、日本銀行の利上げ方針による住宅ローンの金利上昇が今後の懸念材料である。
		商店街（代表者）	・いろいろな品物の価格が上がっているため、必要な物以外は購入しない傾向がみられる。
		商店街（代表者）	・来月1日から市内路線バスの減便が予定されている。バスは、商店街を訪れる高齢者の交通手段であるため、減便の影響が懸念される。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・世界情勢をみても、これからは物価上昇が収まるとは考えられない。実際来年まで文具業界は商材の値上げを決めているメーカーが多く、消費者の買い控えは続くともみている。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・食材や資材を始め多品目の値上げが続き、景気が良くなることはないと考える。
		百貨店（販売促進担当）	・以前まで強かった秋の冠婚葬祭、ビジネス、旅行といった、ファッションに対しての売上が回復しない。食品催事や富裕層向けの美術、ブランド企画で売上を上げたいと考えている。また、10月は選挙なども多く、2か月前後は厳しい状況が続くとみている。
		スーパー（店長）	・物価高に対して賃金上昇がまだ追い付いていない。客単価も減少傾向である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・物価高と電気代の値上がりに対する懸念から、買い控えが起りそうである。
		乗用車販売店（総務担当）	・販売できない車種が複数ある状況がしばらく続く可能性がある。
		都市型ホテル（役員）	・能登豪雨により、行楽シーズンの旅行控えが懸念される。
		通信会社（営業担当）	・内閣総理大臣の交代により、経済対策に対して不安がある。
		テーマパーク（役員）	・物価高の影響や交通費の値上がりなどもあり、団体客の予約状況は前年と比較してやや鈍くなっている。今後は全体的にこの傾向が出てくるとみている。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] （総支配人）	・10月からの最低賃金引上げに伴い、人件費を上げなければならぬ。また、今後も生活用品などの値上げが続くが、その都度会費の値上げはできないため、経営は苦しくなると考える。
		住宅販売会社（従業員）	・能登半島地震や豪雨災害によって、県内における観光業や外食産業などの落ち込みが発生し、景気全体に影響を及ぼすことが懸念される。当社において、県内の業績の落ち込みが発生した場合、隣県で補い切れるかが心配である。
		住宅販売会社（従業員）	・能登豪雨の影響で、景気回復のめどが立たない。
	x	衣料品専門店（経営者）	・末端の流通業は消費者の購買意欲に左右されやすいため、社会全体の安定が必須であると考える。
企業 動向 関連 (北陸)		-	-
		食料品製造業（経営企画）	・能登半島地震で被災した影響から生産、販売共に苦戦しているが、年末年始の需要期を迎え、数字は右上がりに推移していきとみている。
		一般機械器具製造業 （経理担当）	・自動車関連製品の受注は順調で、計画を上回るペースで推移している。産業用製品についても企業の設備投資需要に影響を受け、順調な受注状況である。一方で為替変動が今後の輸出に影響を与える可能性があり、リスク要因となっている。
		建設業（経営者）	・年末に向けて、公共工事の受注を見込んでいる。
		金融業（融資担当）	・能登地区は震災に加え9月の大雨の影響で甚大な被害を受け、復興の遅れが懸念されるが、加賀地区は被害もなく、全業種にわたり景気回復傾向が続くとみられる。
		司法書士	・北陸新幹線沿線の駅周辺では、ホテル用地、商業施設用地の買収が継続している。
		税理士（所長）	・年度末に向けて、観光業や飲食業は堅調な推移が見込まれる。また、全般的に受注量が増加傾向になるため、人手不足さえ解消できれば好循環が期待できる。
		プラスチック製品製造業（広報）	・やや景気が回復しているという声もあるが、災害や異常気象、金利上昇などの話題が続き、好材料は少ない。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の注文の入り具合をみると、景気は変わらないと考える。
		一般機械器具製造業 （総務担当）	・新政権が発足し、為替動向も含めて先行きの見通しが難しくなっている。
		電気機械器具製造業 （営業担当）	・新規製品の引き合いが今月に入り再び落ち込んでいる。また、前月時点で数点あった新規案件も、今月は特に進捗がなく、業務に取り掛かれていない状況である。
		輸送業（管理会計担当）	・現状の物量に大きな変化はない。
		通信業（営業）	・景気や株価の動向を踏まえ、様子見の状況である。
		金融業（融資担当）	・インバウンドの回復により、観光業など一部では改善傾向がみられる。一方で、その他大半の業種においては物価高や人件費高騰に悩まされている状況に変わりはなく、短期間で業績が改善する兆しはない。よって、景気は大きく変わらないものとみている。
		不動産業（経営者）	・物価や資材の高騰でかなり厳しい状況のため、法人客の動きが悪くなっている。
	繊維工業（総括）	・先行きについては、在庫調整が一段落し明るい兆しも出始めたと期待する声の一部あるものの、引き続き不透明とする声が大半を占めている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（役員）	・受注量は相応にあると考えるが、人手が不足しており、仕事を受けたくても受けられない状況になっている。簡単には受注増加につながらない環境となっている。
		輸送業（経理）	・物価の上昇は依然として続いており、厳しい経営環境は変わらない。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-
		人材派遣会社（役員）	・毎年夏以降はクリスマス商戦や年末までの短期依頼などが増えるため、景気はやや良くなるとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求職者数は微増傾向にあるが、求人は定例的な単発案件を除いて変化がない。依然としてアンマッチの状態が続いている。
		職業安定所（職員）	・求職者数と同様に求人者数も若干減少しているが、ほぼ横ばいの状況である。
		職業安定所（職員）	・求職者数、求人倍率などに目立った変動や新たな動きの兆候はみられず、原材料費などの高騰により有効求人数の減少はしばらく継続すると考える。最低賃金の大幅な引上げもあり、今後の動向を注視している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人の動きに変わりがなく、求職者数も頭打ちの状況で、景気上昇までは期待できない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・物価上昇、円安傾向が続く、能登半島地震や豪雨などの影響もあるため、状況が好転する気配がない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告数の見込みが減少している。
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		*	*
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・欧米からの観光客による、直営店への来客数が増加傾向にある。1人当たりの注文数も多く、客単価を押し上げている。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・ようやく秋らしい季節になりつつある。季節の変わり目には、洋服を買いに来る客が増えるため、売上の増加が見込まれる。
		一般小売店〔化粧品〕（経営者）	・ラグジュアリー系化粧品は好調を維持する見込みであり、特にクリスマス商戦でのフレグランスのギフト需要は確実に伸びる。昨今の人気商材は男女兼用の柔らかい香りが主流であり、日本人にもマッチした商材が多く売れるため、1万円から3万円のギフトに最適である。また、観光客が集まる地域の店舗では、インバウンド需要も中国を中心に伸びることから、先行きには期待できる。
		百貨店（サービス担当）	・前年はプロ野球の優勝セールで売上が伸びたが、今年もレストランや店舗のリニューアル効果のほか、人気の催事の充実による売上の増加を期待している。
		百貨店（販促担当）	・今冬は比較的寒くなる予想であり、衣食住関連や季節商材の動きが期待できそうである。また、選挙の秋となることで、経済対策の強化も期待される。
		百貨店（マネージャー）	・全体としては、来客数や売上などの主要指標は前年を上回っており、景気は回復傾向にあるとみられる。その一方、3か月前からは前年比での伸びが明らかに鈍化している。主な要因はインバウンドの減少であり、この数か月で地震や台風などの災害リスクが目立って、来店者の減少につながっている。ただし、この影響は一時的なものであり、インバウンド関連の企業も、今月末か来月中には数か月前の状況に戻ると予想しており、数か月先には景気全体が上向くと見方が多い。
		百貨店（特選品担当）	・中国の国慶節をきっかけに、インバウンド市場には若干の追い風が吹くと予想される。
	百貨店（売場マネージャー）	・気温の低下とともに、秋冬商材の動きが活発化すると予想される。ただし、自然災害が頻発する状況にあるため、消費への影響が懸念される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（マネージャー）	・今月の環境が特に悪かったこともあり、クリスマスや年末需要は回復を見込んでいる。
		スーパー（企画）	・賃金が上昇するなど、物価の上昇を吸収するだけの環境がある。
		コンビニ（経営者）	・10月はイベントも多いため、好調な動きになることを期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・政権政党の新総裁の誕生で株価は下がっているが、商店街で商売をしている立場からすると、個人消費が回復することを期待している。ただし、当地域では10月に衆議院選挙があり、11月には知事選挙があるため、本格的に回復に転じるのは、来年からになりそうである。
		衣料品専門店（店員）	・気温の変動もあるが、繁忙期に入るため、景気は良くなる見込みである。
		乗用車販売店（支店長）	・米大統領選挙も関係してくるが、年内は株価が順調に上昇する見込みであり、景気自体はやや良くなると予想される。ただし、来年は不透明である。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・10月は最低賃金上がるほか、非正規社員に対する社会保険の適用も拡大される。年末にかけては、物価の上昇に伴う給料の底上げにも期待したい。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・新商品の発売もあるため、受注量は増加する。
		高級レストラン（スタッフ）	・秋から冬にかけて、各種の会合が増えることを期待したい。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・しばらくは暑い日が続いたが、気温も落ち着いてきた。日本を訪れる外国人客も増えており、今後も増え続けると予想されるため、景気は良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・10月から11月にかけては、衆議院選挙の影響が少し懸念されるものの、団体客、個人客共に、予約はますますの動きとなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊はインバウンド需要の好調が続いており、年末年始は国内旅行客の予約も伸びている。宿泊に伴う朝食の喫食率も高く、収入の基盤となっているほか、宴会も平年並みで推移している。
		都市型ホテル（客室担当）	・当地域は最繁忙期を迎えるが、先行予約では高単価の受注がみられる。直前での安いプランへの変更はあるものの、おおむね好調である。
		都市型ホテル（管理担当）	・国内需要、インバウンド需要共に安定して増えているため、宿泊稼働率と単価の上昇が期待できる。
		都市型ホテル（客室担当）	・秋の観光シーズンを迎え、インバウンドを含む団体旅行の受注が順調に推移している。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・レストランの動きから判断すると、今後は良くなること予想される。ふだんはディナータイムの営業はないが、8月と9月は毎週金曜日にピアホールのイベントを開催し、ほぼ満席に近い大盛況となった。10月の連休のランチbuffetも予約は順調に入っているため、先行きは上向きそうである。
		都市型ホテル（客室担当）	・客室稼働率や販売価格が上向き見込みである。
		旅行代理店（役員）	・暑さも徐々に和らいで行楽シーズンとなるため、旅行意欲の高まりが期待できる。秋の味覚や温泉、紅葉のほか、ハロウィーンやクリスマスといったイベントを絡めた需要も増えると予想される。
		通信会社（経営者）	・円高の進行による、輸入物価の低下に期待している。
		通信会社（営業担当）	・年末にかけて引っ越しが増えるため、販売量は増える傾向となる。
		遊園地（経営者）	・酷暑により、レジャー関係での外出や支出の減少につながったため、季節が良くなれば、その反動が出てくることを期待している。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・企業業績は堅調であり、未来への投資意欲も一定の高いレベルにある。また、生産性の向上への取組も加速するなかで、経済成長への流れができつつある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔時計〕 (経営者)	・能登半島は地震に続き、想定外の豪雨に見舞われた。客との会話では必ずこの話題が出ており、ほとんどの客の雰囲気は暗くなっている。今後も明るい話題がない限り、景気が良くなることはない。
		一般小売店〔花〕(経営者)	・気候要因により商品の仕入価格などが上がっている。今後も様々な物の値上げが見込まれるため、景気回復の兆しはない。
		一般小売店〔鮮魚〕 (営業担当)	・受注の予定も少なく、全体的な見通しとしては期待できない。
		一般小売店〔野菜〕 (店長)	・政権政党の総裁選後、衆議院の解散総選挙となれば情勢が変わってくるが、物価の変動による影響も大きい。
		一般小売店〔呉服〕 (店員)	・振り袖でさえも買い控えがみられるなど、客は今後の生活防衛を意識している。
		一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・今後は余り行事がないが、気候が良くなるため、人の動きも活発となり、少し販売量が増えることを期待している。
		百貨店(売場主任)	・高額品の購入客など、特定の客の売上は継続的に伸びているが、多数を占める一般客の売上の減少は補えず、売上のコントロールが困難となっている。
		百貨店(企画担当)	・急激な円安が影響し、この数か月はインバウンドの売上が大きく伸びていたが、今の為替相場が続くようであれば、前年並みの売上に減ると予想される。国内客の売上については、株価の動きにも影響される。
		百貨店(企画担当)	・地方都市では現時点が良くないだけでなく、徐々に悪くなっている。今後大きな落ち込みはないものの、少なくとも上昇の動きは見込めない。
		百貨店(管理担当)	・食品価格の上昇といった懸念材料はあるものの、賃上げ気運は続きそうな状況であるため、緩やかな景気の拡大が続くことを期待したい。
		百貨店(マネージャー)	・インバウンド需要の鈍化や異常気象の影響は、今後も続く予想されるが、気温の低下に伴うファッション関連の需要も出てくるため、結果的に大きな変化はないと考えられる。一方、新総理の下での今後の景気展望については、現時点で不透明である。
		百貨店(販売推進担当)	・政権政党の新総裁が誕生し、株価や為替、物価などの推移は読みにくくなっている。物価の上昇に対する給料の増額が求められるなか、冬のボーナスが増えるかどうか、今後の景気動向を大きく左右する。
		百貨店(外商担当)	・為替や株価を含む経済環境に大きな変化がない限り、現在の動きが続く。
		百貨店(商品担当)	・先行き不透明な部分があるほか、今秋からは各種商品の値上げが予定されるなか、生活防衛意識が少し強まる可能性がある。
		百貨店(マネージャー)	・インバウンド需要については、これまで円安効果やブランド品の値上げ前の駆け込み購入がみられたが、今後も増加の動きが期待できそうである。富裕層にも同様に期待できそうな一方で、大きなウェイトを占める中間層は、コストパフォーマンスを重視した、慎重な選択消費が続くと予想される。
		百貨店(売場マネージャー)	・食料品などの物価上昇で、消費マインドが上向いてこない。食料品や化粧品といった消耗品はまだ売れているが、婦人服や紳士、子供服などの動きが悪い。また、為替が円高傾向にあることで、インバウンドの売上も悪化している。
		百貨店(外商担当)	・高額品の需要については、今後も旺盛な状況が続くと予想される。また、気温の低下に伴って、衣料品の売上も増える見込みである。
		百貨店(宣伝担当)	・インバウンドの購入単価の低下傾向は、今後も続く予想される。気候面でも、ここ数年と同様に秋が短くなれば、ファッション関連の消費意欲が下がってクリアランスセール待ちとなるため、しばらくは厳しい状態が続く。
		スーパー(店長)	・コロナ禍の収束後は安定した状況が続いているが、クリスマス商材やおせちの予約競争が激化するなか、厳しい状況に変化はないと予想される。
		スーパー(店長)	・直近で景気の変化はないが、円高効果や賃金の上昇効果が出てくれば、景気は上向きになると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・客の購買意欲には変化がない。
		スーパー（店員）	・今後も暑さが続いた場合の、生産地への影響は読めないが、これ以上価格が上がれば非常に厳しくなる。
		スーパー（企画担当）	・競合店の出店もないなど、外部環境に変化はないため、景気は大きく変わらないと予想される。
		スーパー（経理担当）	・首相の交代や衆議院総選挙、米国大統領選挙といった政治的な話題が増えるが、身の回りでは、新米や食料品などの10月の値上げラッシュ、電気代やガス代の補助縮小など、物価の上昇が意識される局面が続いている。今後は生活防衛意識の高まりによる、ボーナス商戦や年末商戦への悪影響が懸念される。
		スーパー（販売促進担当）	・景況感に大きな変化はなく、商品価格の上昇による買い控えがしばらく続く。
		スーパー（企画）	・10月からは最低賃金が約5%上昇するが、その影響で物価の上昇が更に進むため、景気回復の期待は薄い。
		コンビニ（経営者）	・中食や雑貨、日用品はレパートリーが出尽くしているため、売上がなかなか伸びない。今後はおでんなどの季節商材に力を入れる方向で進めていく。
		コンビニ（店長）	・商品の単価が下がっているため、他の商品とのまとめ買いを期待しているが、なかなかあと1品には手を出してくれない。
		コンビニ（店員）	・主婦層は物価の上昇を嘆いているが、コンビニの商品も全体で2割ほど値上がりしている。
		コンビニ（店員）	・良くも悪くもならず、現状維持が続くと予想される。
		コンビニ（店員）	・今後は連休もないため、大きな変化はない。
		衣料品専門店（店長）	・ようやく秋の気配が出てきたが、新内閣の誕生に伴う株価の下落といった不確定要素もあり、景気の見極めにはまだ時間を要する。
		家電量販店（経営者）	・補助金の効果が一定期間は続くため、景気は大きく変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・メーカーによる車の生産は若干増えているが、受注量は伸び悩んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	・新車価格の上昇に伴い、中古価格も上がるが、客の購買力が伴っていないため、しばらくは販売不振が続く。
		乗用車販売店（役員）	・ここ数月の販売実績は決して悪くないものの、一部の人気車種の販売による、一過性の好調となる可能性がある。現状は社会の高齢化や、若年層による自動車離れにより、新車の販売台数には大きな伸びが期待できない。自動運転への対応や、電気自動車の販売も遅れるなか、大きな改善は期待しにくい。
		乗用車販売店（営業担当）	・上向く材料がないため、横ばいと予想している。
		その他専門店 [宝石]（経営者）	・これまでの円安の影響もあるが、物価の上昇が続いている。上昇が止まらない限り、景気は変わらない。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（経理担当）	・食品関連や消耗品の価格は上昇しているため、必要な物と必要のない物の選別が進んでいる。国政選挙や米国大統領選挙も控えているが、大きな景況感の変化はない。
		その他専門店 [宝飾品]（販売担当）	・一時は円高の兆しがみられたものの、その後は目立った動きもなく、物価の上昇だけが進む状況が予想される。
		その他専門店 [医薬品]（管理担当）	・夏物商材やスキンケア用品は順調な動きであったが、気温の低下により秋冬商材へシフトしていくなかで、全体としては減少傾向となっている。食品価格の上昇も続いているため、大きな上昇要因は見当たらない。
		その他小売 [ショッピングセンター]（総括）	・衆議院の解散総選挙などで先行きが不安なほか、災害が続いていることで、消費意欲も低下する。
		高級レストラン（企画）	・客単価は継続的に上昇しているが、国内客の旅行需要がインバウンドよりも鈍い状態が続いている。
		一般レストラン（経営者）	・近隣の店舗が何件か閉店となった。物価の上昇などで消費者の財布のひもが固くなっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・10月は最低賃金が上がるものの、更なる物価の上昇も予定されており、飲食店の利用が増える直接的な要因にはならない。売上は横ばいか減少が予想されるなか、仕入価格や賃金の上昇に加え、今後は人材の不足も重なる。どの問題も先がみえず、体力勝負のような状況であり、飲食店はまだ景気の回復には程遠い。
		一般レストラン（店主）	・店側の発想や対応の転換が遅れているほか、異常気象などによる状況の変化が予想される。
		一般レストラン（企画）	・円安傾向にストップが掛かり、輸入価格の上昇は一段落したが、消費量の多い米の価格が高騰しており、業績に大きな影を落としている。また、人材の採用が進まないなか、人件費の上昇傾向に歯止めがかからず、業績を圧迫している。
		一般レストラン（店員）	・来客数の減少に加えて、単価も下がっており、今後もこの状況が続くと予想される。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・最低賃金が上がった一方、住宅ローンや光熱費の負担はそれ以上に増えるため、生活に余裕はない。
		観光型ホテル（経営者）	・能登半島の豪雨や世界的な政情不安など、世の中全体が落ち着いていない。
		観光型旅館（経営者）	・大きな災害等がなければ大丈夫であるが、現状が変わるほどの材料はない。
		観光型旅館（経営者）	・全体的な可処分所得が増えなければ、旅行に回す費用が出てこないため、景気が良くなることを願っている。
		都市型ホテル（総務担当）	・近隣に商業ビルが2棟オープンし、今後もホテルや飲食店の開業が予定されているため、特にレストランの回復が難しくなると予想される。
		旅行代理店（店長）	・市場全体の変化や、コロナ禍からのリベンジ需要の反動、旅行代金の急激な高騰、インバウンドの増加に伴う観光地の混雑、長引く酷暑による旅行意欲の低下に加え、自然災害の頻発による旅行中の事故といった不安材料が重なり、改善の見込みがない。
		旅行代理店（支店長）	・海外旅行の回復が進まない。高齢者層を始め、若年層も海外旅行に行くモチベーションが低く、パスポートの所持率も低いままである。年内に大きなイベントもないため、現状からの変化は期待できない。
		タクシー運転手	・今までは気候の影響もあり、タクシーに乗った方が楽という客が多かったが、今後はタクシーでどこかに行きたいという客が増えてくる。
		タクシー運転手	・暑さが少しずつ落ち着くことで、タクシーの利用率は下がる。景気全体としても、上向き材料が見当たらない。
		通信会社（社員）	・キャリアは他社からの乗換え客の獲得に集中しており、施策を講じているものの、他社には負けている。年末まで店頭を継続的に強化できるかが課題であるが、キャリアの支援策にも左右される。
		通信会社（役員）	・厳しい事業環境が続くと予想される。人件費の高騰や物価の上昇による影響も大きい。
		テーマパーク（職員）	・政権政党の総裁が誰になるかにより、今後の経済政策は大きく変わる。雇用が安定して景気が上向いたのは、この10年間では一度だけであったため、普通に考えればその路線を引き継ぐしかない。ただし、その主張をしているのは1人だけという状況である。
		観光名所（企画担当）	・来場者数に大きな変化はないが、外国人の来場者数については、このところ中国本土からの客が増え始めている。
		競輪場（職員）	・依然として物価の上昇や株価の乱高下が続くなか、実質賃金は上がっていない。新政権がどのような景気対策を打ち出すかにもよるが、正直なところ分らない。
		競艇場（職員）	・全国の売上は横ばいが続いている。コロナ禍の期間中に跳ね上がった売上には、やや陰りがみられるものの、依然として高水準を維持している。特にインターネット投票が好調で、安定した売上を残しているため、当面は今の状態が続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・催事の開催は順調で売上は安定しているが、最低賃金の改定による人件費の増加で、委託費の見直しが必要となっている。その一方、販売価格にはすぐに転嫁できず、固定費の増加だけが進む形となる。
		その他レジャー施設 [飲食・物販系滞在型施設] (企画担当)	・インバウンドは堅調な動きが予想されるが、バス運転士の残業規制の影響が、団体バスでの来場が減少傾向にある。インバウンドの好調が団体バスの減少で相殺される形となり、全体としては変わらない。
		その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・プロ野球シーズンは終了するが、11月から12月は多くのコンサートが開催されるため、例年並みの集客を期待している。
		その他レジャー [スポーツ施設] (業務担当)	・利用者数にもよるが、10月からは更なる経費の増加が見込まれる。さらに、気象状況次第でイベントが中止となれば、現状の維持も難しい。
		その他住宅 [住宅設備] (営業担当)	・政権政党の次の総裁が誰になるかは、一般の消費者が関与できるものではないが、誰が就任しても国民の生活の向上に目を向けてほしい。
		一般小売店 [衣服] (経営者)	・今冬の気候がどうなるかは分からないが、年末になっても冬物衣料の動きは悪いと予想される。当店は年配客が多いが、毎月の収入から衣料品に回す予算がかなり減っている。
		百貨店 (売場主任)	・これから円高、株安傾向が進んだ場合、絶対好調である都心店のインバウンド需要が減少するため、トータルでは景気がやや後退する。
		百貨店 (企画担当)	・10月も気温が高い状態が予想されるなか、主力のファッション関連の動向が不透明である。免税売上も再び上向くと予想しにくい。
		百貨店 (商品担当)	・新政権の経済政策次第であるが、仮に金融引締め策が実施されれば、株価の下落が予想され、好調であった高額品の売上にも影響が出る。
		スーパー (経営者)	・最低賃金の上昇のほか、原材料や資材価格、光熱費の高騰により、零細企業も商品の販売価格に転嫁せざるを得ないため、今後の販売量への影響が懸念される。
		スーパー (企画)	・当面、食品価格は高い状態が続くため、消費者の財布のひもは固くなっていく。
		スーパー (社員)	・長期にわたって食品価格の上昇が続いており、客の購買力が徐々に低下している。競合店も増加しつつあるため、当面は厳しい状況が続くと予想される。
		スーパー (開発担当)	・10月には物価が大きく上昇するが、賃金の上昇は見込めない。
		コンビニ (経営者)	・円安にも歯止めがかかったことで、インバウンド需要がやや減少する可能性があり、来客数も少し減少することが予想される。
		コンビニ (店員)	・当店の客には高齢者が多いが、年金の受給金額が上がらない一方、物価が上昇している。節約のため買物に行けないといわれるため、10月の値上げ以降は売上が厳しくなる。
		家電量販店 (店員)	・景気が回復しなければ、業況が悪くなるのは当たり前であり、新政権での景気回復に向けた取組が求められる。
		家電量販店 (人事担当)	・今年は秋が短いほか、暖冬となる可能性が高いため、暖房器具などの売行きが不安である。
		乗用車販売店 (経営者)	・諸物価の上昇が、家計に少しずつ悪影響を与えている。
		住関連専門店 (店長)	・施工工事が必要な商品を扱っているが、現場作業の遅れから、納品や回収が遅れるケースが増えてきた。また、流通面でも遅延等のトラブルや、ストレスの掛かる場面が増えてきた。産業基盤全体の弱体化で、コストや時間が奪われるケースが増えている。
		住関連専門店 (店員)	・様々な物の値上げが止まらない。
		旅行代理店 (従業員)	・政治が不安定なこともあり、先行きはやや悪くなる。
		通信会社 (社員)	・一部上場企業の給与の回復状況は顕著であるが、地方経済への波及は遅い。
		ゴルフ場 (支配人)	・客の予約状況は今一つ良くないため、今よりもやや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（店員）	・暑さの影響が、年配客の来店サイクルが延びたり、来店が困難になったりする状況から、秋以降に上向きとなる期待は薄い。
		その他サービス〔学習塾〕（スタッフ）	・良くなる要素が見当たらない。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・オイルでのマッサージで服を脱ぐため、寒い時期は来客数が減少する。
		住宅販売会社（経営者）	・価格転嫁が後手に回っているため、利益の圧迫が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・建設費の上昇が止まらない。特に電気設備業者が人手不足であり、スケジュールどおりに受注可能なゼネコンを探すのも困難な状況である。販売価格に建設費の上昇分を転嫁すると、新築マンション価格が上昇するため、今後は郊外物件の売行きが悪化する。
		住宅販売会社（総務担当）	・物価が上昇しているため、全体的に賃金が上がらなければ、購入意欲の低下につながる。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関による融資の審査基準が厳しくなるなど、景気は悪くなっている。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・建築単価の上昇による消費マインドの低下傾向は、当面続くことが予想される。
	×	一般小売店〔花〕（店員）	・日用品の値上げが続き、原価も上がっている影響で、利益率が低下している。その一方で景気が良くなる要因は見当たらないため、景気は悪くなると予想される。
	×	衣料品専門店（経営者）	・客が洋服を買い控えている。新しい服を着ていく場所もなく、古い服で十分という意識があるため、購入が増えない。
	×	家電量販店（店員）	・補助金効果はあるものの、期間が終わると低迷するため、通期ではまだ改善の見通しが立たない。
	×	家電量販店（企画担当）	・残暑の影響で、暖房商品の購入が見込めない。新内閣発足による景気後退の懸念があるため、起爆剤となる商品が出ない限り、しばらくは厳しい状況が続く。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・値上げが続いているため、先行きの見通しは厳しい。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・為替の円安問題は少し改善しつつあるため、今後の更なる円高の進行に期待したい。夏は消費が落ちる傾向にあるため、現状の売上は芳しくないが、冬に向けて売上を伸ばす計画を立てている。
		化学工業（企画担当）	・酷暑の時期を過ぎ、年末年始の食品の最需要期に入るため、先行きは良くなる。
		繊維工業（総務担当）	・円高傾向により、輸入品の仕入コストの減少や、原材料価格の安定化が期待される。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・インバウンドを狙った商品開発の案件が入ってきている。起死回生の案件とはならないが、多少の売上の増加につながるため、活気が出てきている。
		金属製品製造業（経営者）	・受注の内示状況には、量的な回復感が出てきている。
		金属製品製造業（営業担当）	・注文の増加につながる話が、減少に関する話よりも多くなっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・直近の受注はないが、12月頃の受注が大幅に増加している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・2025年度モデルの発表時期となるため、やや期待できる。
		広告代理店（営業担当）	・Web媒体、紙媒体共に、広告売上が前年を上回る状態が続いている。
		広告代理店（営業担当）	・前月末から、10月以降の広告の引き合いが増えている。
		食料品製造業（従業員）	・製品の値上げの影響で、小売店での売場面積が少し減ったと感じるが、業務用商品は大きな変化もなく動いており、現状維持が続いている。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先からは、注文が増えそうな情報がない。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・年末年始にかけてのイベントの問合せも入っており、今後も好調な推移が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（経営者）	・一時期よりも受注量は回復したが、力強さはないため、しばらく景気に変化はない。
		化学工業（管理担当）	・オートバイ、自動車向けの電装関連の出荷量は、減少したままの状況が続くと予想している。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・値上げの傾向は続いているものの、今後の継続性が注目される。物価の上昇が続くなか、海外情勢も不安定なため、今後は一進一退の状況となる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の投資姿勢が消極的であり、大型の引き合いが少なくなっている。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・円高傾向が進んでいるとはいえ、まだ140円台と円安水準は継続しているため、まだ先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・あらゆる商品の価格が上がり、材料費も上がっているため大変である。
		建設業（経営者）	・相談案件が増えても、マンパワーが足りずに対応できない恐れがあるため、慎重に受注を検討せざるを得ない。
		建設業（経営者）	・社員の残業や休日出勤などの課題もあり、工期の厳しい作業所では対応に苦慮している。早期に発注しても、工期の長い作業所では建設資材の高騰や不安定な納期の影響を受けるため、先行きが心配される。
		輸送業（経営者）	・来年1月から新規の仕事が始まるが、不採算の仕事を断るため、全体的な仕事量は変わらない。経費の増加も一段落したが、これまでのマイナスを補うためには、もう少し時間が掛かる。
		輸送業（営業担当）	・売上の伸びる要素がない。
		輸送業（商品管理担当）	・例年、10月から12月は売上が落ちる。
		通信業（管理担当）	・回復する要素も、その兆しも見当たらない。
		金融業（営業担当）	・内閣改造が行われても、景気が良くなるとは考えられない。
		不動産業（営業担当）	・今後も短期金利の上昇が予想されるなか、企業の借入金利も上がるため、景気は悪くなる。
		経営コンサルタント	・商店街関係者と話していると、以前のようにインバウンドが多くての商店街を訪れる期待はあるが、大部分の関係者はそれに否定的である。どこでも爆買いするようなインバウンドはもはや少数であり、お金を使う場所は限られる。結果として、都市部の周辺地域や、地方の商店街を巻き込んだ景気回復にはつながりにくい。
		司法書士	・10月からの郵便料金の値上げを含め、連日の値上げのニュースで節約志向が強まっているため、仕事の量が増えることはなく、現状維持が予想される。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・これまでと同様に大きな変化はないため、状況は変わらない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・今後は急速に秋、冬への季節の変化が進むが、一般家庭にとって、米を含む食品の値上げは生活に直結する問題である。
		その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・日用雑貨の需要は、人口の伸び悩みから厳しくなる傾向にある。インバウンドの需要効果や減税効果も特にはみられない。
		食料品製造業（営業担当）	・10月以降はほとんどの商品が値上げとなるため、消費者の財布のひもは更に固くなる。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・明るい兆しが無い。
		建設業（経営者）	・暑さが落ち着き、行楽シーズンに入ると、住宅に向けられる予算が減少する。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・総理大臣が変わるが、期待はできない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・値上げが落ち着くまでは良くならない。
	×	繊維工業（総務担当）	・消費者を取り巻く生活費の上昇により、購買意欲の低下につながっているほか、ローンやクレジットの審査が通らないケースも増えている。
	×	輸送業（営業担当）	・安価な通販の荷物に重点を置いた戦略が、大失敗となりつつある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	金融業〔投資運用業〕 (代表)	・景気の判断が、政府と国民で大きく乖離している。中小零細企業の倒産件数の増加が顕著なほか、貧富の差もますます広がっている。
	x	その他非製造業〔電気業〕 (営業担当)	・物価上昇への有効な対策が講じられていない。
雇用 関連 (近畿)		-	-
		人材派遣会社(管理担当)	・不安要素は多々あるが、大阪・関西万博の開催に向けて良くなると予想される。
		人材派遣会社(役員)	・大阪・関西万博関連の求人も本格的に動き出しており、求職者の動きも活性化してくることが予想される。
		職業安定所(職員)	・地域の求人が緩やかに増える一方、求職者は減少している。事業所への訪問では、人手不足問題のほか、固定費や人件費の増加分を価格転嫁できず、利益の圧迫に関する声もあるが、全体としては改善傾向が予想される。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・年末を迎えるほか、大阪・関西万博関連の需要もあるため、少しずつ景気は回復していく。
		人材派遣会社(支店長)	・このまま下半期も今の状況が続くと予想される。
		人材派遣会社(営業担当)	・企業の売上や利益が改善しない限り、雇用情勢の改善は見込めない。ただし、後継者への事業承継を検討している企業など、雇用を増やさざるを得ない企業も一定数は存在する。
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・政権政党の総裁選、米国大統領選挙と、景気に影響を与える大きなイベントが控えている。その結果が出るまでは、大きな動きはないと予想される。
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・関西企業のプロモーション費用については、今後3か月で大きな変化はない。
		職業安定所(職員)	・経営の悪化などで求人を減らす事業所と、市場の拡大などで求人を増やす事業所の2極化がみられるが、全体として求人数に大きな変化はないと予想される。
		職業安定所(職員)	・8月の新規求職者数は前年比で減少となった。経済的な事情で就職を希望する70歳以上の求職者が、市場に滞留している。
		職業安定所(職員)	・前年比で新規求人数は減少となっている。どの事業所も人手不足であるが、募集をしても応募がないという声が多い。また、以前と比較して観光需要が落ち着いたことで、観光サービス業を中心に募集が減っている。
		学校〔大学〕(就職担当)	・業界によっては人手不足の状況が続くが、景気は良くも悪くもならない。
		学校〔大学〕(就職担当)	・企業の新卒採用意欲は旺盛であるが、全体的な賃金の上昇にはつながっていない。
		その他雇用の動向を把握できる者	・今のところ景気の好材料はないものの、大型倒産といった悪い材料もない。
		人材派遣会社(営業担当)	・年末という季節柄、将来不安による求職活動の活発化が予想されるが、企業にとって魅力のある層とはいえない。
		アウトソーシング企業(社員)	・退職者が出たことで、更に人手不足となるが、給料が上がるわけでもなく、仕事だけが増える。
		民間職業紹介機関(職員)	・求人に対し、求職者が圧倒的に少ない状況が続いている。労働条件の向上や外国人採用のハードルを下げるといった工夫により、中小企業の働き手を増やす、抜本的な改革が必要となる。
	x	-	-

9. 中国(地域別調査機関:公益財団法人中国地域創造研究センター)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)		-	-
		商店街(代表者)	・商店街への出店問合せが増えているため、今後新しい店舗が増えることで新たな購買層が商店街を訪問することが予想される。
		一般小売店〔印章〕 (経営者)	・年末に向けて、景気が多少良くなるのではないかと期待している。
		一般小売店〔洋裁附属品〕 (経営者)	・街のイベントが次々と計画されているため、客の動きが良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（広報担当）	・外出、各式典、会合などの需要が戻りつつあるなか、春先から衣料品や身の回り品など必要なアイテムを買いそろえる動きが見られるようになったため、年未年始にかけても、その動きがあるとみている。また、冬のボーナスが賃上げ等の影響で上昇し、消費が活発になると考える。
		百貨店（営業担当）	・客の様子から判断すると、景気はやや良くなる。
		百貨店（総務・経理担当）	・年末商戦に向けて消費拡大が見込める。
		スーパー（店長）	・客単価を前年以上にすることは困難であるが、維持はできており、P I値も前年と相違ないため、今後は若干の景気回復が想定される。
		乗用車販売店（業務担当）	・更に配車台数が増え、徐々に新型車も出てくるため、景気は良くなっていく。
		自動車備品販売店（経営者）	・基本的には前年同月を下回る予測であるが、2～3か月後は冬商品の販売量が増えるため、今よりは良くなる見通しである。しかし、内閣総理大臣が交代し、経済対策等がどのようになるのか期待と不安が混在する。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・気候が穏やかになり、来客数が増えることを期待している。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・このところ多少売上が増加しており、夏の暑さが落ち着けば景気は更に良くなると考えられる。
		バー（経営者）	・徐々に状況が良くなっており、年末需要も期待できる。
		観光型ホテル（営業担当）	・秋から年末にかけて先行予約が増え、景気が上向くことを期待したい。
		観光型ホテル（副支配人）	・秋の行楽シーズンに伴い、年配者の昼の食事の予約が好調である。
		都市型ホテル（総支配人）	・宿泊の予約ペースが10月も良く、前年比では5%以上プラスになる。
		都市型ホテル（総支配人）	・11月は神在月で例年トップシーズンを迎える。地元の神社絡みの個人、団体観光客はもちろん、大会や学会の開催もピークを迎え、稼働率、客室単価共に期待できる。
		都市型ホテル（宿泊担当）	・秋の紅葉シーズンからクリスマス、年未年始と、ビジネス以外の需要が高まる見込みである。
		タクシー運転手	・観光シーズンを迎え、インバウンドを含め観光の仕事が増えることが期待できる。
		タクシー会社（営業所長）	・これから秋の行楽シーズンを迎え、人の動きが活発になるとみられる。芸術祭などのイベントもあり、県外からの観光客に期待している。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたため、景気はやや良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・10月からの予約状況は好調である。ただし、以前のように3か月前から予約が入ることはなく、1か月前から数週間前と、天候などを見定めながら直前に予約するようになってきている。
		テーマパーク（営業担当）	・過ごしやすい気温になり、行楽シーズンに入る。
		観光名所（館長）	・旅行シーズンに入り、人の動きは今より良くなると考えられる。
		ゴルフ場（営業担当）	・これからトップシーズンに入るため、予約数は伸びている。前年と比べて予約の進捗も良い。
		商店街（理事）	・我が国では四季があることが買物に好影響を与えているが、今年は秋がなく、夏からいきなり冬になるという予想もあるため、景気は良くない。
		商店街（代表者）	・米を始めとして諸物価が上昇しているため、客の節約志向が続いている。
		一般小売店〔食品〕	・景気が好転する見込みのない状況での容器や包装資材の値上げ、食材の価格上昇で、客の節約志向が更に強まる。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・売上には直接貢献しないが、いろいろと新規の企画や行事が入るようになり、何となく前向きの動きが多くなっている。
		百貨店（広報担当）	・災害や物価高騰が続く、客の消費意欲が高まる様子がない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・気温が高いため、定価品が動かず、夏物商材を長期間展開していたが、サイズや色が不足して動かなかった。商材不足が問題となっているが、商材を多く生産する見込みがないため、状況は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・外出需要で多少上向きにはなるものの、高気温で重衣料商品などの動きは鈍いとみられ、食料品などの値上げも続き不透明である。
		百貨店（売場担当）	・酷暑で来客数が伸び悩んでいたが、直近の3連休は、朝晩の気温の低下からか、顕著に来客数が増加している。ただし、野菜を中心に生鮮食品の価格が高騰していることから、販売は厳しい状況である。
		百貨店（外商担当）	・物価の上昇が続くため、景気が良くなる要因がない。
		スーパー（店長）	・10月から値上げを予定しており、現在と環境は変わらず、客の生活防衛状態は不変、若しくは多少悪化する可能性がある。コロナ禍と比較すれば、客の外出も増え、改善しているが、それ以上に値上げという問題は大きい。物価の上昇と収入の増加のバランスが合っていない状況から、景気自体は改善に向かうとは考えにくい。値上げに対しては、企業努力も限界になる。
		スーパー（店長）	・今後も物価高騰が続き、客の財布のひもは固いままになる。
		スーパー（総務担当）	・今後も大きな変化は期待できない。
		スーパー（業務開発担当）	・まだまだ客の食品に関する節約志向が続きそうのため、客単価や平均単価が伸びない。
		スーパー（営業システム担当）	・秋が短く、冬が例年よりも寒い予報が出ており、鍋物商材の売行きが良くなることを期待している。しかし、日用品等の値上げが多く、販売量の増加は厳しいとみられる。
		スーパー（販売担当）	・化粧品やスキンケア等リピートにつながる消耗品は伸びているが、それ以外は非常に動きが鈍い。
		スーパー（販売担当）	・米や卵など食品の値上げもあり、秋になっても物価の上昇が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・今後、大きな変化が起きるとは考えにくく、節約志向が高まるなかでは、不要な商品購入につながりにくいと感じる。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・店舗の人員費が増加しており、フランチャイズチェーンにとっては厳しくなっている。いかに売上を増やしていくかが肝であるが、人員費増加に追い付かないのが現状である。
		衣料品専門店（経営者）	・絹の値段が上がり、商品価格が全体的に上昇していて、厳しい状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の良くなる要素がない。
		衣料品専門店（代表）	・減税などの直接景気を押し上げる政策が予定されていない。
		家電量販店（店長）	・客単価に変化がない。
		家電量販店（店長）	・商品価格や販売単価が上昇しているが、販売量の維持が難しくなる。
		家電量販店（販売担当）	・冬が来るまで厳しくなる。
		家電量販店（企画担当）	・今月、新しいスマートフォンが発売されたが、特に変化はなく、2～3か月後も変わらない。
		家電量販店（副店長）	・物価高が続いているが、消費者もそれに慣れてきたのか、消費活動は前年並みで推移する。
		乗用車販売店（営業担当）	・新型車の効果はもう少し続くと思うが、今月と比べると販売活動が減る。
		乗用車販売店（統括）	・メーカーの供給量により左右される。
		乗用車販売店（営業担当）	・新車販売については前年を上回っているが、新型コロナウイルス感染症発生前に戻ったとはいえない状況である。車両販売価格の上昇により、購入の検討が長引く客が増えているのと同時に、中古車販売が好調である。とはいえ、今後、景気が上向き要素はない。
		乗用車販売店（店長）	・当面、現在と同じような状況が続くとみられる。
		乗用車販売店（リース担当）	・物価が上昇しても、客の収入が増加するわけではないため、客が不安になっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（経営者）	・円安になったり、円高になったり、株安になったり、株高になったりと、短期間の乱高下が激しくなっているため、これからどうなっていくのか予測も付かない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・気温が高いため、秋物商材の動きが遅いなど懸念材料があり、今後、急に景気が良くなることはない。秋から年末に向けてイベントなどを行い、消費マインドを上げていく予定であるが、客の財布のひもは固いままだと予想する。
		高級レストラン（事業戦略担当）	・景気が良くなるという話題が不足している。
		一般レストラン（経営者）	・気温が高いことや豪雨の影響で、野菜や果物の価格が高騰しており、また、新米の価格も上昇している。こうしたことから、食材の仕入価格が高止まりしていることに加え、光熱費や最低賃金も上昇しているため、収益面では苦しい状況が続く。例年、12月商戦まで閑散期となっているため、景気が好転することはない。
		一般レストラン（経営者）	・周りは新店ができているため景気が良い。
		旅行代理店（支店長）	・年末年始に向けた商戦が始まっているが、海外旅行を中心に動きが鈍い。円高に振れる傾向もみられるが、政治関連も起因しているのか、全体的にムードが悪いと感じる。
		タクシー運転手	・これからは人の動きが良くなる。ただし、観光客が増加しても、景気が良くならないため心配している。
		通信会社（企画担当）	・与党の総裁選があり、各候補の所信に関連して、増税になるかどうか客との話題になった。年内に各党が新体制になり、選挙もあるかもしれないが、今後の経済の動きについて、客は静観に徹している。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・電気料金など今後変動し得る要素はあるが、ここ数か月の動きから判断すると、景気は横ばいとなる。
		通信会社（営業担当）	・円高による原材料費の値下がり期待できるが、直近では景気浮揚が見込める要因が見当たらない。
		美容室（経営者）	・物価高騰が続いているが、3か月では客の来店ペースに変化がないため、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	・あらゆる物の価格が上昇しているため、客が節約できる物は節約しようという動きになっている。
		設計事務所	・この調子で進めば協力者の確保が難しくなり、状況は変わらないとみられる。
		設計事務所（経営者）	・コロナ禍以前より建築費が高騰しているため、計画の見直しや発注に時間が掛かっている。
		設計事務所（経営者）	・客の予算の上積みが見込めず、良くなる要素がない。
		住宅販売会社（従業員）	・金利動向と政権、政局の不透明さから先行きが分からず、しばらくは現状維持が続くものとみられる。
		住宅販売会社（住宅設計担当）	・入手する情報量が増加する気配がないため、精度を高めて販売維持に努めたい。
		住宅販売会社（事業推進担当）	・所得が微増しても物価高騰には追いつかず、景気回復の兆しもない。
		商店街（代表者）	・暑いため、秋物商材が売れず苦勞している。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・内閣総理大臣の交代で選挙となるため、経済は停滞すると考えられる。
		百貨店（売場担当）	・気温が非常に高い日が続く、婦人服や洋品雑貨などの季節商材は厳しい状況であり、この傾向は10月以降も続くと予測する。お歳暮も右肩下がりの予測で、年末商戦も苦戦が続くとみられる。
		スーパー（店長）	・販売量がやや減少している状況で、10月に値上げを実施するため、今後も落ち込みが続く。
		スーパー（店長）	・10月の値上げ対象商品が多く、客の節約志向が更に高まることが予想される。
		スーパー（財務担当）	・節約と低価格志向による買い回りにより、売上が減少する。
		コンビニ（支店長）	・アルバイトを多数雇用して営業している業態なので、10月に最低賃金が大幅に上昇することによる費用の増加の影響が大きい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（営業担当）	・決算月ということで市場の動きは良いが、10月からの下期が始まると、客の動きが低迷する可能性が高い。その状況に対応するための策を打っておく必要がある。現在の好景気が下期にも継続することを期待している。
		住関連専門店（営業担当）	・催事等の特別な売出しの際の来客数は前年と変わらないが、通常の店舗での来客数はまだ減少している。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・物価上昇が続くと、商品の売行きが悪くなり、客単価の下落が進むと考えられる。
		一般レストラン（店長）	・米の値上げについて客から話を聞くことが多く、10月から値上げも予想しており、客がますます来店を控える状況が増えることが懸念される。
		旅行代理店（経営者）	・今後、天候不順によりどのようなようになるのか分からず、旅行どころではない。
		通信会社（広報担当）	・物価上昇に対して客の収入の増加が追い付いていないため、購買行動に結び付いていない。
		競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後の冬時間は舟券の発売時間が短くなるため、売上は若干減少する。
		美容室（経営者）	・物価高騰が徐々に影響してくる。
	x	コンビニ（エリア担当）	・店の周りで工事があったため、工事関係の来客数が増加し、売上を維持している。ただし、来月から年明けまで水道工事が店の前であり、朝から夕方まで店の前の道路が片側交互通行となる。このため、交通量が減り、来客数や売上も減少する。
	x	衣料品専門店（経営者）	・来店を促す対策を試みるものの、反応が鈍い。
x	一般レストラン（経営者）	・自然災害や不安定な政治情勢の影響もあり、国民がこれまでの生活を見直さないといけないと考えている。	
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・秋に向けて増産する予定である。
		食料品製造業（経営者）	・年末商戦等で多くの受注が期待できる状況が続くと考えられる。
		輸送業	・受注が増えている。
		金融業（支店長）	・大手プラントメーカーの撤退による解体、撤去工事の需要があり、関連する受注が増加する見込みがある。
		農林水産業（従業員）	・景気が好転する要素がない。
		繊維工業（財務担当）	・為替と株価が不安定で先行きが読めない。
		木材木製品製造業（経理担当）	・秋の需要に期待するが、現時点では横ばいとみられる。
		化学工業（総務担当）	・物価の動向等、先行きが不透明である。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・輸出向け生産が半年程度継続する見込みであるため、生産体制を2交代にし対応していく。
		鉄鋼業（総務担当）	・需要、受注共に悪化する可能性は低いですが、前向きの材料がない。
		鉄鋼業（総務担当）	・人手不足や物流問題等により、この先大きな盛り上がりは見込めない。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・販売見込みはおおむね堅調で、予算を上回る見込みである。ただし、液晶パネル関係は末端市場の需要が弱いとの見込みである。
		金属製品製造業（総務担当）	・工作機械業界は今年下期から増加する見込みであったが、特に大きな変化の兆しはない。
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
		建設業（経営者）	・今後も客が様子を見ながら慎重に事を進めていく見込みである。
		建設業（総務担当）	・仕事量は安定しており、現状は当分変わらない。技術職が不足し、受注を見送るケースが出てこないか不安である。
		輸送業（業務推進担当）	・特に景気に関する大きなプラス要素やマイナス要素がなく、取引先にも目立った動きはない。
	輸送業（営業担当）	・新規の見積依頼は通常の数であり、3か月後も大きな変化はない。	
	通信業（企画担当）	・地政学的リスクなども現在は落ち着き、大きな動きはないと考えられる。また、電気料金、サーバ関連、ネットワーク機器などの価格の動きも以前と比べ落ち着いている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（経済産業調査担当）	・インフレ鈍化等による所得環境の改善が期待されるが、リスク要因が多く、先行きが不透明である。
		広告代理店（営業担当）	・物価上昇が更に見込まれ、景気上昇の気配がみられない。
		会計事務所（経営者）	・国等の補助金の方向性に変化があるようで、今後、新たな方向での支援効果を期待している。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・物価上昇が続いているなかで、販売の減速が懸念される。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・各分野とも生産調整が続いているため、しばらくは減少傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・取引先の内示情報から判断すると、景気はやや悪くなる。
		建設業	・物価上昇が続いているため、景気が良くなるとは考えられない。
		不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要が落ち着く時期となり、景気はやや悪くなると予測する。
	x	-	-
雇用 関連 (中国)		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・年末にボーナスを受給した後に退職を考えている人からの問合せが今後も増加傾向となるため、登録者数が引き続き増加すると見込まれる。
		人材派遣会社（事業部長）	・4～7月は、例年発生していた季節繁忙求人がほとんどなかったが、企業担当者の多くから、今秋以降は発生する可能性が高いと聞いている。
		人材派遣会社（社員）	・広義では政権の方針次第、狭義では求職者マッチング次第だが、大枠の状況に変化はない。
		人材派遣会社（経営企画担当）	・季節需要による売上の伸びが期待できないため、オーガニックな売上成長を求めざるを得ず、急激な成長は期待しづらい状況が続いている。
		人材派遣会社（求職者対応）	・求人数はやや増加傾向にあるが、経験の浅い求職者が多く、企業側の書類通過率が下がっている。
		求人情報誌製作会社（総務担当）	・例年、年末にかけてクーポン誌への広告掲載社数は増加するが、現在その辺りの動きが見えてこない。
		求人情報誌製作会社（大卒就職支援担当）	・採用人数の確保が難しい状況は変わらない、若しくは悪化する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・賃金上昇や教育など、社員への投資の影響で求人の動きが若干鈍くなっている。業種によるが、欠員補充に限られており、新たな増員求人の動きは少ない。
		職業安定所（事業所担当）	・企業の人手不足感が続いているものの、物価高騰による個人消費への影響及び10月からの最低賃金の大幅な引上げが、景気にどのような影響を及ぼすのか、先行きが読みにくい。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・求職者がいない場合は次年度の採用に回し、今年度の採用活動を終了する企業が周りには多い。
		民間職業紹介機関（職員）	・企業の採用意欲が衰えることはないと考えますが、適任人材がいないケースも多く悪戦苦闘している。年間休日や給与などに関する考え方において、企業と求職者との間の隔たりも多いため、なかなかマッチングに至らず、拡大機会を逃している。
		その他雇用の動向を把握できる者	・物価の上昇が止まらないため、賃金の上昇が物価の上昇に追い付いていない状況であり、引き続き景気回復の兆しが見通せない状況である。
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (四国)		*	*
		商店街（代表者）	・かなり人の流れが多くなっており、店舗内は退店した物販店や飲食店等の新陳代謝が起こっている。このように、経営者マインドもかなり上がっており、景気も徐々に底を打って上がっていくとみられる。
		スーパー（企画担当）	・商品の値上げは続いているが、気候が落ち着いてくれば、売上は増加すると推定される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品担当）	・円安が進めば商品価格が高止まりする可能性があると思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・気温は少し秋めいてきたようだが、長期予報によると10月はまだ少し暖かく、11月以降に気温が下がる予報である。今より気温が少し下がれば、売上はそこそこ良くなるとみられる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先は、我々の店の創業祭があり、年末のお歳暮の時期も近くなってくるため、少し売れるとみられる。
		観光型旅館（経営者）	・地元空港直行便の本数が今後も増える方向にあり、インバウンドが国内観光客の増減の振れを補ってトータルで堅調に推移するものとみられる。
		タクシー運転手	・2～3か月先の11月、12月は忘年会があるとともに、期中異動した方も落ち着いているため、夜の街は少し人が増えるかと判断する。現状では、タクシードライバーのボーナス比率を下げた会社もあり、今のところ県内で車両台数が増えることはない。新型コロナウイルス感染症発生前の半分の台数で今の客のニーズに応えていくしかないと思われ。
		タクシー運転手	・四国遍路が今年は逆打ちの年で、これからどんどん遍路需要が増えてくるため、街中に出回る台数は少なくなり、それなりに街中での稼働率が高まってくるとみられる。
		通信会社（支店長）	・冬商戦期に入るため、需要が喚起され、景気も良くなると想定される。
		観光遊園地（主幹）	・9月、10月にかけて、ソウル便と台湾便が増便されるため、インバウンドの増加が見込まれる。
		競艇場（マネージャー）	・円高基調による物価の安定も見込まれ、遊興に回せる余裕資金も少しずつ増えていくとみられる。
		美容室（経営者）	・11月までは売上は増加しないが、12月は人も動くと思われため、期待している。
		美容室（経営者）	・現状は暇であり、年末に向けて良くなることを期待したい。
		商店街（常務理事）	・新政権に移行したが、経済的、財政的な施策に大きな変化はないものとみられており、さらには近い将来、増税が行われるといった臆測も呼んでいることから、これらが払拭されない限り消費環境の好転はないとみられる。
		商店街（代表者）	・資源価格の高騰に加えて、人件費・物流費の上昇が続いており、売上における経費の割合が高くなっている。顧客の流れも流動的で薄利多売ともなりにくいとみられる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症発生以前の状況によようやく戻ってきており、派手な動きはないものの、祝い事商品の予約が入ってきている。
		百貨店（マネージャー）	・食品を中心に値上げが想定されている。
		スーパー（店長）	・値上げが続いており、消費に影響すると予想される。
		スーパー（企画担当）	・物価上昇とともに賃金上昇が生じるなど好循環に転じる気運が必要だとみられる。
		スーパー（人事）	・米の単価上昇など節約志向が高まる出来事もあったが、節約志向に大きな変化はなかった。今後も余り意識は変わらず推移していくとみられる。
		スーパー（財務担当）	・買上点数のマイナスを1品単価の上昇が上回っている。客単価の上昇の伸びが弱まっているものの、この傾向は当面続くとみられる。
		コンビニ（店長）	・来客数の減少傾向は、消費の減少もあってまだしばらく続いていくとみられており、現状程度でしばらく推移するとみられる。
		コンビニ（総務）	・10月からの商品値上げにより消費の鈍化が見込まれ、来客数の回復はますます望めない。
		衣料品専門店（経営者）	・現状が続き、景気は良くなるとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・物価高のため買い控えがあるが、必要な物は引き続き購入するとみられる。
		家電量販店（店員）	・10月からはまた値上げ気運が高まり、購入数が減るとみられる。
		家電量販店（副店長）	・物価高の影響により、当面の間は景気回復が期待できない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売業（営業担当）	・販売停止車両の販売再開のめどが立っていない。
		乗用車販売店（従業員）	・販売車種の制限が続いており、厳しい状況が続くとみられる。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの今後の生産台数にも大きな変化はない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・最低賃金の大幅な引上げが気掛かりではあるが、それ以外では大きく変動する要因が見当たらない。
		都市型ホテル（経営者）	・先行予約の動きが余り良くなく、停滞感がある。
		設計事務所（所長）	・相変わらず分譲マンションが建てられているが、価格が高騰しており、実需があるのか不透明な状況がみられる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・前期の様子をみている限り、今年度は例年と同じではなく、業況は厳しいとみられるが、今月に入り、多少客からの見積依頼が増えてきている。ただし、不安材料としてメーカーからの商品の値上げ、また、輸送コストの上昇などもあり、今後2～3か月先の景気は厳しいとみられる。
		百貨店（販売促進）	・物価高騰に賃金上昇が追い付いていかないと予想される。
		スーパー（店長）	・10月からの大規模な商品値上げにより、消費者が節約志向を強めることが懸念される。
		スーパー（統括担当）	・景気はじわじわと悪くなり、物価は落ち着かないとみられる。
		コンビニ（店長）	・通常来客数が減ると客単価が上昇するが、現状では商品価格が上昇している割に客単価が上昇していない。つまり買えない客は来なくなっており、来店する客も以前より買上点数が減っている。
		旅行代理店（部長）	・旅行代金の単価上昇傾向に加え、物価高騰の影響がみられる。
		×	一般小売店〔酒〕（経営者）
	×	一般レストラン（経営者）	・毎年、10月、11月は閑散期であり来客の機会は減っている。新型コロナウイルス感染症も終息しつつあるが、忘年会等の前倒しも減るとみられており、更に若者の忘年会離れも聞いており、ますます期待できない。
企業 動向 関連 (四国)		食料品製造業（商品統括）	・円高、円安の偏りすぎが解消され、輸出、輸入によるデメリットも解消されつつある。製造業の国内回帰・所得増により景気回復が進んでいくとみられる。
		繊維工業（経営者）	・現状がしばらく続くものとみられる。ただし、冠婚葬祭の簡素化によるギフト需要の減少、また、イベント用商品の需要が輸入品に取られており、生産地全体をみると厳しい状況が続いている。
		木材木製品製造業（営業部長）	・10月からは、受注が回復するとみられるが、前年と比べて10%程度のダウンが予想される。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・キッチンペーパーは数量を減らし、事実上の値上げを行っていく予定であり、新型コロナウイルス感染症が収束したものの、マスクの需要は増加してきている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・過疎地域とまではいかない地方に住んでいるが、やはり地方創生に力を入れている。新総裁になったため、必ず地方の景気が良くなると期待している。
		食料品製造業（経営者）	・10月からの最低賃金改定により人件費、労務費が増加し、原価高騰、利益率低下が予想される。
		化学工業（所長）	・物価上昇と人口減少の影響は続いており、大きな変動はないと推測される。
		鉄鋼業（総務部長）	・引き続き、造船関連の受注は安定しているが、産業用機械は受注案件が少なく回復の兆しはみえていない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行きの不透明感に加え、地政学的リスクの高まり、物価上昇や人件費を始めとしたコスト増加等もあり、世界経済の下振れが懸念される。
		電気機械器具製造業（経理）	・相変わらずの物価高、円安基調、円の金利上昇等の経済環境の傾向が変わっていない。
		建設業（経営者）	・金利問題、社会情勢、物価問題等を総合的にみれば、景気は良くなるとみられる。
		建設業（経営者）	・年末にかけた工事発注の見通しが悪い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（経営者）	・新首相が誰になるかなどの政治の動きに伴う景気の変化が気になっている。
		通信会社（総務担当）	・フードバンクへ寄贈を行ったが、寄贈される量が、希望する量に追いついていないと聞いており、地方の景気の底上げにはつながっていないとみられる。
		通信業（企画・売上管理）	・年末に向けた大きな動きは聞いていないが、視聴率に準じたCMの発注があるのではないかと期待している。
		金融業（副支店長）	・景気が大きく変化する要因がないとみられる。
		広告代理店（経営者）	・製造業や建築業等の人手不足に伴う採用関連は増えているが、物価高騰の影響による消費低迷により小売流通関連の販売促進広告費が削減傾向である。したがって、全体としては余り変わらないと予想される。
		農林水産業（職員）	・猛暑によりエアコンの使用頻度が例年より高く、7月から9月の電気使用量は多くの家庭で増加している。また、日用品等の値上げは続いており、賃金が上がらないなかで家計収支は悪化しており、消費者の財布のひもは固さが増している。
		税理士事務所	・物価上昇が止まっていないとみられる。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		求人情報誌製作会社（経営者）	・年末年始のアルバイト募集の増加が予想される。
		人材派遣会社（総務部長）	・求職者数が急激に増えるとはみられない。
		求人情報誌（営業）	・求人に関しては、企業側の求人要件と求職者側のニーズや要件が合わず、マッチングに至らない状況にあり、改善の見込みがない。
		職業安定所（求人開発）	・今後の為替が円高、円安のどちらに傾いても産業の業態によって明暗が分かれることや最低賃金額の大幅な引上げについても、企業規模や人手不足の状況により影響に差が出るとみられており、全体の景況としては不透明な状況が続くとみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	・新卒求人の動きに変化はみられず、短期で状況が変化する要因は見当たらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足は構造的な要因が大きいとみられる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・10月から価格が上がるものが更に多くなり、個人消費が更に目減りするとみられる。
	x	-	-

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)		住関連専門店（従業員）	・高単価である秋冬商材の需要が高まるため、催事を多く計画している。加えて、地域のプレミアム付商品券の発行を予定しており、例年よりも上限額が高いため大いに期待している。
		観光型ホテル（専務）	・暑さも落ち着き、旅行シーズンに入るため来客数が増加する。また、団体の予約も入ってきている。
		観光名所（従業員）	・通年、紅葉シーズンには客が増加するため景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・酷暑から若干涼しくなることで、生活必需品の購入で外出するようになり、現状よりもやや良くなると考えている。
		商店街（代表者）	・6月以降は猛暑により影響を受けたが、10月に入ると気候も良くなるため、今後に期待している。
		商店街（代表者）	・気温も落ち着いてきたため、ようやく日中の人の移動が増えてきている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	・飲食店からの問合せが多く、今後も売上が伸びると予想しているため、景気は良くなる。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・当店は切り花メインの花屋であるが、花が保たない7月から9月の猛暑をようやく乗り越え、今後の売上は上向きになると期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（企画担当）	・クリスマスや年末年始の需要が見込めるため、景気は良くなる。
		百貨店（リーダー）	・気候の変化で、外出スタイルの需要が増すと考えている。
		スーパー（総務担当）	・秋から冬にかけて気温の低下が早くなれば生鮮の売行きが好調に推移すると予想されるが、残暑が長引けば、鍋物商材などの売行きが後倒しになる懸念がある。
		コンビニ（経営者）	・物価高が続くなか、リーズナブルな商品と価値の高い商品がバランスよくあるコンビニエンスストアは、幅広い客のニーズに応えられるため、景気は若干良くなる。
		家電量販店（店員）	・今後の世界情勢によるが、年末に向けて消費の拡大を期待している。依然として年金受給者の生活は厳しい状況が続いており、年金受給者の購買意欲が上がるような対策を期待している。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産が回復基調にあるため、登録や納車の販売増が続くと考えられる。
		乗用車販売店（総務担当）	・年内はメーカーの新車生産が順調に進むと見込んでいる。ようやく人気車種の受注も取れるようになり、営業スタッフが最も喜んでいる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・気候が徐々に涼しくなるため、年末にかけて寒さと比例して温かいコーヒー飲料の需要が多くなり、2～3か月先は店頭の客も戻ってくると予想される。また、卸の需要も増加すると見込まれ、若干売上が伸び景気が良くなる。
		観光型ホテル（総務）	・年末年始へ向けて繁忙期になるため、期待している。
		観光型ホテル（管理）	・近隣に複合施設がオープンする予定であるため、観光客の増加を期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年末に向けてコンサートやイベントも増加するため、当地に来る客の増加が想定され、市内全体での活性化が期待できる。
		旅行代理店（統括者）	・当市の再開発や引き続き堅調なインバウンド需要により当面は良い景気が続く。
		タクシー（統括者）	・景気指標の1つである採用状況は引き続き好調であるため、緩やかに回復すると推測している。
		通信会社（企画担当）	・依然厳しい状況が続いているが、引き合いは継続してある状況である。
		観光名所（職員）	・宿泊予約も順調で、景気はやや良くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・気候が良い季節になり、予約も順調に推移している。年末までは、この傾向が続くと予想される。
		ゴルフ場（営業）	・秋以降のゴルフシーズンとなりコンペの来客数が増加するため、景気はやや良くなる。
		美容室（経営者）	・2～3か月先になると年末も近くなり、客の動きも忙しくなる傾向にある。ファッション業界の動向としては、秋口になるとコスチュームが変わってくると同時に客の購買意欲も上がってくる。これから先は徐々に上昇気分になってくるが、大きな変化はないと予想している。
		美容室（経営者）	・2か月後は12月であるため繁忙期となるが、今月より売上が増加するように対策を望んでいる。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・例年、年末を控え売上が伸びる傾向にあることから、やや良くなると期待している。
		商店街（代表者）	・季節が変わり、秋の味覚の商品が店頭に並ぶようになった。商店街では再開発のため取壊しが始まっているが、小売店は青空市場で商業をしているため客が立ち寄ってくれない状況である。外商をしている店では、若干量販店や飲食関係などの配達で売上を補っている。
		商店街（代表者）	・景気が良くなる要因が考えられない。このまま低空飛行が続く。
		商店街（代表者）	・異常な暑さであったため、商店街へ来る客が減少しており、加えて物価上昇により物販関係の小売業は苦戦している。9月も下旬になり朝夕は少し過ごしやすくなっているため、商店街に足を運ぶ人たちが増えることを期待している。
		商店街（代表者）	・身の回りの景気は、今後も不透明な状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔鮮魚〕 (店員)	・ 明るい情報を探しているが特に何もなく、このまま商売を続けていけるか危惧している。一般小売業では商売にならず、高齢化や仕事に対する意欲がなくなり、やめる人も多い。水温が下がってきているため、景気が回復することを期待している。
		一般小売店〔茶〕(販売・事務)	・ 年末に向けて若干の売上はあると予想しているが、物価高騰による節約ムードが続くと予想される。また、年末年始に向け、ある程度の蓄えが必要となるため買い控えは続く。
		百貨店(企画担当)	・ 日用品の値上げは続いており、消費は2極化している。夏日が10月まで続き、秋冬の衣料が売れない状態がしばらく続くと予想される。
		百貨店(企画担当)	・ 大きな変化をもたらす要因が特にないため、景気は変わらない。
		百貨店(経理担当)	・ 物価高の影響で衣料品への消費マインドが依然として弱い。しかし、値上げの影響もあるが、食料品・飲食等の売上は好調を維持すると予想される。
		百貨店(業務担当)	・ 乱高下する株価など客を取り巻く環境は平時と異なっているため買物に向き合える状況にない。購買動機についても、必要性やお買い得感で購入する客から、将来価値まで考えて購入する客が増加しており、客の2極化が進んでいる。
		百貨店(経営企画担当)	・ 物価高に伴う生活防衛意識は長引くと考えられ、衣料品や雑事等においても厳選して購入する傾向が続く。
		スーパー(店長)	・ 10月からの更なる物価高騰の影響が出るのではないかと懸念している。しかし、値上げ品目が多いため、ディスカウント店にとっては追い風になることも考えられる。また、総交代による為替市場も景気に影響を与えると予測できる。
		スーパー(店員)	・ 品質は並であるが自社で開発しているブランド商品やポイントが多く付く商品の売行きが良い。一方、高価格な商品が売れない状況が続いており、客の購買意欲は慎重である。
		スーパー(企画担当)	・ 物価高騰に収入の増加が追い付いていない状況が顕著であり、先行きは変わらないと考えられる。
		コンビニ(経営者)	・ 現時点では、景気上昇が期待できる要因が見当たらない。
		コンビニ(経営者)	・ 客との会話からも、余り景気に関する明るい話題は聞かない。
		コンビニ(経営者)	・ 天候の変化で大きく変化するが、客が満足するような売場づくりを努力したい。今後は秋冬商材がどれだけ売上に寄与するか不透明であるが、前年程度の来客数や客単価を期待している。
		コンビニ(経営者)	・ 物価は上昇しているが、収入が増加しない。
		コンビニ(エリア担当)	・ 郵便料金を始めとする10月からの値上げラッシュで、景気回復は期待できない。首相交代による経済政策に期待している。
		コンビニ(店長)	・ 主要政党の党首が代わるが、その政策がみえていない。さらに、米国の大統領選もあり、今後の先行きは不透明である。
		衣料品専門店(取締役)	・ 総裁選が終わり、3か月先の気運は上がっていくと考えられるが、先行き不透明であるため、状況を判断しながら対応をしていかなければいけない。
		家電量販店(店長)	・ 物価高を補う対策がなければ、財布のひもは緩まないと考えている。
		家電量販店(店長)	・ 期待されたスマートフォンの新機種の新機種が大幅に減少しており、起爆剤となるような商品がないため、来客数が伸びない。しばらくは横ばいが続くと予想される。
		家電量販店(従業員)	・ 涼しくなってきた冷房器具の需要が減り、全体的に買い控えが増えているため、景気は変わらない。
		乗用車販売店(従業員)	・ 今年は新型車も少なく、景気は現状と変わらない。
		乗用車販売店(役員)	・ 大手自動車メーカーの認証不正問題に伴う認証遅れの影響で受注可能車種が極端に減少しており、しばらく好転の兆しがなく景気は変わらない。
		乗用車販売店(代表)	・ 景気が変わるような要因が見当たらず、横ばいが続く。
		住関連専門店(経営者)	・ 近々祭りがあり期待をしているが、当分置き家具業界の景気は良くなる見込みはない。販売数もまだ動いていない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・3か月の天候は予報によると平年並みか、やや寒くなるとの報道である。総裁選や10月以降の物価高騰、賃金の引上げなどがどの程度の影響を及ぼすか不透明であるが、プラス要素として、当館にてキャラクターセンターの開館が確定している。開館の時期を含め気候等に鑑みると、現状が続くと予想している。
		観光型ホテル（営業）	・全国旅行支援などの対策もなく、今以上に良くなる好材料を考えつかない。
		観光型ホテル（支配人）	・宿泊や宴会の予約状況は、前年とほぼ同じである。
		旅行代理店（職員）	・来月になれば年末年始の予約傾向が明らかになるが、現時点では期待できない。
		旅行代理店（統括者）	・物価上昇に伴い、レジャーへの支出が減少すると予想される。
		タクシー運転手	・与野党共に党首が代わり、解散総選挙が予想される。景気の動向は読めないが急速な変化は考えづらく、現状維持が続くと考えられる。
		タクシー運転手	・これから秋のゴルフシーズンに入るため、タクシー利用が増加していくのではないかと期待している。
		通信会社（社員）	・特に好材料がないため、今後の景気は変わらない。
		通信会社（営業担当）	・円高傾向もみられ、観光業に少し影が落ちてきそうである。
		通信会社（企画担当）	・光回線の販売数について、今後も上向く好材料がない。
		通信会社（役員）	・地域経済を取り巻く基礎的な状況に変化がみられず、地域住民の購買意欲が上がりにくい状況であると判断している。
		テーマパーク職員	・インバウンドも含め、余りマイナス要素は見当たらない。
		競馬場（職員）	・景気動向を左右する条件が見当たらないため、2～3か月先も現況と変わりはない。
		理容室（経営者）	・当店では高齢者の利用が多いが、8月以降の酷暑により来客数の動きが悪くなっている。2～3か月先は全ての商品の高騰は続き、加えて、当県では年金生活者や所得の低い人が多いため、明るい兆しはみえない。
		美容室（店長）	・朝夕が涼しくなり気分的に過ごしやすくなったが、日中は残暑が続き昼間の来客数は減少している。
		学習塾（従業員）	・客の財布事情が良くなるような見通しは期待できない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・高卒の採用は大幅に減少することが想定され、担い手不足で顧客確保が物理的に困難になっている。
		設計事務所（所長）	・材料や製品単価が引き続き値上がりするが、仕事の対価は上昇する気配はなく、地方の自営業の人員費も上昇しそうにないことが危惧される。
		設計事務所（所長）	・2～3か月先に今の仕事の結果が出るため、景気は変わらない。
		設計事務所（代表）	・景気が良くなる要因が乏しいため、先行きは現状と変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・競合が多い状況は今後も続いていくと想定されるが、固定客は一定数いるため受注に関しては現況が続くと判断している。
		住宅販売会社（従業員）	・景気は順調に推移している。総裁選も無事に終わり、景気は安定していくと考えられるが、万博の開催と自然災害の多さが気になるところである。
		商店街（代表者）	・景気は気候にも左右されるが、物価高騰による影響が非常に大きく先行き不透明であるため、客は消費を控えている状況である。
		百貨店（営業担当）	・店頭では月初の友の会開始と恒例の物産催事開催で来客数が増加し、店内回遊の戻りが見込める。クルーズ船や国際航空便の復活で周辺地域への内外観光客のより一層の増加が見込め、特産品や切子等の工芸品等の土産、また、自分の記念需要等にも期待できる。さらに、祭りや秋の行楽、スポーツ大会参加でスポーツ関連へ関心が増している。また、アプリ導入での来店促進と堅調な紳士雑貨、インテリアやし好性の高いブランド品・舶来雑貨の購入意欲も維持しており、決済方法の多角化により、客単価や商品単価の伸びが見込める。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業企画担当）	・日配品の更なる高騰から、生活防衛意識の高まりを懸念している。
		スーパー（店長）	・所得の増加は見込めないまま単価の上昇が続いており、景気上昇を感じる好材料が見当たらない。
		家電量販店（従業員）	・長期予報では10月以降も暑い日が続く予想である。冬の到来が遅れ年内が暖冬になると、今後の売上は苦戦するのではないかと警戒している。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・韓国からの客が減少しており、また、地震や台風などの影響もあり景気は悪くなる。
		高級レストラン（経営者）	・9月下旬になり、10～12月の早い予約が入るようになってきている。特に10月は問合せが多いため、今よりは景気が良くなるのではないかと考えている。
		一般レストラン（スタッフ）	・物価高騰による仕入価格の増加により、利益が切迫している。
		スナック（経営者）	・消費財の値上がりが多く、外食費の節約につながっており、特に会社員の個人利用客が減少している。外国人客は増えているが、前年の売上を超えるまでには至っていない。
		都市型ホテル（販売担当）	・予約数が減少しているため、やや悪くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・来場者数が伸び悩んでいるため、売上が不安である。
		x	衣料品専門店（店長）
企業 動向 関連 (九州)		-	-
		農林水産業（従業者）	・九州各地では、作付けの遅れの影響で秋にかけて野菜不足になる可能性が高い。そのため、12月までは高値傾向が予想され、米は北海道の収穫が進むと価格は落ち着いてくると予測している。
		化学工業（総務担当）	・前年比では損益は回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想される。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・9月の売上の低下は猛暑が原因ではないかと考えている。また、焼き物の動きは10～11月になると、今よりも若干売上が増加すると期待している。
		金属製品製造業（事業統括）	・賃金増加による消費意欲の増加や建設需要に好況感はあるが、今後は金利上昇により住宅ローンが負担となっていく。
		一般機械器具製造業（経営者）	・かねてより営業活動をしていた成果が若干受注につながっており、景気の上振れと判断している。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先やその外注先も今後の対策は済ませてあり、その結果が2～3か月後に出るため期待している。
		電気機械器具製造業（取締役）	・販売価格において、値上げが浸透している。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客の情報では、景気は良くなる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・新聞広告に関する問合せが若干増えてきている。
		農林水産業（経営者）	・この業界では原料があつての商業であり、11月までは原料不足により工場生産が落ちると予想される。加えて11月以降は、鳥インフルエンザの時期でもあるため、前々年並みの感染が心配される。しかし、12月になると原料が回復すると考えられ、販売では年末需要が期待される。
		食料品製造業（経営者）	・原材料価格の高騰のため価格転嫁を行ったところ、伸長はしないがそれなりに売上はあり、今後の経営は成り立っていく見通しである。
		家具製造業（従業員）	・年度末へ向けて徐々に市場の活性化は期待できるが、年末までは大きな動きはないと予想している。
		電気機械器具製造業（経営者）	・増産計画が後ろにずれ込むため、売上増加の期待はできない。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・上期では生産車種のばらつきなど多少の影響はあったものの、結果としては当初の予算台数に対して大きな変化はなく、売上も計画どおりである。
	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・年内の受注見込みが立っていないため、低迷状態が続くことを危惧している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・資材の高騰や人件費の上昇、また、職人不足や入札で苦戦を強いられ景気はやや悪くなる。官庁の入札で落札すると景気も上向くため、早めに1つでも落札したい状況である。
		建設業（社員）	・手持ち工事や下請工事も確保できている状態である。しかし、年度末に向けて大型工事の受注があれば安心であるが、今月末の官公庁の発注予定を確認しなければ不安な状態である。
		輸送業（従業員）	・能登方面の地震や大雨等災害の影響で部品調達等にも影響が出る可能性があり、景気が上向くとは考えられない。
		輸送業（従業員）	・当面、物価が下がることは考えにくく、急に給与が増加することも考えにくい。また、円安傾向にあるが、輸入が回復するにはまだまだ時間が掛かる。しかし、荷主も様々な新規事業を計画しているところであり、期待したい。
		輸送業（総務担当）	・総裁選を受けて経済に対しどのようにかじを切るかで変わってくる。また、中国やロシアなどの動きにも影響を受ける可能性がある。様々な要因が重なり、結果として景気は変わらないと予測している。
		通信業（職員）	・電気工事の受注状況は良いが、情報通信工事に関しては今年度も年度目標額に対して厳しい状況が続いている。特に入札やプロポーザル案件の競争が厳しい。
		通信業（経理担当）	・当初の目標どおり売上は推移しており、加えて見込み外の商談が散見されるため、現在の業績を今後も維持すると予想している。
		通信業（統括者）	・企業のデジタル化やDX化のニーズは増加しつつあるものの、特に中堅・中小企業の販売量は横ばいの状況が続くものと予想される。
		金融業（従業員）	・百貨店やスーパーマーケットの売上が順調に推移しており、自動車の販売も回復傾向にある。一方、住宅や家電の売行きは力強さに欠け、物価上昇や人手不足などから先行きをやや慎重にみている企業もある。
		金融業（営業）	・物価高に対する警戒感から消費が伸び悩んでいるが、前倒し需要が起こることはなく、状況の確認が続いている。
		金融業（調査担当）	・長引く物価高の影響で、消費者は慎重な購買姿勢となり、当面は現状で推移する。
		金融業（調査担当）	・金利や物価の上昇により設備投資時の負担増加が見込まれることから、大きな変化はない。
		金融業（営業担当）	・人件費や物価高騰に加えて借入金の金利上昇が重なり、足元の中小企業はしばらくの間事業が停滞するものと予想している。政権政党の新総裁による景気対策に期待したい。
		不動産業（経営者）	・大手企業では景気が良いが、中小企業では人件費の高騰や原価の上昇により、景気は余り変わらない。
		広告代理店（従業員）	・世界情勢は余り変化がみられず、若干円高に振れているものの物価が変化するとは考えられない。3か月後も大きな変化が起こらない限り状況は変わらない。
		広告代理店（役員）	・様々な要因はあるが、直近の景気動向に関連するような変化はみられない。
		経営コンサルタント（社員）	・何か新しい行動をしたいが、思案に余っている。
		繊維工業（営業担当）	・最低賃金引上げの対応を取引先から十分に理解してもらえるのか不安である。在庫が多いため商品発注ができるか見通せないため、非常に厳しい状況である。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・採用がなかなかできない顧客企業が多く、人手不足により業績が悪化する企業が増えると予想される。
		経営コンサルタント（社員）	・全ての商品の値上がり数が数回行われているため、景気はやや悪くなる。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・全国の市町村から同様に発注される調査や計画策定の委託業務は子育て関係のみで、既に発注は終わりつつある。今後は発注件数が少なくなるため、入札に応じた業者の価格競争が予想されることから、景気はやや悪くなると予想される。
	x	-	-
雇用関連		-	-
		人材派遣会社（社員）	・年末特需の発注が見込まれるため、景気はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(九州)		人材派遣会社(社員)	・営業活動の一環で新規訪問や過去に取引のあった企業を訪問している成果もあり、微増ではあるが受注できるようになっている。また、新規の求人媒体にも求人を掲載しており、問合せが増加している。今後は更に新しい求人媒体を開拓していくため、求職者からの問合せが多くなることが見込まれる。
		学校[大学](就職支援業務)	・株価や為替相場が乱高下する状況が続いており、物価高騰と大手を除く中小企業の賃上げの先行きが危惧される。また、輸出企業を始めとする好調な企業収益が物価高騰を上回る賃上げや、将来を見据えた設備投資の拡大など前向きな支出につながる事が期待されるが、一部の業界では働き手の人材不足もあり、企業の採用意欲の高まりは今後も続くと思われている。
		人材派遣会社(社員)	・選挙があるため、先行き不透明で判断が難しい。
		人材派遣会社(社員)	・派遣の問合せは増えているが、正社員などの直接雇用に関する動きは若干落ち着いてきている。その結果、求職者数のリクエストに応え切れない場合もある。
		人材派遣会社(社員)	・年末の求人は順調に発生しているものの、直接雇用の求人も増加しているため、新規登録者の求職者数が減少している。これによりマッチングは苦戦すると考えている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・これまでは年末年始需要に備え、求人は活発に推移していたが、前年はこれまでの動きと変わって大きな動きは見られず、今年も同様の傾向がみられる。採用手段の多様化も要因となっている。
		新聞社[求人広告](社員)	・物価上昇が負担になり、人手不足感が拭えない。今後は行楽シーズンや年末年始商戦もあるため期待をしている。
		新聞社[求人広告](担当者)	・物価上昇が慢性化しており、先行きの不透明感が強い。食費やガソリン代など、家計についても収入が容易に増えないため、毎月のやりくりが常態化し、趣味やレジャーに回す余裕がない状況は今後も続く。
		新聞社[求人広告](担当者)	・各種商品の値上げや金利上昇などはあるものの、大きな減退にはつながらないと考えられる。インバウンドの増加により航空機の機体が大きくなるなどの影響もあり、堅調に推移すると予想される。
		職業安定所(職員)	・人手不足になっており、求人数が前年比では減少している事業所もある。最低賃金の引上げもあり、景気上昇の要因がみられないことから、今後も横ばいが予想される。
		職業安定所(職員)	・原材料費高騰に加え、最低賃金引上げによる人件費等の増加により管内企業は負担が増加している。このため人手不足が求人につながりにくく、景気はやや悪い状況が続く。
		民間職業紹介機関(職員)	・少子高齢化の影響もあり、九州では特に理工系学生の慢性的な人材不足が続いているため、今後2～3か月は良い状態が続く。
		学校[専門学校](就職担当)	・このまま物価の上昇が続くと、消費マインドの低下が続いていく。
	x	-	-

12. 沖縄(地域別調査機関:一般財団法人南西地域産業活性化センター)

(-:回答が存在しない、*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (沖縄)		-	-
		商店街(代表者)	・飲食・観光関連の客は増加しているが、通常物販やその他の雑貨類は大変厳しい状況にある。また、現在、新型コロナウイルス感染症の影響も出てきているものの全体的には少し良くなるとみている。
		百貨店(経営担当)	・10月は国慶節によりアジア圏の観光客が増加するとみている。
		コンビニ(経営者)	・近隣のスーパーが移転したため、野菜等の品ぞろえを増やしたことから、売上が伸びることを期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（副店長）	・来月は最低賃金の引上げがあり、賃金増加分以上の売上の確保を経営者側は求められる。実質賃金が物価上昇率を超え積極的な消費につながらなければ利益確保は難しく、経営者側が更に身を削ることになるため、新政権には抜本的改革を期待する。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・秋冬は陶器がよく動くとみている。
		一般レストラン（代表者）	・少しずつ涼しくなってきたため、来客数の増加を期待している。
		コンビニ（経営企画担当）	・新型コロナウイルス感染症発生前と比べ、悪天候時の影響が強く出るようになった。まだ台風の影響が懸念されることから、天候次第という状況である。特に、10～11月までは慎重に判断しなければならないとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・例年だと新しい季節の商品が売れ始めるが、季節がずれてきたのか、商品の売行きがまだ良くない。来月からの動きをみていきたい。景気が良くなっている気配はまだ見受けられない。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の良くなる理由が見当たらない。
		その他飲食店〔バー〕（経営者）	・良くなる要素として猛暑が落ち着くことが挙げられるが、ほかに景気が改善する要素が見当たらない。
		旅行代理店（マネージャー）	・単価は上昇しているが手数料商売のため、利益率は減少している。取扱数量でカバーできないと厳しくなるとみている。
		通信会社（営業担当）	・10月から食品などの値上げにより、出費を控えるとみている。景気が良くなる要因は見当たらず、現状が続くとみている。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・先行きの受注状況は前年割れの状態だが、昨今は直前の予約が続いており、着地は前年並みを見込んでいる。
		住宅販売会社（役員）	・近年の県内地価上昇率は全国1位となっているが、地価の高騰に加え事業資金の調達金利も上昇傾向であることから、住宅建設は伸び悩むことがみている。
		住宅販売会社（取締役）	・次期首相によっては、金融関係を始め、様々なところに影響がでる可能性があり、それに連動してこの業界も影響するとみている。
		スーパー（企画担当）	・8月は入域観光客数が100万人を超えたものの、10月には今年最多の品目数と予想される食品値上げが控えていることや電気料金の補助も10月分までとなっていることから、2～3か月先の景気はやや悪くなると考えられる。
		家電量販店（営業担当）	・生活家電は横ばい、デジタル家電は下向くとみている。
		乗用車販売店（経理担当）	・受注量が減少している。
		観光型ホテル（企画担当）	・9月の販売室数が前年比28%増加なのに対し、9月末時点での12月の予約室数は前年比19%増加となっており、プラス幅が縮小している。
	x	-	-
企業 動向 関連 (沖縄)		食料品製造業（役員）	・今後も前年比で消費が拡大する傾向は続いていくとみている。
		窯業土石業（取締役）	・見積依頼が緩やかに増加しており、3か月後は売上増加が見込める。
		広告代理店（営業担当）	・県内企業の販売促進活動は、個人消費などの足元の景気とは異なり減速傾向にある。
		会計事務所（所長）	・物価高騰、為替の円安傾向などの状況が当面続くとみている。
		-	-
	x	-	-
雇用 関連 (沖縄)		学校〔専門学校〕（就職担当）	・2026年卒向けの説明会や早期選考が始まることもあり、新年度を待たずに求人票が来るとみている。
		人材派遣会社（総務担当）	・これから更に物価が上昇し、買い控えが起きるとなかなか景気は良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新規求人数が減少し、新規求職者数は増加している。物価高の影響で、現在の賃金や年金で生活できないという声もあり、景気回復の要因となるような声が聞こえてこない。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・定額減税により一時的な経済活性化も期待されていたが身の回りでは変化がないとみている。
		求人情報誌製作会社（営業）	・例年は夏に比べ、秋の求人数が増加し、年末にかけて緩やかに減少していた。しかし、秋の増加がみられないことから、例年より求人数は減少するとみている。
	x	-	-